



# 第59回 J A 全国青年大会

## つなぐ

～「地域」と「農」の担い手として～



平成25年2月14日(木)・15日(金) 日比谷公会堂

全国農協青年組織協議会



# JA青年組織綱領

我々JA青年組織は、日本農業の担い手としてJAをよりどころに地域農業の振興を図り、JA運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えたJAの発展のため、自らの組織であるJAの事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈)本綱領は、JA全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべきJA青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成 17 年3月 10 日制定)。

# 第59回JA全国青年大会 資料目次

第59回JA全国青年大会の開催にあたって	2
第59回JA全国青年大会スローガン	3
第59回JA全国青年大会日程	4
日比谷公会堂非常時避難順路	5
ブロック別座席図	6
都道府県組織別出席者数	7
平成24年度JA全青協活動報告（経過報告）	9
〈参考資料〉平成24年度JA全青協役員体制	21
平成24年度JA都道府県青年組織一覧	22
平成24年度JA全青協主要活動詳細	23
ポリシーブックにかかる米国視察報告	40
平成24年度JA全青協活動日程	42
「JA青年の主張全国大会」「JA青年組織活動実績発表全国大会」 審査委員長 野村一正氏 紹介	45
平成24年度「JA青年の主張全国大会」	49
平成24年度「JA青年組織活動実績発表全国大会」 （「千石興太郎記念賞」について）	73
平成25年度JA全青協 正・副会長立候補者紹介	111
各種要領等	
第59回JA全国青年大会 開催要領	119
平成24年度JA青年の主張全国大会 開催要領	120
平成24年度JA青年組織活動実績発表全国大会 開催要領	122
平成24年度手づくり看板制作運動ならびに全国コンクール 実施要領	124
平成24年度JA青年組織手づくり看板全国コンクール 審査結果	125
平成24年度JA青年組織手づくり看板全国コンクール 審査講評	128
JAグループ・関係団体事業活動広告	131

## 第59回JA全国青年大会の開催にあたって



全国農協青年組織協議会  
会長 遠藤友彦

本日ここに、全国各地から多数の盟友の参加のもと、第59回JA全国青年大会が盛大に開催できますことを、主催者として心より感謝申し上げます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災から2年が経とうとしています。全国の青年農業者は、発生直後から様々なかたちで復興を支援し、JA全青協としても「絆プロジェクト」として全国の盟友とともに継続的な支援に取り組んでまいりました。今年は、その「絆」をさらに広げ、多くの仲間につないでいくことを大切にしたい、という思いから「つなぐ」を今大会のスローガンとしています。

昨年の第26回JA全国大会ではJAグループを挙げて、次代の農業の担い手である我々青年農業者とともに、日本の農業・地域を支えていくということが決議されました。我々青年農業者は、こういった期待にしっかりと応え、JA経営・JA運動に参画していくべきと考えています。「地域」と「農」の担い手として、日本の農業と地域コミュニティの明日をつないでいくという責任感をもって、生産活動や地域活動を行っていかねばなりません。そして、これらを実現するためにも、ポリシーブックの取り組みを中心にJA青年組織の活動を通じて、地域農業・地域コミュニティのリーダーを育成し、JA経営へ参画して我々青年農業者の声をJAグループに届けていくことが重要です。

さて、TPPへの交渉参加について、JA全青協は一貫して反対を強く訴えてきました。昨年11月の国会議員会館前での座り込み、首相官邸前での抗議行動などには全国から多くの盟友が参加し、反対運動を展開してきました。しかしながら、政権与党の自由民主党は『「聖域なき関税撤廃を前提にする限り」TPP交渉参加に反対』としており、なお予断を許さない状況で、引き続き情勢を注視する必要があります。そして、TPPが農業だけの問題ではなく、食の安全や医療制度など国民の暮らしに甚大な影響を与えることを消費者に伝えていくことも含め、引き続きTPP交渉参加反対の思いをしっかりと発信していきましょう。

本日は各地の予選を勝ち抜いてきた「JA青年の主張」と「JA青年組織活動実績発表」の全国大会でもあります。各地区の代表として、熱い思いを全国の盟友に訴えていただき、地域と農業の担い手としての思いを多くの方につなぎ発展させてください。

2日間という短い期間ですが、第59回JA全国青年大会を皆で盛り上げていきましょう。



## 第59回JA全国青年大会スローガン

### ○ メインスローガン

つなぐ

### ○ サブスローガン

「地域」と「農」の担い手として

大会スローガンは、多数の応募作品の中から、12月18日（火）開催のJA全青協理事会で協議のうえ、鹿児島県農協青年組織協議会 副委員長（JAそお鹿児島青壮年部 松山支部）山口 真也 さんの作品をもとに、上記のように決定いたしました。

## 第59回JA全国青年大会日程

### 2月14日（木）

13:00	開会
13:00～13:25	主催者挨拶、来賓挨拶、友好団体メッセージ
13:25～13:30	大会スローガン紹介
13:30～13:40	平成24年度JA全青協活動報告
13:40～13:50	平成25年度JA全青協正副会長立候補者の決意表明
13:50～14:00	審査委員の紹介、審査基準説明等
14:00～15:00	JA青年の主張全国大会
<15分休憩>	
15:15～16:50	JA青年組織活動実績発表全国大会

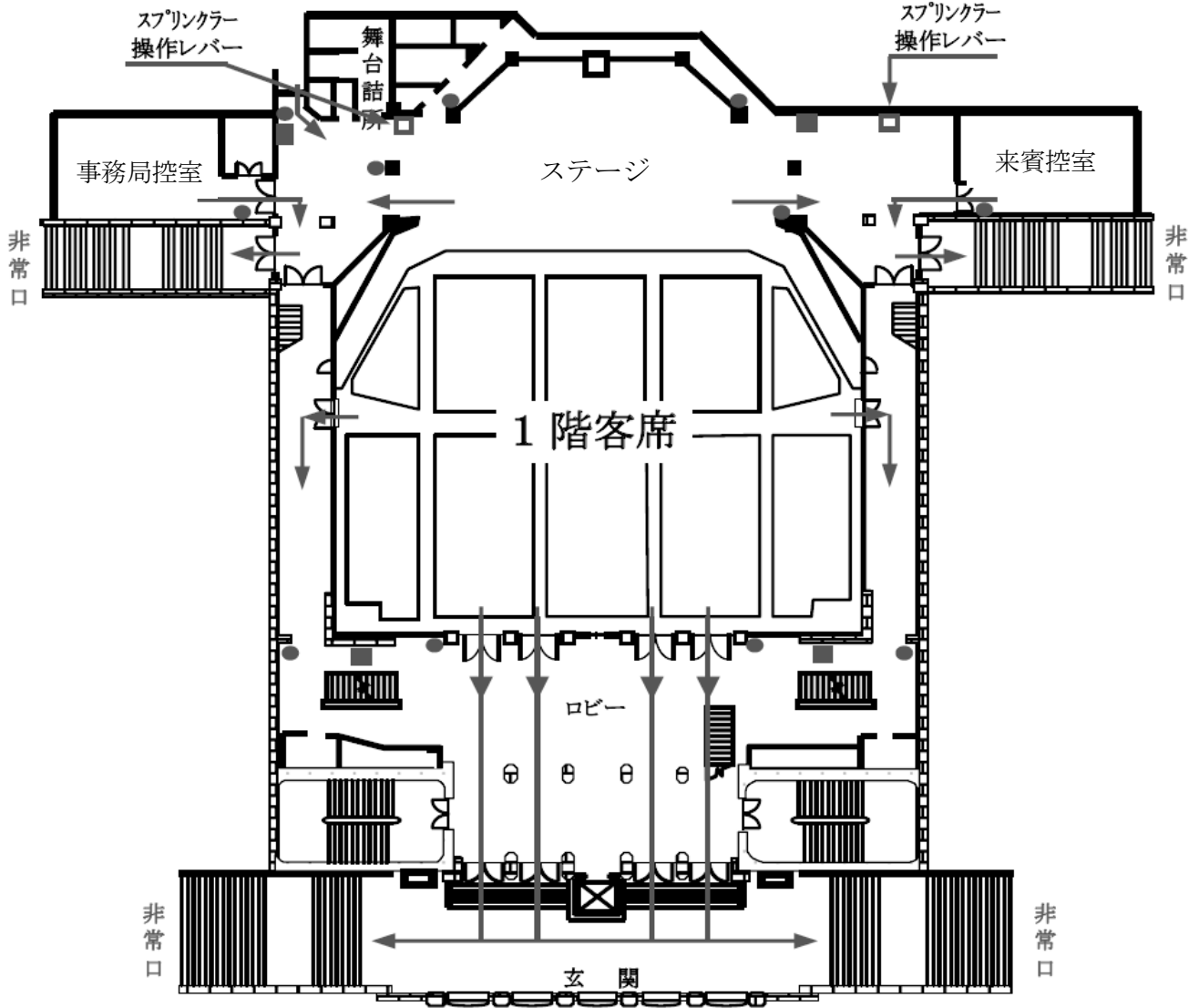
### 2月15日（金）

9:20～10:15	1県1名1分間スピーチ
10:20～11:25	パネルディスカッション テマ：「魅力ある青年部づくりとJA経営への参画」
<15分休憩>	
11:40～12:20	審査講評・発表、表彰式
12:20～12:30	大会宣言、特別決議、「君と」大合唱、閉会挨拶
12:30	閉会

以上



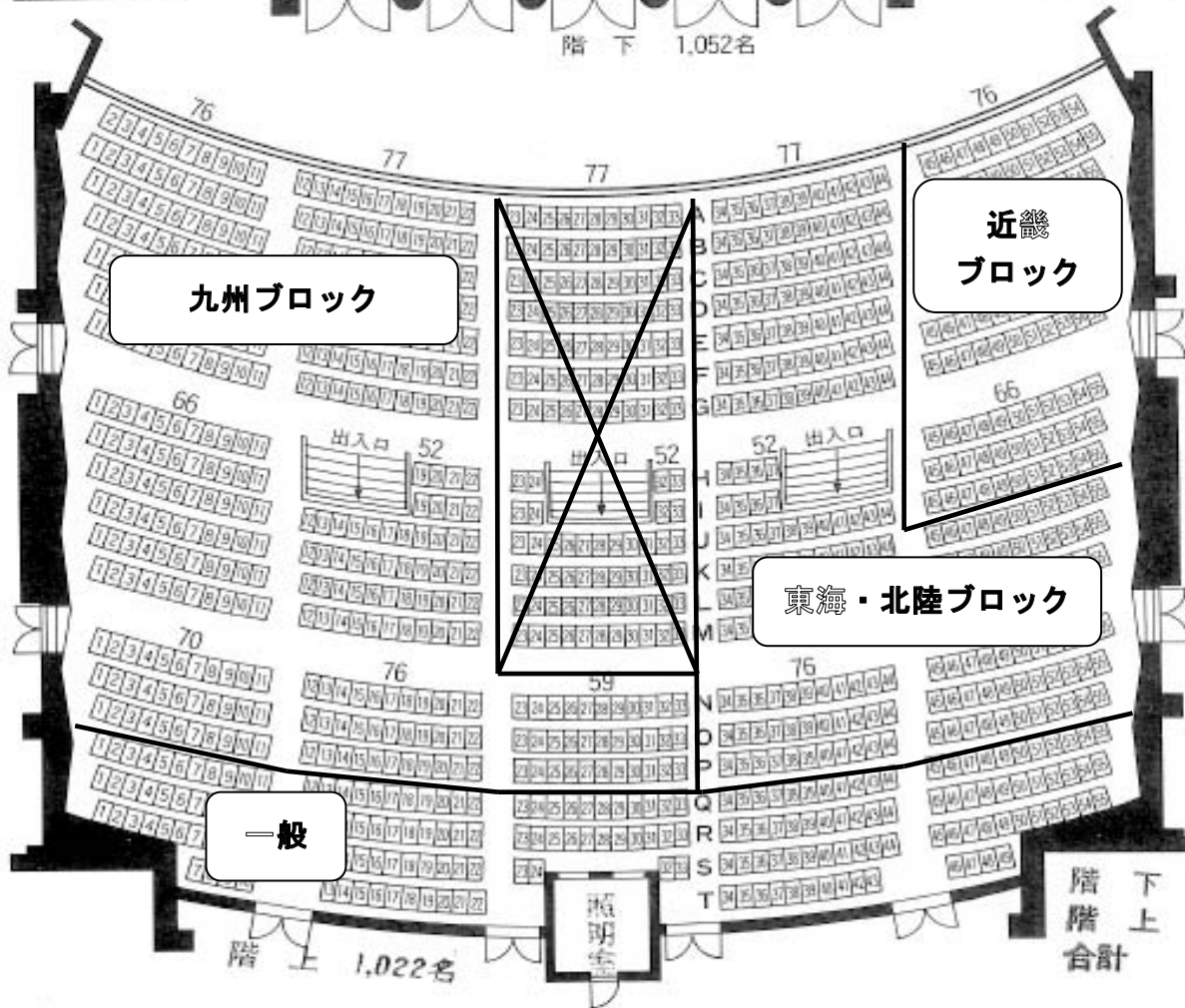
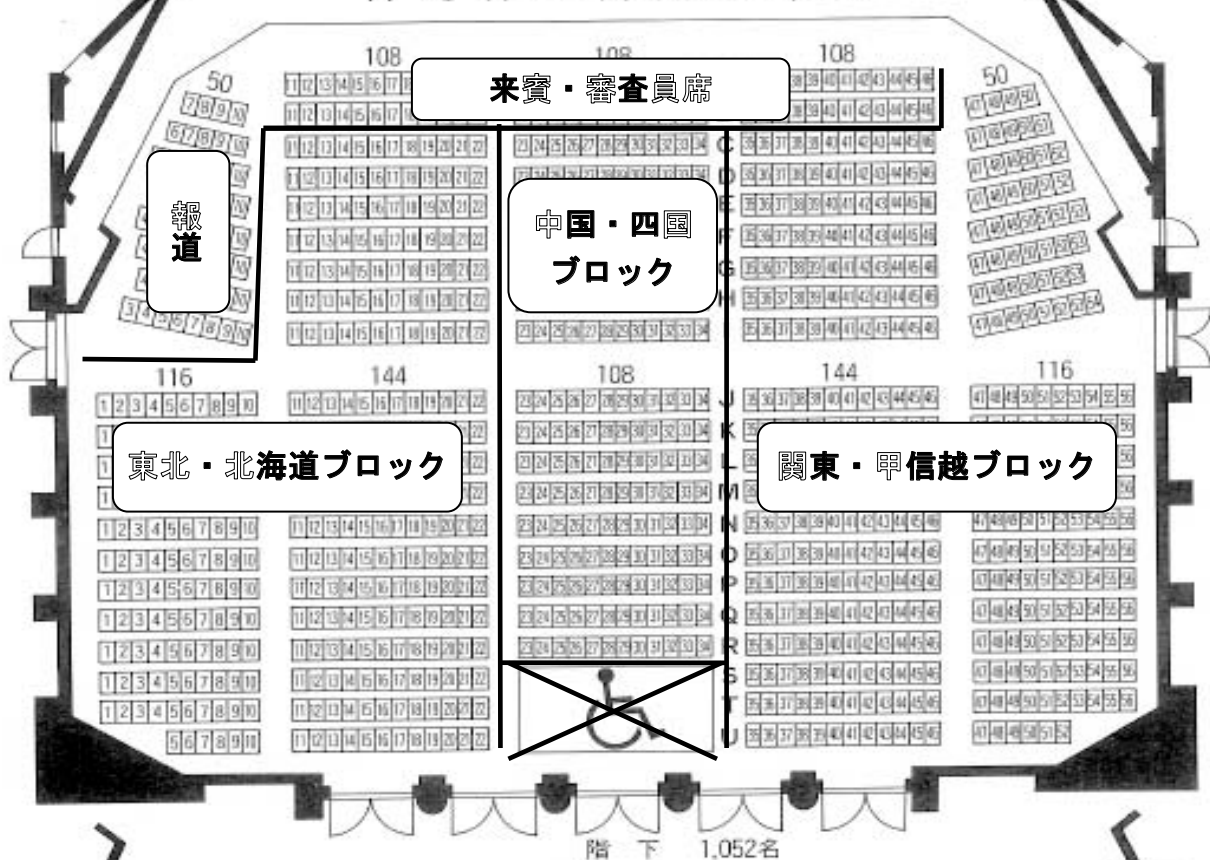
# 日比谷公会堂 非常時避難順路



(凡 例)

- 避難経路
- 消火器
- 消火栓

舞 台  
日比谷公会堂座席表





# 第59回JA全国青年大会都道府県組織別参加者一覧

2012/2/4 現在

都道府県	参加数		ブロック別 総数	
	2月14日	2月15日	2月14日	2月15日
北海道	58	58	東北・北海道ブロック 2月14日	2月15日
青森	14	14		
岩手	9	9		
宮城	12	12		
秋田	27	27		
山形	35	35		
福島	38	38		
茨城	7	6	関東・甲信越ブロック 2月14日	2月15日
栃木	67	12		
群馬	21	21		
埼玉	9	3		
千葉	9	9		
東京	145	45		
神奈川	75	66		
長野	25	25		
新潟	15	15		
富山	82	82		
石川	14	14		
福井	34	34		
岐阜	5	5		
静岡	45	43		
愛知	37	29		
三重	4	4		
滋賀	8	8		
京都	41	41		
大阪	4	4		
兵庫	20	20	近畿ブロック 2月14日	2月15日
奈良	11	11		
和歌山	16	16		
鳥取	30	30	中国・四国ブロック 2月14日	2月15日
島根	20	20		
岡山	12	12		
広島	21	20		
山口	30	30		
徳島	2	0		
香川	17	17		
愛媛	17	17		
高知	19	19		
福岡	116	116		
佐賀	64	64		
長崎	43	43		
熊本	103	86		
大分	0	0		
宮崎	27	27		
鹿児島	11	11		
沖縄	2	2	366	349
全国合計			1,421	1,220





# 平成24年度J A全青協活動報告

## (経過報告)

平成24年5月～25年1月





# 平成24年度JA全青協活動報告（経過報告）

平成24年5月～25年1月

## I 情勢

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、まもなく2年が経とうとしている。被災地の復興は始まったばかりであり、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染は風評被害とともに未だ収束の兆しすら見えない。また、気象庁が「これまでに経験したことがないような」という表現を用いた警報をしばしば発したように、局地的大雨や巨大な竜巻などの様々な災害を受け、自然とともに営みを行うという農業の原点を再認識した1年であった。JA全青協では「絆プロジェクト」として全国の盟友の協力により被災地支援に取り組み、その「絆」をさらに広げ、多くの仲間の想いをつないできたところである。

さて、TPPへの参加問題について、JA全青協は一貫して交渉参加反対の立場から活動を展開してきた。昨年11月には、APECでの交渉参加表明を阻止するべく、議員会館前での座り込み、首相官邸前での抗議行動を行った。その後、昨年12月の衆議院総選挙の結果「『聖域なき関税撤廃を前提にする限り』TPP交渉参加に反対」を公約に掲げる自由民主党が政権与党となったが、依然としてマスコミ・経済界等はTPP参加に向けた動きを取っており、注意深く情勢を分析し対応する必要がある。

また、我が国が有史以来経験したことのない急速な人口減少期を迎える一方で、発展途上国を中心に爆発的な人口増加が見込まれている。このような中、我が国の地域コミュニティの維持と安全な食料の確保を担うのは我々青年農業者であり、TPP参加反対の大義を広く消費者・国民に伝えていく必要がある。

昨年10月に開催された第26回JA全国大会では、「次代へつなぐ協同」をメインテーマにその担い手である我々青年農業者をJAグループとしてサポートすることが強く決議された。本年はこうした決議の実践段階となるが、ポリシーブックの取り組みをすすめる、組織活性化やリーダーの育成を図り、JA経営やJA運動に積極的に参加していくことが求められている。

このような情勢の下にあって、本年度は「JA青年組織中期活動計画（第3次）」の実践2年目として活動を進展させてきた。特に、ポリシーブックの作成・活用は農政運動強化、組織活性化、個々のスキルアップの活動を総合する取り組みであり、盟友の想いをつなぐ最強のツールであるため、ポリシーブックの作成・活用の促進を積極的に支援し、取り組みの意義・内容をJAグループ内外にPRしてきた。

JA青年部・青年農業者が地域と農業の担い手として、地域コミュニティの活性化と消費者に対する安全な食料の安定的供給に責任を持てるよう、引き続き、ポリシーブックの取り組み、TPP交渉参加断固阻止に向けた運動を軸に活動を強化していく。

## Ⅱ 主な活動報告（経過報告）

### 1. TPPへの参加断固阻止に向けた対応

日本の安全な「食」を支える農業や、農業に立脚した地域コミュニティを破壊するおそれのあるTPP交渉参加に断固として反対するため、農政運動における最重要課題との認識のもと活動を実施してきた。引き続きTPP交渉参加断固阻止に向けた活動を展開していく。

#### （1）単位組織、都道府県組織、ブロック組織の取り組み

地元選出国會議員等との対話の場面を設定し、意見交換を実施してきた。

また、一般市民等への対応として、街宣チラシの配布や「よい食プロジェクト」にかかる取り組みと連携したPR活動を展開した。

#### （2）JA全青協の取り組み

「JA全青協ポリシーブック2012」等を活用し、農水大臣をはじめとする関係閣僚への要請、国會議員等との対話を実施した。

また、24年11月にはAPECでの交渉参加表明を阻止するべく、国會議員会館前での座り込み、首相官邸前での抗議行動を行った。

#### 【TPPへの参加断固阻止にかかる関係閣僚への要請活動等】

平成24年	6月12日	自民党青年局との意見交換会の実施
	6月13日	岩本農水副大臣（当時）に対する要請
	9月18日	郡司農水大臣（当時）に対する要請
	10月25日	一斉要請活動
	11月15日	国會議員会館前での座り込み、首相官邸前での抗議行動
	11月21日	自民党農林部会との意見交換会の実施
平成25年	1月22日	林農水大臣に対する要請
	同	江藤農水副大臣に対する要請

## 2. 次世代農政運動の確立

### (1) 単組版・都道府県版ポリシーブックの作成支援

ポリシーブックを用いた活動のさらなる確立のために、未作成単組・都道府県に対して作成支援を実施してきた。引き続き、全単組・都道府県での導入を目指し、作成支援に取り組む。

#### 【全国域でのポリシーブックの作成にかかる研修会等】

平成24年 7月19日	第2回委員長・事務局合同会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り組み事例報告（JA仙台青年部）</li> <li>○ ポリシーブックの作成と活用に関するグループワーク</li> </ul>
8月 6日	JA経営担い手リーダー（青年・女性）セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業情勢にかかる講演 東北大学大学院・盛田清秀教授 「日本農業の課題とJAの役割 JAは日本農業の最も重要なプレイヤー」</li> <li>○ JAグループの事業概要把握 JA全農、農林中央金庫、JA共済連</li> <li>○ 第26回JA全国大会議案の理解促進</li> </ul>
10月24日	委員長・事務局拡大合同会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り組み事例報告 東北・北海道：JA山形おきたま青年部 関東・甲信越：JA越後中央青壮年連盟 東海・北陸：JA三島函南青年部 近畿：JAたじま豊岡青壮年部 中国・四国：防府とくち青壮年部 山口宇部青壮年部 九州・沖縄：JAふくおか八女青年部</li> <li>○ 作目部会における視察研修</li> </ul>
平成25年 1月10日	JA青年組織リーダー研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ファシリテーション研修 studio L・岡崎エミ氏</li> <li>○ 農業情勢にかかる講演 参議院議員・舟山康江氏 「農業政策の国際比較」</li> </ul>

### (2) 要請活動の実施

単位組織、都道府県組織、JA全青協と各段階において、ポリシーブックを活用した要請活動を行ってきた。引き続き、継続的な要請活動を行うとともに、必要に応じてポリシーブックの更新に取り組む。

### (3) 全国版ポリシーブックの作成と広報活動の実施

都道府県版のポリシーブックの内容を反映した全国版ポリシーブックの作成に向け

て取り組みを進めてきた。特に、作目部会（水田・青果・畜酪・都市農業）を設置し、個別テーマについての検討を行ってきた。

ポリシーブックにかかる一連の取り組みを内外に向けて広報するため、雑誌「地上」と連携した企画の実施（11月号）やJA全青協ホームページ、フェイスブックページでの広報を行ってきた。

さらに、ポリシーブックの活用について調査するため、24年11月にJA全青協執行部にて米国視察を行った。

### 3. 組織活性化と経営力向上にむけた、JAや外部団体等との連携強化

#### （1）JAグループとの連携強化

組織活性化や連携強化に向けて青年組織内部やJAとの対話を促してきた。特に、ポリシーブック作成を通じた各段階での意見交換や作成後の要請活動について支援を行ってきた。

##### ① JA全青協による活動

ポリシーブック作成による意見集約を行い、JA全国連の理事会・経営管理委員会等の基幹会議や、JA全中の本部委員会等に参加し積極的に発言を行ってきた。特に、JAの担い手対応の強化を促すため、JA全中、JA全農などとの連携・情報交換を実施してきた。第26回JA全国大会の決議通り、若い担い手経営体の要望が事業運営に反映されるよう、引き続き連携を強化する。

##### < JA全国連 >

全国農業協同組合中央会	理 事	遠藤会長
全国農業協同組合連合会	参 与	牟田参与
全国共済農業協同組合連合会	参 与	牟田参与
全国厚生農業協同組合連合会	参 与	大西参与
株式会社 日本農業新聞	取締役	遠藤会長
社団法人 家の光協会	理 事	山下副会長
株式会社 農協観光	取締役	牟田参与
JAバンク中央本部委員会	委 員	大西参与

##### < JA全中本部委員会等 >

食料・農業・農村対策推進中央本部委員会	委 員	遠藤会長
WTO農業交渉対策等委員会	委 員	遠藤会長
TPP対策中央本部委員会	委 員	遠藤会長
水田農業対策委員会	委 員	遠藤会長
青果対策委員会	委 員	藺田理事
畜産・酪農対策委員会	委 員	山下副会長



J A都市農業対策委員会	委 員	大西参与
くらしの活動推進委員会委員	委 員	下中理事
組織経営対策委員会	委 員	遠藤会長
J A広報対策委員会	委 員	宇川理事
担い手・農地対策推進委員会	委 員	山下副会長
人づくり運動推進委員会	委 員	石倉理事

< J A全中研究会等 >

水田農業政策研究会	委 員	勝部理事
J A都市農村交流会全国協議会	運営委員	益子理事

< J A全共連委員会等 >

自賠償共済運用益等使途選定委員会	委 員	勝部理事
地域交通事故対策審査委員会	委 員	勝部理事

② 単位組織、都道府県組織の活動支援

単組による J A との連携・情報交換の支援、都道府県組織による都道府県連合会との連携・情報交換の支援を行うため、研修会等に J A 全青協執行部や事務局が出講等を行った。

(2) 地域営農ビジョンの作成への参画

ポリシーブックを活用した取り組みの一環として、全国の集落における担い手経営体の明確化や育成、多様な担い手の役割発揮、農業ある地域づくりを目的とした「地域営農ビジョン」の作成について次代を担う J A 青年部が積極的に参画するべく、J A 全農や J A 全中と協力した体制の整備に取り組んでいる。

(3) 国際的活動の実施

国際的な食糧問題の現状を認識し若手農業者としての国際貢献を行うため、アジア諸国との E P A の枠組みのもとで相手国農業団体の要望に沿った支援が可能となる「アジアとの共生募金」を J A グループと連携し行ってきた。なお、1月～3月を集中取り組み期間として実施している。

(4) 情報機関紙との連携強化

「日本農業新聞」、家の光協会「地上」に対して各段階の青年組織活動の記事を積極的に掲載するよう働きかけてきた。特に、「地上」11月号に関しては「J A 青年組織応援企画」として特集内容についてもタイアップを行った。

また、「日本農業新聞」「地上」の普及・推進資材の配布協力や購読推進を実施した。

#### (5) 各種資材の普及・推進

青年部盟友の結束を高めるとともに、J A 青年組織を内外にPRするべく、J A YOUTHグッズ・J A 青年部手帳等の普及・推進に取り組んだ。

また、J A YOUTHマークの適切な利用拡大を図るため、J A YOUTHマークの商標使用許諾手続きについて検討を行っている。

#### (6) 農商工連携の推進（外部団体との連携）

若手農業者の仲間と連携し、新たな出会いとネットワークによりさらなるJ A 青年組織の活性化と盟友の研鑽を図るため、NPO法人農家のこせがれネットワーク・株式会社マイファーム・全国農業青年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）とともに「A g r i - S t a t i o n F e s t i v a l」の開催を後援するとともに、大西参与を実行委員として派遣している。

### 4. 個々のスキルアップを目指した人材育成

#### (1) J A 全国青年大会およびコンクール等の実施による人材育成

全国の青年部盟友に多くの出会いの場を設け、相互研鑽と結束力のさらなる向上を図るため、第59回J A 全国青年大会の開催に向けて準備に取り組んできた。

さらに、青年部盟友のより効果的なコミュニケーション能力、プレゼン能力の向上を目的に第59回J A 全国青年大会にあわせて「J A 青年の主張全国大会」「J A 青年組織活動実績発表全国大会」および「1分間スピーチ」の実施に向けて準備をすすめてきた。

また、農業のある地域づくりの大切さを地域の住民に対してアピールすることを目的に、手づくり看板制作運動を行った。加えて、優秀な手づくり看板の作成促進をはかるとともに全国コンクールを実施した。

#### (2) 組織リーダー養成、個人スキルアップにかかる研修

ポリシーブックの作成をリードし、組織活性化に向けた活動を行うリーダーの育成を図るため、1月に「担い手のJ A 経営への参画」「ポリシーブック作成のためのファシリテーション」をテーマに掲げた「J A 青年組織リーダー研修会」をJ A 全中と共催して開催した。

また、8月にはJ A 全中主催の「J A 経営担い手リーダー（青年・女性）セミナー」にJ A 全青協役員や全国の盟友が参加し、J A 経営やJ A グループの概況について学び、経営層候補としての識見を深めた。

#### (3) 会議等の実施

J A 全青協の運営方針等について協議するため以下の通り基幹会議を実施した。

平成24年	5月23日	第59回JA全青協通常総会
	5月24日	第1回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議
	7月19日	第2回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議
	10月24日	JA都道府県青年組織委員長・事務局拡大合同会議
平成25年	2月13日	第4回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議
	3月13日	JA全青協臨時総会（予定）
	同	第5回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議（予定）
	5月16日	第60回JA全青協通常総会（予定）

#### （４）会議等の運営方法の改善

会議等にかかる情報伝達を迅速に行うため、委員長・事務局合同会議における資料の事前送付、会議終了後に「出された意見と対応方向」の発出などのフォローを行ってきた。また、決定事項の明確化や一般盟友に対する情報公開への取り組みを引き続き実施する。

#### （５）情報ネットワークの拡充

JA青年組織の活性化、広報活動と盟友同士の交流を図るため、JA全青協Face book ページを開設した。また、適切な情報共有を図るため、ホームページの運営改善に取り組んでいる。

### 5. 「JA全青協 絆プロジェクト」の実施

平成23年3月11日に発生した東日本大震災への独自の支援活動として、「JA全青協 絆プロジェクト」を24年度も引き続き展開している。

#### （１）被災県への義援金について

イベント等に合わせて義援金を集めるとともに、各青年組織で集めた義援金の窓口となっている。（平成24年3月末までとしていた義援金受付の延長）

#### （２）ベルマーク運動の実施

東日本大震災で被害を受けた小中学校を支援するとともに、青年部盟友の負担感の少ない範囲で取り組みを継続的に実施するため、ベルマークの回収運動に取り組んでいる。

### (3) 支援即売会への参加

神田駅西口商店街振興組合が主催し、J A全中 営農・農地総合対策部有志が企画を行っている「神田夕やけ市」に、J A青年部の積極的な参加を促し取り組みの充実を図った。

## 6. J A全青協創立60周年への対応

J A全青協創立60周年への具体的対応について、理事会、委員長会議等にて協議・検討し、準備を進めている。

以上

## 〈参考資料〉

平成24年度JA全青協役員体制

平成24年度JA都道府県青年組織一覧

平成24年度JA全青協主要活動詳細

ポリシーブックにかかる米国視察報告

平成24年度JA全青協活動日程





# 平成24年度JA全青協役員体制



会 <sup>えんど ともひ</sup> 遠藤 彦

福 県農業協同組 青年連盟 員長



副会 <sup>やまた ひでと</sup> 山下 秀俊

長崎県農協青年部協議会 員長



理事 <sup>いしかわ かずのぶ</sup> 石倉 伸(東北北海道  
岩手県農協青年組織協議会 会長



理事 <sup>ましこ たけひろ</sup> 益子 文弘 関東甲信 )  
栃木県農協青年部連盟 員長



理事 <sup>かわ ゆんや</sup> 純矢 東海北 )  
A 富 県青壮年組織協議会 会長



理事 <sup>もなか とよひ</sup> 下中 豊久 近畿)  
J ならけ 青壮年部 員長



理事 <sup>かつべ よま</sup> 勝部 喜政 中国 国)  
根県農協青年組織協議会 会長



理事 <sup>そのだ よすけ</sup> 蘭 洋資 九州 縄)  
鹿児島県農協青壮年組織協議会 委員長

監事 関東甲信 ) <sup>りはら つよ</sup> 栗原 (J 東京青壮年組織協議会 員長

監事 ( 中国四国 ) : <sup>やまだ たいぞう</sup> 山田 泰三 (香川県農業協同組合青壮年部 委員長)

# 平成24年度JA都道府県青年組織一覧表

平成24年5月

都道府県	組織名	JA数	組織数	盟友数	組織化率	H23盟友数	盟友数増減 H24 H23
北海道	北海道農協青年部協議会	109	110	7,561	100.9%	7,580	-19
青森	青森県農協青年部協議会	10	9	1,013	90.0%	973	40
岩手	岩手県農協青年組織協議会	8	8	1,904	100.0%	1,937	-33
宮城	宮城県農協青年連盟	14	12	2,365	85.7%	2,369	-4
秋田	秋田県農業協同組合青年部協議会	15	15	1,874	100.0%	1,904	-30
山形	山形県農業協同組合青年組織協議会	17	16	1,896	94.1%	1,881	15
福島	福島県農業協同組合青年連盟	17	13	2,520	76.5%	2,672	-152
茨城	茨城県農業協同組合青年連盟	26	9	367	34.6%	435	-68
栃木	栃木県農協青年部連盟	10	7	1,830	70.0%	1,878	-48
群馬	群馬県農協青年部協議会	15	12	1,183	80.0%	1,220	-37
埼玉	埼玉県農協青年部協議会	21	8	676	38.1%	686	-10
千葉	千葉県農協青年部協議会	21	8	864	38.1%	883	-19
東京	JA東京青壮年組織協議会	16	13	2,017	81.3%	2,043	-26
神奈川	神奈川県農協青壮年部協議会	14	13	1,710	92.9%	1,729	-19
山梨	山梨県農業協同組合青年部協議会	11			0.0%		0
長野	長野県農業協同組合青年部協議会	20	15	1,126	75.0%	1,147	-21
新潟	新潟県農協青年連盟	26	11	1,661	42.3%	1,698	-37
富山	JA富山県青壮年組織協議会	17	15	2,934	88.2%	3,120	-186
石川	石川県農協青壮年部協議会	17	11	1,561	64.7%	1,855	-294
福井	福井県農協青壮年部協議会	12	8	2,060	66.7%	2,071	-11
岐阜	岐阜県農協青年部連絡協議会	7	5	728	71.4%	744	-16
静岡	静岡県農業協同組合青壮年連盟	18	19	2,034	105.6%	2,056	-22
愛知	愛知県農協青年組織協議会	20	15	954	75.0%	951	3
三重	JA三重青年部	15	3	95	20.0%	110	-15
滋賀	滋賀県農協青壮年部協議会	16	2	70	12.5%	67	3
京都	京都府農協青壮年組織協議会	5	4	507	80.0%	504	3
大阪	大阪府農協青壮年組織協議会	14	2	239	14.3%	120	119
兵庫	兵庫県農協青壮年部協議会	14	5	192	35.7%	198	-6
奈良	JAならけん青壮年部	1	1	248	100.0%	248	0
和歌山	和歌山県農協青年部協議会	10	7	533	70.0%	554	-21
鳥取	鳥取県農協青壮年連盟	3	3	470	100.0%	492	-22
島根	島根県農協青年組織協議会	11	9	621	81.8%	610	11
岡山	JA岡山県青壮年部協議会	9	3	202	33.3%	202	0
広島	広島県農業協同組合青壮年連盟	13	8	581	61.5%	591	-10
山口	山口県農協青壮年組織協議会	12	5	656	41.7%	705	-49
徳島	徳島県農協青壮年組織協議会	16	9	574	56.3%	601	-27
香川	香川県農業協同組合青壮年部	2	1	817	50.0%	819	-2
愛媛	愛媛県農協青壮年連盟	12	9	1,794	75.0%	1,824	-30
高知	高知県農協青壮年連盟	15	13	1,739	86.7%	1,752	-13
福岡	福岡県農協青年部協議会	21	20	2,209	95.2%	2,269	-60
佐賀	佐賀県農協青年部協議会	4	11	2,126	275.0%	2,164	-38
長崎	長崎県農協青年部協議会	7	7	1,331	100.0%	1,335	-4
熊本	熊本県農協青壮年部協議会	14	13	3,722	92.9%	3,744	-22
大分	大分県農協青年組織協議会	6	3	50	50.0%	53	-3
宮崎	宮崎県農協青年組織協議会	13	13	1,809	100.0%	1,843	-34
鹿児島	鹿児島県農協青壮年組織協議会	15	11	831	73.3%	802	29
沖縄	JAおきなわ青壮年部	1	1	607	100.0%	600	7
全国	全国農協青年組織協議会	710	515	62,861	72.5%	64,039	-1,178

※①JA数・組織・盟友数は24年4月1日現在

※②宮城県の盟友数については、沿岸4組織のみ22年4月1日現在の数値

※③合併JAのうち青年組織が未合併のため組織率が100%を超える

# 平成24年度JA全青協主要活動詳細

## 第59回JA全青協通常総会、

### 第1回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議（2012.5.23～24）

JA全青協は平成24年5月23日（水）に、第59回通常総会を開催し、遠藤友彦会長をはじめとする新執行部が発足、平成24年度体制がスタートした。

冒頭、来賓のJA全中・萬歳章会長から「青年部の皆様が実践されているポリシーブックの取り組みによって、組織活動の活性化と農政運動の強化を行っていくことが重要であり、ぜひ全国的にこれらの活動を盛り上げていただきたい。青年部の活動が元気でなければ、JAグループと日本の農業・農村に明るい未来はありません。農政や地域活動、営農において青年部が活動を深め、そして盟友数を拡大していくことが日本農業の未来にとって不可欠です。」と激励の言葉をいただいた。

総会では、平成23年度活動報告ならびに収支決算、平成24年度活動計画ならびに収支予算、平成24年度会費の賦課ならびに徴収方法、平成24年度JA全青協役員の選任、青年組織代表の全国連役員・参与候補等の推薦、平成24年度JA全青協顧問・参与の推薦の6つの議案について承認・決定がなされた。これにより、遠藤会長をはじめとする新役員が就任し、平成23年度執行部はこの総会をもって退任となるため、感謝状の贈呈が行われた。

その後の委員長・事務局合同会議では、平成24年度活動計画の具体化方策として、ポリシーブックにかかる取り組みや組織活性化と経営力強化に向けた取り組みについての協議などを行った。

翌24日（木）には、青年部運営にかかる研修会を開催し、JA青年部の意義と役割についての研修や組織活性化に関する実践報告を行った。また、大阪大学の小野善康フェローよりTPPに関連して「成熟社会における経済政策と国際化」と題した講演をいただいた。



J A青年組織綱領唱和の様子

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は23日、東京・大手町のJAビルで通常総会を開いた。新会長に遠藤友彦氏（福島県）を選任した他、2012年度の活動計画を決めた。遠藤会長は「日本農業の発展のために活発



遠藤会長

## 会長に遠藤氏 JA全青協

に意見を出し合い、皆でつくる全青協を目指したい。TPP参加断固阻止に向けたリーダーシップもしっかりと発揮していく」と決意を述べた。

（2面）インタビュー）来賓として出席したJA全中の萬歳章会長は「若さと行動力を発揮し、震災復興支援やTPP参加断固阻止に共に取り組んでいこう」と激励した。

12年度の活動計画では、TPP参加断固阻止に向けた対応として国会議員などへの要請活動や意見交換を継続して実施。TPPについての対話を通じた消費者団体や一般市民との信頼関係の構築にも取り組む。

また、各青年部が目指すべき農業の在り方を示したポリシーブック（政策集）については、全国版の作成や単版・都道府県版の作成支援を行い、政策提言や要請活動などへの積極的な活用を目指す。

日本農業新聞（5月24日）

遠藤会長就任に関する記事

# 率先行動目指す

全青協 積極的に政策提言  
役員会見

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は24日、新役員就任記者会見を東京・大手町のJAビルで開いた。遠藤友彦会長（前福島県農業協同組合青年連盟委員長）は「地域の担い手の中核として、次世代に農業をつなげるためにも、自分たちで考え、率先して行動できる全青協を目指し、皆で取り組んでいきたい」と決意を述べた。

2012年度は、環太平洋連携協定（TPP）参加断固阻止に向けた活動の他、各地域の課題をまとめるポリシープラック（政策集）の作成、東日本大震災からの復興支援などを柱に取り組み。

遠藤会長はポリシープラックの取り組みについて、「ポリシープラックは生き物だ。地域の事情に合った政策を提言できるよう自分たちで考え、活用し続けることが重要だ」と指摘。活用先進事例を発表するなどして知識やノウハウを共有していく考えを示した。

また、消費者に農業の現状や課題を知ってもらうため、「単組や都道府県版のポリシープラックを全青協のホームページで公開していきたい」との意向も示した。

## J A全青協の遠藤友彦新会長に聞く



**プロフィール** えんど う・ともひ 1974年生まれ。専ら農業家で、営農品目は水稲、畑作、施設野菜。福島県農業協同組合青年連盟委員長、全青協副会長などを歴任。

被災地の復興は予想以上に進んでいない。被災地がPPがヤマ場としても阻止しなければならぬ。

## 反TPPの輪を広げる 自ら考え行動を

「青年部活動をどう活性化させますか。」  
ポリシープラックの作成・活用を柱として、組織強化と人づくりをいかに進めなければならない。青年部員が自分で考え、行動しないと現状は変わらない。ポリシープラックは、地域の現状を把握し、必要な政策を浮き彫りにするもの。そこで考えられる力を活用して、組織力向上につなげる。

「ポリシープラックをどう活用しますか。」  
ポリシープラックは、作成する過程が重要。十分に議論し、話し合うことにより、要請という形で政治につなげていく。全ての都府県でポリシープラックを活用した要請ができるようにしたい。

「東日本大震災の復興にどう関わっていますか。」  
「TPPの交渉参加でどう反対していきますか。」

日本農業新聞（5月24日） 遠藤会長のインタビュー記事



遠藤会長（前列左）とともに団結を誓う新役員（24日、東京・大手町のJAビルで）

人でも二人でも青年部員を増やし、農業の良さを伝えることで次世代へとつなげていきたい」と力を込めた。

会長、副会長以外の12年度役員は次の通り。  
▽理事 石倉一伸（岩手県農協青年組織協議会会長） 益子丈弘（栃木県農協青年連盟委員長） 宇川輝矢（JA富山県青年組織協議会会長） 下中豊久（JAならげん青年部委員長） 勝部喜政（鳥取県農協青年組織協議会会長） 蘭田洋貴（鹿児島県農協青年組織協議会委員長）  
▽監事 川原剛（JA東京青壮年組織協議会委員長） 山田泰三（香川県農業協同組合青壮年部委員長）

日本農業新聞（5月25日）JA全青協役員会見に関する記事

## 岩本農水副大臣に経営の安定化を要請（2012. 6. 13）

6月13日（水）に遠藤会長らJA全青協役員は、農林水産省の岩本司副大臣（当時）を訪問しポリシーブックの取り組みを中心に活動の方針を説明した。「JA全青協ポリシーブック2012」も手渡し、青年農業者が抱える様々な課題について、意見を交換した。遠藤会長は「子供、孫の世代に地域をきちんと受け渡すために、5年後、10年後も営農を続けられるような政策を考えてほしい」と中長期的な経営安定化の実現などを訴えた。



岩本副大臣へJA全青協ポリシーブックを手渡す遠藤会長



経営の安定化について岩本副大臣と意見交換するJA全青協役員



**中長期的経営安定を**  
 全国農協青年組織協議会（JA全青協）の遠藤友彦会長は13日、農水省の岩本司副大臣を訪ね、「5年後、10年後も営農を続けられる政策を行ってほしい」と中長期的な経営安定の実現などを訴えた。岩本副大臣は「会長就任のあいさつをする遠藤会長（13日、農水省で）」

会長就任のあいさつで訪問し、遠藤会長はTP交渉参加を断固阻止するJA全青協の方針などを説明。新規就農者の所得や賃金を確保するための支援制度を充実させる必要性も力説した。JA全青協の行動目標や政策要望をまとめた「JA全

JA全青協会長が農水副大臣に訴え

青協ポリシーブック2012」も岩本副大臣に手渡した。

日本農業新聞（6月14日）岩本副大臣への要請に関する記事



# TPPで国民と対話

J A全青協ポリシーブック2012のポイント

	個人、青年部の取り組み	行政などへの要請
1、安定した所得確保と農業政策の実現	経営の収支、リスクを分析し、対応する力を通じ、意識改革を加え、アップ	農業政策の法制化、戸別補償を最低5年連続し、リスクに対応できる制度に
2、担い手対策	新規就業者の不安を軽減し、農業者の継承を支援する	税制措置や支援策の充実、基盤整備の推進
3、TPP	各都道府県、団体、個人による対話の場を設ける	県庁や都道府県、国民の意見を集約し、対話の場を設ける

## 初の全国版ポリシーブック 全青協

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は、自らの行動目標と行政への政策提案を盛り込んだ「ポリシーブック（政策集）」を初めて作った。①安定した所得と農業政策の実現②担い手対策③環太平洋連携協定（TPP）の三つをテーマに設定。TPPでは、交渉参加を阻止するため議員や行政に訴えるとともに、自ら学習や国民との対話を進めることを明記した。

ポリシーブックは、政策に対する要望だけでなく、青年組織が実践する課題解決策を盛り込むのが特徴。行政や地域住民の理解を得ながら農政運動を進めるのが狙い。これまではJAや都道府県の青年組織が作っていた。全国版は、全青協として政府や国会議員、他の青年団体と対話するために作った。

## 「担い手」など3テーマ盛る

初の全国版となったことからテーマを三つに絞った。安定した所得と農業政策実現に向けて経営課題を分析し、リスクに

対応できる力を付け、政策に関する勉強会を開くとした。担い手対策は青年組織として仲間づくりや研修の受け入れ、地域の振興を進める。一方、行政などには税制措置や支援措置を求める。TPPでは、JAグループやその他の団体との連携を重視。一人一人が自分の言葉でTPPについて明確な主張ができるよう学習する方針も盛り込んだ。

日本農業新聞（6月15日）

J A全青協版ポリシーブックに関する記事

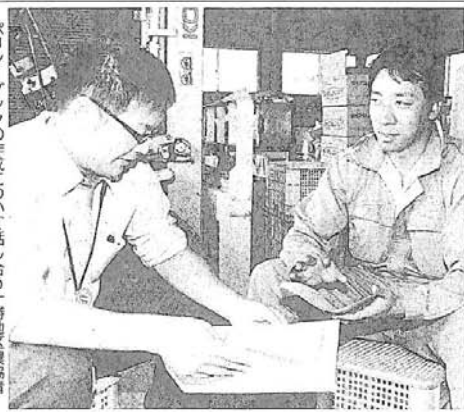
全国農協青年組織協議会（JA全青協）のポリシーブック（政策集）作りが、今年度本格化する。全国での作成を提起してから2年目となり、ノウハウが各地で蓄積され、その意義が浸透してきたためだ。地域の将来を見据えた、徹底した話し合いが各地で熱を帯びている。今年度は全国での作成を目指す。

## 全県でポリシーブック作成へ 全青協

ポリシーブックとは、その地域で抱えている課題や疑問点を青年部員同士で話し合い、解決策を検討するもの。そして、必要な政策があれば、自治体や政府に要請活動を展開する。青年部の「行動目標」であり、「政策要望」という二つの意味を持つ。

ポリシーブック作成で全国をリードするのが北海道の十勝地区農協青年部協議会だ。モデル地区として1年先行して作成に取り組

## 課題話し合い 改革の先頭に



ポリシーブックの作成について話し合う十勝地区農協青年部協議会の中橋会長とJA北海道中央会青年部事務局長の打ち合わせ

## 将来見据え意思結集を

組の代表が話し合い、十勝地区の意見としてまとめた。2年目は1年目の意見をたたき台に各単組で話し合い、さらに厚みをつけたい。柱には、①農地集積・規模拡大②新規就農者・雇用の確保③肥料などの価格④乳価⑤消費者への理解促進——を掲げた。

1、2年目は十勝地区の意見をまとめたが、今年度は各単組ごとのポリシーブック作成に取り組んでいる。十勝地区に24のポリシーブックが誕生する。それを集約し、再度十勝地区の意見としてまとめる。予定だ。環太平洋連携協定（TPP）問題などで、農家は自分の経営だけを考えていられない時代ではなくなった。ポリシーブックは農家の意識を高め、青年部の底上げになると中橋会長は強調する。

全青協の遠藤友彦会長は「今年が勝負の年」と位置付けている。現在は青年部組織のある46県域のうち39県域で県域のポリシーブックを作っている。今年度は全県域での作成が目標だ。遠藤会長は「ポリシーブックは、作成する過程が重要で、十分に議論することに意義がある。そして、全ての都道府県でポリシーブックを活用した要請ができるようにしたい」と強調し、全国での活発な活動と呼びかけている。

日本農業新聞（6月22日）都道府県版ポリシーブック作成に関する記事

## 第2回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議（2012.7.19～20）

JA全青協は7月19日（木）に、第2回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議を遠藤会長の地元である福島県で開催した。

合同会議冒頭では、JA福島五連の庄條徳一会長より歓迎と激励の挨拶をいただいた。

続いての協議事項では、ポリシーブックの取り組みに関する具体策や、作目部会の設置、JA全青協60周年記念事業などについて協議を行った。その他、JA全青協ホームページの取り組みに関連してFacebookなどの新たな情報交換ツールの導入を検討していくことを決定した。

また、7月をもってJA全国連の役職を退任する山本前参与に対して、遠藤会長より感謝状が贈呈された。

さらに、事例報告として、JA仙台青年部の佐藤善伸委員長からはポリシーブックの具体的な活用事例について、JAそうま青年連盟の遠藤一美委員長からは東日本大震災からの復興に向けた取り組みについての報告を受けた。

その後、研修会として、民主党の篠原孝衆議院議員より農業政策の現状と課題などについてご講演いただいた。

翌20日（金）には、ポリシーブックの作成・活用に関するグループワークを行った。また、水田・青果・畜酪・都市農業に分かれた作目部会ではポリシーブック作成に向けて流通や販売なども視野に入れた多角的な議論を行うことを確認した。その後、JA福島中央会農業対策部の遊佐正広部長より「東日本大震災・原発事故から15か月 ふくしま農業の今」と題した講演をいただいた。

午後には、福島市内の若手生産者の集まりである福島市農業後継者連絡協議会の紺野幸訓会長の圃場を訪問し、放射性物質に対する対応等について話を伺った。



ポリシーブックの活用にかかるグループワーク



# 現場の声 中央に

## 全青協政策集を積極利用

【福島】全国農協青年組織協議会（JA全青協）は19日、第2回JA都道府県青年組織委員長事務局合同会議を福島市内で開催、政策提言をまとめたポリシールブック（政策集）を充実し積極的に活用していくことを決めた。また、全青協60周年記念事業を全国規模で2014年に行うことを確認した。

遠藤友彦会長は「農政運動について現場の声を中央に届けるためのポリシールブックを活用していきたい」とあいさつ。JA福島五連の庄俣徳一会長が祝辞を述べた。「東日本大震災以降のJAそうま管内の状況について」をテーマに、福島県のJAそうま青年連盟の遠藤一美委員長が復興への取り組みや一層深刻化している風評被害などの現状を訴えた。宮城県内のJA仙台青年部の佐藤善伸委員長はポリシールブックの活用を具体的に事例を報告した。

この後、篠原孝元農水副大臣が「日本の農業の現状と課題、農業政策の目指すべき方向について」をテーマに講演した。

20日は、グループワークの研修、作目別部会、JA福島中央会の遊佐正広農業対策部長による「福島における放射性物質への対応の現状、課題

日本農業新聞（7月20日）  
第2回合同会議に関する記事

# 全青協に作目別部会 流通含め多角的分析

水田、青果、畜酪、都市農業

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は今年度、作目別部会を設置した。これまでも年度によって設置していたが、今年度はJA全農職員らの助言も受け、政策だけでなく市場流通や販売など、テーマを絞り深く掘り下げた検討を進める。水田、青果、畜酪、都市農業の4部会を設け、それぞれポリシールブック（政策集）を作成する。

メンバとなるのは、都道府県JA青年組織の代表1人ずつで、四つの部会のいずれかに所属する。作目別部会は7月の委員長・事務局合同会議で設置。作目の現状や課題を整理し、テーマを決めた。水田部会は、戸別所得補償制度をはじめとした農政と米の有利販売について検討する。最多の20人がメンバーとなる青果部会は、JA全農青果センターと連携。多様化する青果販売について視察を交え、JAの優良事例などを学ぶ。畜酪部会は、

口蹄（こうてい）疫を防ぐ。ポリシールブックには政 策提案だけでなく、青年 部員自らが取り組む事項 青協の会議で発表し、情 報を共有する。

日本農業新聞（8月22日）  
作目部会に関する記事

JA全青協

## 福島で委員長会議、震災への認識深める

2012年度2回めのJA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議が福島県福島市であり、JA全青協は4つの作目別部会を設置することを決定。さっそく、JA全中やJA全農の担当者も交えて、「水田」「畜産酪農」「青果」「都市農業」別に最近の情勢を共有し、意見を交換した。

会議は7月19～20日に開催。各部会では、自分たちの経営に直結する作目・テーマの議論を深めることで、販売力強化に向けたJAグループとの連携を図りながら、課題の把握・解決に向け、

作目別の「ポリシールブック」作成にもつなげる。

ポリシールブックは、JA青年組織として自分たちがめざす農業の姿、取り組むこと、要請することなどを盛り込んだ「方針・提言集」で、前年度から作成している。今回の会議でも、各都道府県の取り組み状況を確認し合ったうえで、作成上の課題や解決策、活用について討議した。宮城県のJA仙台青年部の佐藤善伸委員長による事例報告もあり、仙台市の震災復興計画に、農業者の立場から意見を述べ、ポリシールブックを活用していることなどが紹介された。

東日本大震災の被災状況や農業関係者の対応についても認識を深めた。自らも被災した福島県のJAそうま青年連盟の遠藤一美委員長が、地元状況について報告したほか、JA福島中央会農業対策部の遊佐正広部長は放射性物質への対応や課題について講話。また、参加者たちは福島市内でモモの圃場を視察し、除染への取り組みについて、生産者やJAの担当者から直接話を聞いた。



「地上」（10月号）

38 第2回合同会議に関する記事

## J A 経営担い手リーダー（青年・女性）セミナーへの参加（2012. 8. 6～7）

8月6日（月）、7日（火）に、山梨県石和温泉で開催されたJ A全中主催の「J A経営担い手リーダー（青年・女性）セミナー」に、遠藤会長らJ A全青協役員や全国の盟友が参加した。

冒頭、J A全中の大西茂志常務理事より「将来のJ A理事候補である青年農業者の皆様は、経営や農政に対する知識を学んでいただくことがJ Aグループの発展にとって不可欠」との挨拶をいただいた。

研修会では、東北大学大学院の盛田清秀教授より「日本農業の課題とJ Aの役割 J Aは日本農業の最も重要なプレーヤー」と題し、農業政策を軸に企業参入などについて講演があった。その後、J A全中営農・農地総合対策部の鶴留尚之次長が、担い手農業者がJ A経営に参画する意義について説明した。また、J A全農、農林中央金庫、J A共済連より、各団体の担い手支援に対する取り組みについて説明があった。

翌7日は、公認会計士の服部夕紀氏より「J A理事会における財務諸表、経営指標の見方のポイント」と題して、J A経営だけでなく農家経営にとっても不可欠となっている財務諸表に関して、グループワークを交えた講演があった。その後、年間約1,500億円の販売高を誇るJ A全農青果センター株式会社経営管理本部の森田聖マネージャーより「農産物のブランド化、マーケティングのポイントについて」と題して、ブランド化やマーケティングの考え方や、地域全体での産地づくりの取り組みの必要性について講演があった。また、J A全中・J A大会準備室の藤本卓氏より第26回J A大会協議案における担い手農業者対策や次世代の位置付けについて説明があった。



意見交換を行う青年部からの参加者



服部会計士によるグループワーク

## 郡司農水大臣にポリシーブックを提出 (2012. 9. 18)

9月18日(火)に、JA全青協の遠藤会長、石倉理事、益子理事、およびJA茨城県青年連盟の河原井委員長は、農林水産省を訪問し、郡司彰農林水産大臣(当時)に「JA全青協ポリシーブック2012」を提出した。中長期的な経営の安定化を考えた政策の立案とともに、若手農業者の声を政策に反映させるよう要請し、政策に関する意見交換を行った。

郡司大臣は「地域において集落を守っていくリーダーを育成することが大切である」と言われ、中長期的な販売戦略を考えるとともに、リーダーとして地域をまとめてほしいとの激励の言葉をいただいた。また、女性も活躍できる青年部であるべきとのご助言をいただいた。

全国農協青年組織協議会(JA全青協)は18日、ポリシーブック(政策集)を郡司彰農相に提出し、安定した所得を確保できる農業政策の実現などを要請した。

ポリシーブックは、地域で抱える課題を青年部の中で議論し、解決策を検討するもの。5月に完成した全国版を初めて農相に手渡した。ポリシーブックのテーマは①安定した所得と農業政策の実現②担い手対策③T P Pの3点。

全青協の遠藤友彦会長はT P P反対の座り込みを国会前で複数回行ったことを踏まえ、「われわれはT P Pの交渉参加に

# 安定した所得確保を

## 農相に全青協にポリシーブック提出

断固反対だ」とあらためて強調。また、農業は品目に合った政策が必要とし、「10、20年先を見越し、

た。これに対し、郡司農相は「地域をまとめて頑張ってほしい」と激励した。

要請は遠藤会長の他、石倉一伸理事、益子丈弘理事、JA茨城県青年連盟の河原井大介委員長が参加した。

日本農業新聞(9月19日)  
郡司大臣への要請に関する記事



郡司大臣へJA全青協ポリシーブックを手渡す遠藤会長ら



若手農業者の声を政策に反映させるよう郡司大臣に要請するJA全青協役員



## 第26回JA全国大会（2012.10.11）

10月11日（木）に、第26回JA全国大会が渋谷のNHKホールで開催され、JA青年組織からも多数の盟友が参加した。大会では、今後のJAグループの3カ年計画の主題として「次代へつなぐ協同」が掲げられ、JAグループを挙げて若い担い手農業者のサポートと青年組織の強化を行うことが決議された。

特に、若い担い手経営体の「JA役員就任といったJA経営への参画」や「担い手経営体と一体となった事業展開と組織づくりを強化」することが確認され、さらに、青年組織の活性化を図ることで「JA経営参画に向けたリーダー研修」や「ポリシーブックの作成・活用支援とその提案内容を反映した取り組み」を進めることが確認された。

JA青年組織からは、JA全青協の山下副会長が約3,000名の参加者を前に意見表明を行った。また、大会開始前のNHKホール入口では、盟友有志が全国各地からの参加者に挨拶を行い、青年組織活動のアピールを行った。



意見表明をする山下副会長



NHKホール前で青年組織のアピールをする盟友





## JA全青協

### 遠藤友彦 会長

大会のスローガンである「次代へつなぐ協同」が、取り組むポリシーフックの大きな役割を果たすのが青年部だ。それは農業だけではなく、地域の担い手としての課題を洗い出し、話し合っていく、在るべき姿を考えると、今後3年間は満足せず作りたいことに満足せず、地域を愛する思いだ。に、今後3年間はどうか実践他産業、子ども、親世代を含めて地域の活性化を目指す。ポリシーフックの活動を地道に行つことが、次代をつくることにもつながる。

10年後を見据えるには、今の課題を把握することが、

これからは高齢化で、農

# 能力高め 活動を強化

業をリタイアする人が増えてくるだろう。担い手への土地の集約が進む。そこで土地を得て大規模になった担い手組織が、JAを離れるのではなく、青年部組織に入ってJAを活用する仕組みを作りたい。そのためは整える必要がある。農業あつてのJAグループだ。青年部も勉強をしながら、JAと課題を議論し、ともに進んでいきたい。

6次産業化への支援策や、青年就業交付金など、担い手向けの政策が充実してきている。これからは農業に関わる若手にとってチャンスの時期だ。青年部一人一人が自分を見つめ、自らを高める。地域の商工会など他産業との連携にも取り組む。

自分の能力を最大限に発揮することが、農業を切り開き、青年部や地域の活性化につながる。青年部を次代につなげるためにも、活発な活動を続けていきたい。

日本農業新聞（10月11日）  
大会議案にかかる遠藤会長インタビュー記事



## JA全青協 支店との連携重視

### 山下秀俊副会長

全青協が重視するのは、生産現場に最も近いところにいるJA支店との連携だ。JAの広域合併が進んでから、職員数も減り、組合員との距離が遠くなったという声がある。JAの組織そのものの体制も弱体化しかねない。今こそ組合員の仲間、青年部の仲間との絆を重視して、

### 農業の現場から意見表明

地域を守るのが協同組合の力だ。青年部では、組織力の維持と地域の基盤強化のために、ポリシーフック（政策集）をまとめる。取り組みや課題をまとめて、積極的に提言をすることで、地域とのつながりを強め、取り組みにいかしていく。地域の組合員とともにあり続けるJAにしなければならない。

日本農業新聞（10月12日）  
第26回JA全国大会に関する記事

## J A 都道府県青年組織委員長・事務局拡大合同会議 (2012. 10. 24~25)

J A 全青協は10月24日(水)に、J A 都道府県青年組織委員長・事務局拡大合同会議(第3回合同会議)を東京ビッグサイトで開催し、全国から約150名が集まった。

ポリシーブックの取り組みや、J A 全青協60周年記念事業、J A 全青協Facebookページの導入、第59回J A 全国青年大会等について協議を行った。

また、ポリシーブックにかかる事例報告として、全国6ブロックそれぞれから、単組の取り組み具体例について報告を受けた。

翌25日(木)は、一斉要請活動として、各都道府県選出の国会議員を訪問し、ポリシーブックを手渡すことを通じて、T P P 交渉参加反対や安定的な農業政策の実現などを要請した。

午後は、作目部会に分かれ、現地視察やグループワークなど作目ごとの課題の取りまとめに向けた活動を行った。

全青協都道府県  
合同会議

意思疎通、異業種連携…

# 政策集の成果確認

全国農協青年組織協議会(J A 全青協)は24日、東京都内でJ A 都道府県青年組織委員長・事務局拡大合同会議を開き、全青協として進めるポリシーブック(政策集)の実践報告をした。6県7 J A 青年組織がその作成方法や活用実績を説明。青年部の意思疎通や地域の課題解決、異業種との連携など多くの成果が生まれていると報告した。

全国のJ A 青年組織メンバーや事務局員ら150人が参加。全青協としてJ A や都道府県レベルでの作成を支援することや、11月に全青協メンバーが米国を視察することも確認した。

ポリシーブックは2011年度から全国のJ A 青年組織で作成を進めている。実践報告では、J A 山形おきたま青年部が750人と部員が多い中で、グループに分けて意見を吸い上げた過程を報告。行事の反省会で意見を集めたり、5分野に分けて意見を集約するといった工夫を説明した。J A Y O U T H 山形の萩原拓重会長は「自分たちが組織を変えていく意識が必要だ」と話した。

新潟県のJ A 越後中央青壮年連盟は支部の取り組みを報告。果樹園に隣接する住宅地の住民とあつれきが生まれていた

め、この原因や自ら取り組めること、行政への要望をポリシーブックにまとめた。これを基に、県議会議員やJ A と話し合うことで、建設業者が農村の居住環境を新規住民に丁寧に説明することにつながったとした。静岡県のJ A 三島函南青壮年部は、ポリシーブックを活用することで市

日本農業新聞(10月25日)  
拡大合同会議に関する記事



都道府県  
JA青年組織

### 政策集渡し一斉議員要請

# 現場の声 農政に

## 地域農業など意見交換

全国の都道府県JA青年組織は25日、東京・永田町の議員会館などを訪れ、都道府県選出の国会議員に一斉要請活動を行った。各青年組織で作ったポリシーブック（政策集）を手渡すなどして、地域農業や農政の課題について意見交換。環太平洋連携協定（TPP）交渉に参加しないことや現場の声に基づいた農政の実現を求めた。

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は都道府県青年組織代表者らによる24日の会議で、全国の



江藤農林部会長と意見交換する落合委員長（前右列から3人目）、遠藤会長（同2人目）ら（25日、東京・永田町の議員会館で）

日本農業新聞（10月26日）  
一斉要請活動に関する記事

ポリシーブック作成・活用状況を報告した。この機会にポリシーブックを最大限活用しようとする議員に一斉要請をした。JA宮崎県農青協は落合博美委員長ら5人が県

選出国会議員を回った。民主党の川村秀三郎国土交通政務官に対し、落合委員長は「いろんな人と話すきっかけにして、地域や農業を良くしていきたい」とポリシーブックの趣旨を説明。川村政務官は消費者に農業を理解してもらおうきっかけにも生かしてほしいと述べた。自民党の江藤拓農林部

会長への要請には、全青協の遠藤友彦会長と山下秀俊副会長が同行。TPPや重油高騰対策などで意見交換した。江藤部会長は「きめ細やかな政策を進めるため、地域ごとに課題や要請をまとめる意義は大きい」と評価。継続的な意見交換を提起した。

全青協は同日、水田、青果、畜酪、都市農業の4部会に分かれた研修や現地視察も行った。

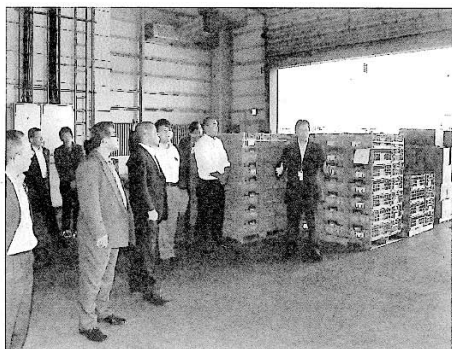
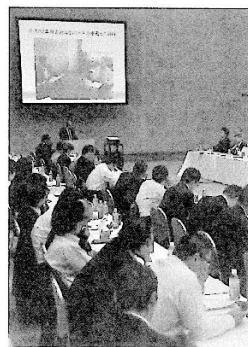
### JA全青協

## ポリシーブックの活用事例や青果物流通を学ぶ

JA全青協は、JA都道府県青年組織委員長・事務局拡大合同会議を東京都で開催。12年10月24日、各種協議・報告のほか、JA青年組織がめざす地域農業のあり方などについて話し合いをもとに、文書化した方針・政策集「ポリシーブック」の作成・活用事例の発表会を行った。わかりやすさを追求した作成事例、都市部から農村地域へ移住してきた住民とのつきあいを意識した作

成事例、設立して間もないJA青年組織の作成事例、地元市長との対話を実現した活用事例などを、東北・北海道農協青年組織協議会をはじめとする6ブロックの代表者が発表した。

25日は4つの作目別部会に分かれて研修を行った。参加人数が約50人と、もっとも多い青果部会は、埼玉県戸田市にあるJA全農青果センター（株）を視察。事業概要をはじめ、青果物流通やきめ細かい鮮度管理の仕組み、青果物ブランド化の事例などの説明を受けた。その後、青果物の包装・加工場、約1400tの収容能力を持つ冷蔵庫、荷さばき場などを見学した。最後に同センターの職員と、同センターの今後の事業展望やJA青年組織による農産物のブランド展開などについて意見を交換した。



「地上」（1月号）  
拡大合同会議に関する記事

## T P P 交渉参加断固阻止にかかる 議員会館前座り込み、首相官邸前抗議行動（2012. 11. 15）

11月15日（木）にJAグループが「T P P 交渉参加断固阻止緊急全国集会」を開催するの  
に合わせ、全国から結集したJA青年組織盟友は、国会議員会館前での座り込みを終日行った。

さらに、夕方には全国集会参加者も集結し、首相官邸前でシュプレヒコールを行うなどT P P 交  
渉参加断固阻止に向けた抗議行動を行った。首相官邸前抗議行動には、JA全中・萬歳章会長とJ  
A全国女性協・瀬良静香会長も駆けつけて下さり「農業は命を支えるもの。交渉参加は阻止しなけ  
ればならない。」とJA青年組織と一致団結して交渉参加反対を訴えていくことを強調された。



首相官邸前でTPP反対を訴えるJA全青協のメンバー15日、東京・永田町

全国農協青年組織協議  
会（JA全青協）のメン  
バーは15日、東京・永田  
町の首相官邸前で環太平  
洋連携協定（TPP）交  
渉参加に断固反対する抗  
議行動を行った。若手農  
業者に加え、JA女性部  
員、消費者団体など50  
0人が集結、夕暮しの寒  
風が吹く中、「TPPで  
安全・安心な食卓が崩壊  
する」と筆を突き上げな  
がら声を響かせた。

若手農業者らは頭に  
TPP交渉参加断固反  
対と書いた鉢巻きを締  
め、「国内の農業が壊滅す  
る」「農業の問題だけで  
ない」と危機感をにつづ  
た旗を掲げて抗議した。  
500人が声をそろえ  
たシュプレヒコールで  
「日本の地域社会を支え  
ているのは農業だ」「政  
府はわれわれ農業者の  
声を聞け」と官邸に向か  
って声高に叫んだ。

全青協の遠藤友彦会長  
は「農作業が忙しい中  
でも、全国から仲間が危機

### 農の危機訴え 全青協

感を持って駆け付けた。  
TPP交渉参加を断固阻  
止し、日本の美しい豊か  
な農村を次世代につなぐ  
ためにも、一丸となって  
全青協のメンバー500  
人が座り込んだ。JA福  
野青年連盟の山口淑幹  
会長は、東日本震災か  
ら1年半が経っても復興  
が進まず、「風評被害」  
で離農する人が出ている  
た。

なければならぬ」と強  
調した。

官邸近くの衆院第一議  
員会館前では、早朝から  
阻止するため声を上げ続  
ける」と憤る。

夜行バスで上京したJ  
A富山青年組織協議会  
の宇川純矢さんは「交渉  
参加は子孫へのひどい遺  
産になる」と語気を強め



TPP交渉参加反対の想いを語るJA道青協の黒田会長

日本農業新聞（11月16日）  
座り込み・抗議行動に関する記事

道徳部部長はTPPに反対を表明し、市民の声を聞く（東京・永田町）



「TPP（環太平洋連携協定）交渉参加は絶対反対！」。東京都内で15日、全国の農家や超党派の議員、市民団体が集まり抗議行動で交渉参加断固阻止を訴えた。（上面参照）

J・Aグループは、平河町の砂防会館で農委全国農会開いた。1500人の参加者が壇上を員詰め、演壇裏の超党派の「交渉参加反対」のメッセージやあいさつに大きな拍手で応じた。一方、超党派の議員は、永田町の農政配委前で超党派議員・国民農会議員、東京J・AコミュニティでのTPP交渉参加表明阻止を決議した。J・A青年部員は全国農会を前に、永田町の議員会館前で座り込みを行った。農ホールやむしろ道に「交渉参加反対」と大書し思いを訴えた。全国農会後には座り込みで青年部員と農家が集結、「TPP反対」「地域を壊すな」と勢を突き上げた。市民団体が抗議行動を行い、国会周辺に「反TPP」の声をだしました。



座り込み抗議行動に座り込みTPP交渉参加に反対を表明するJ・A青年部員（東京・永田町）

# 「地域壊すな」

農家が  
議員が  
市民が





JA YOUTH

「地上」(2月号) 座り込み・抗議行動に関する記事

# 全力青年 全力農民 全力反対

TPP  
断固反対の  
道理



この説話が読者に届く頃には新しい政権・内閣が勃動しています。ただな首相になっていようとも多くの国民がTPP(環太平洋連携協定)に不安を感じ、反対している民衆をくぐぐと国進をきいてれば、TPPの交渉参加や離脱をものへの参加の表明などしてないはずだと多くの人が思っています。

「主権者 全力で行動するの」がモットーの青年農業者たち。農業者として、また主権者として、農業協会の政治の動きにはつねにアノ手を張り、国政や生活に悪い影響が出そうなどがあれば、行動しています。もちろん、TPPに闘する動きにも積極的です。

野田佳彦首相によるTPP交渉参加の表明が懸念された一月一八(一)二〇日の参議院サリットや日本会議会議の直前、もろには、突然、首相が表明して決まった一月一六日の衆議院解散の目前。政局の強送ど、TPPへの対応が不透明ななか、JA青年組織は行動を起しました。

TPP交渉参加への断固反対の姿勢を改めて示し、参加へのめりの姿勢を断る言相にだらして抗議するため、一月一五日、あちよ二〇〇人のJA青年部員が全国各地から仲間とともに東京・永田町の衆議院会館前に集結し、朝から昼いひひ。午後には首相官邸前で「アノアノ」一気となって断固反対の拳を突きました。

今回、抗議行動の前々日の夕方、上野をめぐり、JA青年部員もいました。思いだつたなら多くに動くのが青年農業者です。

「三年じぶり、政権・内閣が」いふこといふこと、彼らが全力で行動することに変わりはありません。二〇一二年三月一〇日(日) 〇日(日)



## J A 青年組織リーダー研修会 (2013. 1. 10~11)

平成25年1月10日(木)、11日(金)に、「担い手のJA経営への参画」「ポリシーブック作成のためのファシリテーション」をテーマに掲げ、「JA青年組織リーダー研修会」をJA全中と共催して開催し、全国からJA青年組織のリーダー層約60名が参加した。

研修会では、JA広島農青連・委員長、JA全青協・副委員長(第26代)を歴任されたJA全中・村上光雄副会長より「青年部OBからのメッセージ」と題した講演をいただき「想いをまとめ共有し、周囲を巻き込んで解決するというポリシーブックの取り組みは青年部活動の生命線」であるとの力強いメッセージをいただいた。その後、全国で住民と地域づくりに取り組まれているstudio Lの岡崎エミ氏より、ポリシーブック作成を踏まえたファシリテーション(会議のすすめ方、意見のまとめ方)の講演と実践形式のグループワークの指導があった。

翌11日は、家の光協会地上編集部の神菌太郎編集長より「JA青年組織の多面的機能を使いこなそう」と題してJA青年組織のJAグループでの位置付けやJA経営への参画について講演があった。その後、舟山康江参議院議員より「農業政策の国際比較」と題して、世界各国の農業政策、特に担い手に対する支援を中心とした政策について講演があった。

また、JA全青協執行部より11月のポリシーブックにかかる米国視察の報告を行った。



ファシリテーションの研修として  
グループワーク研修に取り組む参加者



リーダーとして会議の進め方を学ぶJA青年組織代表ら(10日、東京・大手町のJALビルで)

### J A 青年組織リーダー研修会

# 政策集に多彩な意見を 農業への思い共有へ

全国農協青年組織協議会(JA全青協)とJA全中は10日、2012年度JA青年組織リーダー研修会を東京都内で開いた。各組織でポリシーブック(政策集)の作成に  
つなげるため、会議の進め方や意見のまとめ方など具体的なノウハウを学んだ。実際に議  
論をしながら「相手の意見を否定しない」「全員が意見を出す」など、多くの意見を生か  
す手法を身に付けた。11日まで。

全国の準協や県域の青年組織代表ら約60人が参加した。全国で地元住民が主役となった地域づくりを支援しているstudio Lの岡崎エミさんが講師を務めた。6人ごとの班に分かれて、JA青年組織がどうしたら地域に貢献できるかをテーマに、3時間わたって議論。まず地域の課題や未来像を一人ずつ紙に書きだして整理した。全国の準協や県域の青年組織代表ら約60人が参加した。全国で地元住民が主役となった地域づくりを支援しているstudio Lの岡崎エミさんが講師を務めた。6人ごとの班に分かれて、JA青年組織がどうしたら地域に貢献できるかをテーマに、3時間わたって議論。まず地域の課題や未来像を一人ずつ紙に書きだして整理した。

研修会では1979年に全青協副委員長を務めた全中の村上光雄副会長が講演。ポリシーブックについて「思ったことを共有し、主張をまとめることは青年部活動の生命線になる。継続していくことが重要だ」と指摘した。



## 林農水大臣、江藤農水副大臣と農政にかかる意見交換を実施（2013. 1. 22）

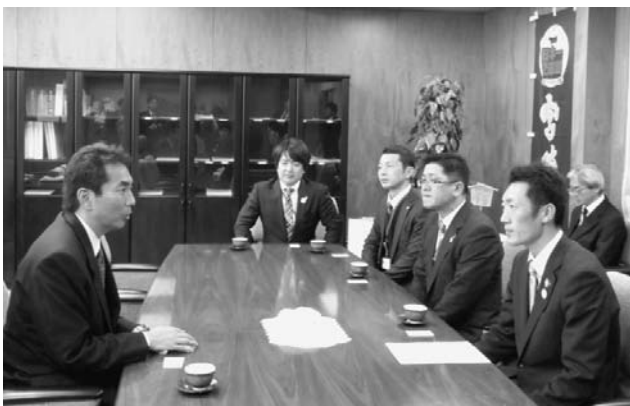
1月22日（火）に、JA全青協の執行部は農林水産省を訪問し、林芳正農林水産大臣、江藤拓農林水産副大臣と相次いで面会し、意見交換を行った。

林大臣に対しては「JA全青協ポリシーブック2012」を手渡すとともに、JA青年組織の概要や取り組み、そしてTPP交渉参加反対について説明した。林大臣からは「価格政策に留まらない中長期的な政策を考えていくことが大切。ポリシーブックを用いて積極的に斬新な意見を提案してほしい。」とご助言をいただいた。

江藤副大臣に対しては、第58回JA全国青年大会でポリシーブックにかかるパネルディスカッションにご参加いただいたこともあり、ポリシーブックの取り組み状況や成果について説明した。江藤副大臣からは直近の農政にかかる情勢報告をいただいた。

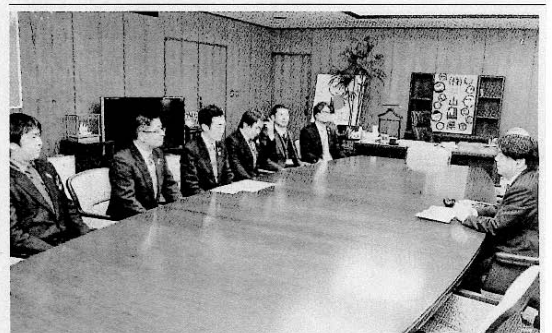


林大臣へJA全青協ポリシーブックを手渡す遠藤会長



農政情勢について江藤副大臣と意見交換するJA全青協役員

**TPP 「反対の方針貫く」**  
**JA全青協 農相らに決意表明**  
 全国農協青年組織協議会（JA全青協）の代表 江藤拓副大臣と相次いで22日、東京・霞が関の国会談し、TPP交渉参加 関税撤廃を前提とする限



林農相にTPP交渉参加反対を訴える遠藤会長（左から3人目）ら（22日、東京・霞が関の農水省で）

り交渉参加に反対」など6項目からなる衆院選での自民党の公約を守る考えを強調した。全青協の遠藤友彦会長は「TPP交渉参加反対の方針を貫いていく」とこの決意を表明した上で、この訴えに沿った対応を求めた。林農相は「TPPについて、中身が分かっていない部分があるので、影響試算などによる数字を出して議論する」との考えを示した。さらに「私自身がまとめた途（の）公約は前提」と述べた。江藤副大臣も公約を順守する考えを強調したという。自民党の公約となったTPPへの対応方針は、林農相が同党TPP検討小委員長として取りまとめた。政策要望や自ら取り組む項目をまとめる全青協のポリシーブック（政策集）についても意見を交わした。林農相は「たいへんいい取り組み」と述べ、現場の声を政策に生かす方針を示した。国会には山下秀俊副会長と理事4人が同行した。

日本農業新聞（1月23日）林大臣との面会に関する記事

# ポリシーブックにかかる米国視察報告

## (2012. 11. 22～29)

J A全青協の調査団（遠藤友彦会長、山下秀俊副会長、藺田洋資理事）は11月22日から29日にかけて、米国の農業団体、全農グレイン株式会社、在米日本大使館を訪問した。

J A全青協では、平成22年度からポリシーブックの取組みを開始したが、ポリシーブックの意義や成果が全国の青年組織に十分に浸透していないことへの課題解決および穀物相場上昇による飼料価格の高騰が畜産・酪農農家の経営を圧迫している現状をふまえた米国穀物事情の把握を目的に、平成22年3月に引続き、米国を視察することとした。

ポリシーブックの取組み実態について、米国の二大農業団体ナショナル・ファーマーズ・ユニオン（NFU）とアメリカン・ファームビューロー・フェデレーション（AFBF）、さらにNFUの傘下組織ロッキーマウンテン・ファーマーズ・ユニオン（RMFU）に訪問しヒアリングを行った。

NFUでは、①ポリシーブックを改定するための民主的プロセス、②ポリシーブックの取組み成果の記者会見、会員への開示、③表彰制度の導入による新規会員獲得の取組み等についてヒアリングを行った。

つづいてAFBFでは、①ポリシーブックの確実な実践に向けた重点項目の選定、②会員へのポリシーブックの理解醸成のための政策背景情報の会員への送付、③ポリシーブックの取組みにかかるロビー活動等についてヒアリングを行った。

さらに、RMFUを訪問した際はコロラド州政府の水資源局を訪ね、①ポリシーブックは農業団体だけではなく州などの行政機関でも作成していること、②生産者がポリシーブックの取組みを通じてリーダーシップを高めること、外部を説得することの重要性等についてアドバイスを受けた。

また、全農グレイン株式会社を訪問し、①米国における穀物生産、②世界の穀物需給の将来予測等について学んだ。

今回の米国調査を受けて、①ポリシーブックの改定手法、②ポリシーブックの成果の共有、③盟友数拡大に向けた取組みなどを導入することにより、J A全青協におけるポリシーブックの取組みのさらなる発展、青年組織の強化を目指すこととする。



RMFUとコロラド州政府の水資源局を訪ね、ポリシーブックの  
取組みや農業政策について意見交換を実施



全農グレイン（株）のカントリーエレベーターを視察

## 平成24年度JA全青協活動日程

月	日	曜	行 事	場 所	出席者
5	23	水	第59回JA全青協 通常総会	JAビル	執行部、委員長 他
	23	水	～ 24日 第1回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議 等	JAビル	執行部、委員長 他
	25	金	家の光協会 理事会	家の光会館	牟田参与
6	5	火	JA全農 経営管理委員会	JAビル	山本前参与
	5	火	水田農業政策委員会	JAビル	遠藤会長
	5	火	食料・農業・農村対策推進中央本部委員会 T P P対策中央本部委員会	JAビル	遠藤会長
	7	木	日本農業新聞 第3回取締役会	JAビル	遠藤会長
	7	木	JA全中 理事会	JAビル	牟田参与
	8	金	JA全厚連 経営管理委員会	JAビル	大西参与
	11	月	JAバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与
	12	火	～ 14日 第1回JA全青協理事会	JAビル	執行部
	12	火	自民党青年局との意見交換会	JAビル	執行部
	12	火	農協観光 取締役会	Nツアービル	山本前参与
	13	水	岩本農水副大臣 面会	農林水産省	執行部
	13	水	JA全中役員との意見交換会	JAビル	執行部
	19	火	JA全農 経営管理委員会	JAビル	山本前参与
	20	水	神田夕やけ市	神田西口商店街	
	21	木	JA共済連 経営管理委員会	JA共済ビル	山本前参与
	26	火	家の光協会 理事会、通常総会	家の光会館	山下副会長、牟田参与
	27	水	日本農業新聞 取締役会、株主総会	KKRホテル東京	遠藤会長
	28	木	農協観光 株主総会、取締役会	Nツアービル	牟田参与、山本前参与
7	2	月	JA都市農業対策委員会	JAビル	大西参与
	3	火	漁青連 通常総会、20周年記念式典	江陽グランドホテル(仙台)	遠藤会長
	3	火	JA広報対策委員会	JAビル	宇川理事
	4	水	第23回参議院議員通常選挙 全国比例区推薦候補者選定委員会	JAビル	遠藤会長
	4	水	山田としお後援会 正副会長会議	JAビル	遠藤会長
	4	水	食料・農業・農村対策推進中央本部委員会 T P P対策中央本部委員会	JAビル	遠藤会長
	4	水	畜産・酪農対策委員会	JAビル	山下副会長
	4	水	青果対策委員会	JAビル	菌田理事
	5	木	JA全中 理事会	JAビル	牟田参与
	5	木	日本農業新聞 第6回取締役会	JAビル	遠藤会長
	5	木	JA都道府県中央会会長・全国機関会長・都道府県農政運動組織代表者合同会議	JAビル	遠藤会長
	10	火	JA全農 経営管理委員会	JAビル	山本前参与
	13	金	JA全厚連 経営管理委員会	モントレエーデルホフ札幌	大西参与
	18	水	JAバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与
	18	水	第2回JA全青協理事会	JA福島ビル	執行部
	19	木	～ 20日 第2回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議 等	福島ビューホテル	執行部、委員長 他
	24	火	JA中央会・全国機関会長会議	JAビル	遠藤会長
	24	火	JA全厚連 通常総会	JAビル	大西参与
	25	水	JA全農 通常総会、経営管理委員会	ANAインターコンチネンタルホテル東京	牟田参与、山本前参与
	25	水	JA共済連 経営管理委員会	JA共済ビル	山本前参与
	25	水	神田夕やけ市	神田西口商店街	
	26	木	JA共済連 通常総代会、経営管理委員会	ANAインターコンチネンタルホテル東京	牟田参与、山本前参与
	26	木	日本農業新聞 臨時株主総会、取締役会	KKRホテル東京	遠藤会長
	27	金	農協観光 取締役会	Nツアービル	牟田参与
	27	金	家の光協会 理事会	家の光会館	山下副会長
8	6	月	～ 7日 JA経営担い手リーダーセミナー	いさわ温泉ホテル慶山(山梨)	全国盟友 他
	7	火	T P P対策中央本部委員会	JAビル	遠藤会長
	8	水	JA全中 臨時総会	東京会館	牟田参与
	8	水	JA全中 理事会	東京会館	遠藤会長
	22	水	JAバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与
	28	火	農協観光 臨時株主総会、取締役会	JAビル	牟田参与

月	日	曜	行 事	場 所	出席者
	28	火	緊急学習集会「消費者が求める食品表示」	衆議院第1議員会館	牟田参与
	28	火	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与
	29	水	T P P交渉参加阻止に向けての情報交換会	グランドアーク半蔵門	遠藤会長
9	5	水	畜産・酪農対策委員会	J Aビル	山下副会長
	5	水	食料・農業・農村対策推進中央本部委員会 T P P対策中央本部委員会	J Aビル	遠藤会長
	6	木	日本農業新聞 取締役会	J Aビル	遠藤会長
	6	木	J A全中 理事会	J Aビル	遠藤会長
	7	金	北三県 J A青年部合同研修会	ホテルニューカリーナ（盛岡）	石倉理事
	14	金	J Aバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与
	18	火	郡司農水大臣 面会	農林水産省	執行部 他
	19	水	第3回 J A全青協理事会	J Aビル	執行部
	19	水	神田夕やけ市	神田西口商店街	
	20	木	J A共済連 経営管理委員会	J A共済ビル	牟田参与
	21	金	家の光協会 理事会	家の光会館	山下副会長
	25	火	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与
	26	水	第22回 J Aおきなわ青壮年大会（設立10周年記念大会）	那覇市ぶんかテンプス館	遠藤会長
	28	金	鹿児島県青年大会（30周年記念大会）	J A鹿児島県会館	遠藤会長
10	3	水	水田農業対策委員会・懇親会	J Aビル	遠藤会長
	4	木	J A全中 理事会	J Aビル	遠藤会長
	4	木	山田としお後援会 正副会長会議	J Aビル	遠藤会長
	4	木	日本農業新聞 取締役会	J Aビル	遠藤会長
	10	水	第26回 J A全国大会（分科会）	ホテルグランパシフィック LE DAIBA	遠藤会長、全国盟友 他
	11	木	第26回 J A全国大会（式典）	NHKホール	遠藤会長、全国盟友 他
	17	水	J Aバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与
	17	水	神田夕やけ市	神田西口商店街	
	18	木	J A全厚連 経営管理委員会	J Aビル	大西参与
	18	木	J A共済連 経営管理委員会	J A共済ビル	牟田参与
	20	土	学習院女子大学 農業シンポジウム	学習院女子大学	遠藤会長
	23	火	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与
	23	火	第4回 J A全青協理事会	J Aビル	執行部
	24	水	J A都道府県青年組織委員長・事務局拡大合同会議 等	東京ビックサイト 他	執行部、委員長 他
	25	木	畜産・酪農対策委員会	ハウステンボス（長崎）	山下副会長
	26	金	第10回全国和牛能力共進会	島原復興アリーナ	遠藤会長、山下副会長
11	6	火	J A都市農業対策委員会	J Aビル	大西参与
	6	火	J A広報対策委員会	J Aビル	宇川理事
	7	水	J A全青協 上期監事監査	J Aビル	山田監事、栗原監事
	7	水	組織経営対策委員会	J Aビル	遠藤会長
	7	水	水田農業対策委員会	J Aビル	遠藤会長
	7	水	青果対策委員会	J Aビル	菌田理事
	7	水	食料・農業・農村対策推進中央本部委員会 T P P対策中央本部委員会	J Aビル	遠藤会長
	8	木	J A全中 理事会	J Aビル	遠藤会長
	8	木	山田としお後援会 正副会長会議	J Aビル	遠藤会長
	8	木	J A都道府県中央会・全国機関会長会議	J Aビル	遠藤会長
	8	木	日本農業新聞 取締役会	J Aビル	遠藤会長
	9	金	東海・北陸ブロック J A青年大会	グランディア芳泉（福井）	遠藤会長
	12	月	中国・四国ブロック J A青年大会	下関市民会館（山口）	遠藤会長
	13	火	J Aバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与
	15	木	T P P交渉参加断固阻止にかかる座り込み、官邸前抗議行動	議員会館前、首相官邸前	全国盟友 他
	15	木	T P P対策中央本部委員会	砂防会館（東京）	遠藤会長
	15	木	J A共済連 経営管理委員会	J A共済ビル	牟田参与
	15	木	T P P交渉参加断固阻止・基本農政確立対策全国集会	砂防会館（東京）	遠藤会長、牟田参与
	16	金	家の光協会 理事会	家の光会館	山下副会長
	16	金	第38回福島県農業協同組合大会	バルセいいざか（福島）	遠藤会長
	19	月	第5回 J A全青協理事会	J Aビル	執行部
	20	火	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与

月	日	曜	行 事	場 所	出席者	
	21	水	自民党農林部会との意見交換会	自由民主党本部	執行部 他	
	21	水	神田夕やけ市	神田西口商店街		
	21	水	～ 22日	フレッシュミズ全国集会	ホテルイースト21東京	遠藤会長、山下副会長、益子理事
	22	木	～ 29日	ポリシーブックにかかる米国視察	ニュ オリンズ、ワシントンDC 他	遠藤会長、山下副会長、菌田理事
	26	月	J A共済連 自賠責共済運用益等使途選定委員 等	J A共済ビル	勝部理事	
	29	木	～ 30日	九州ブロック J A青年大会	ヒルトン福岡シーホークホテル	益子理事
	30	金	日本農業新聞 全国機関・中央会・連合会・J A代表者会議	KKRホテル東京	遠藤会長	
12	5	水	人づくり運動推進委員会	J Aビル	石倉理事	
	5	水	T P P対策中央本部委員会	J Aビル	遠藤会長	
	6	木	J A全中 理事会	J Aビル	遠藤会長	
	6	木	関東・甲信越ブロック J A青年大会	ルネ小平（東京）	山下副会長	
	6	木	第38回J A京都府青壮年大会	マリアー・ジュグランデ（京都）	下中理事	
	6	木	日本農業新聞 取締役会	東京會館	遠藤会長	
	7	金	J A全厚連 臨時総会、経営管理委員会	J Aビル	大西参与	
	8	土	福島県J A青年大会	J A福島ビル	遠藤会長	
	12	水	J Aバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与	
	12	水	神田夕やけ市	神田西口商店街		
	18	火	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与	
	18	火	～ 19日	第6回J A全青協理事会	J Aビル	執行部、大西参与、牟田参与
	20	木	J A共済連 経営管理委員会	J A共済ビル	牟田参与	
	21	金	家の光協会 理事会	家の光会館	山下副会長	
1	10	木	～ 11日	J A青年組織リーダー研修会	J Aビル	全国盟友
	16	水	水田農業対策委員会	J Aビル	遠藤会長	
	16	水	食料・農業・農村対策推進中央本部委員会 T P P対策中央本部委員会	J Aビル	遠藤会長	
	16	水	東北・北海道ブロック J A青年大会	仙台勝山館	山下副会長	
	17	木	近畿ブロック J A青年大会	アパローム紀の国（和歌山）	山下副会長	
	17	木	J A共済連 経営管理委員会	J A共済ビル	牟田参与	
	17	木	日本農業新聞 取締役会	J Aビル	遠藤会長	
	17	木	山田としお後援会 正副会長会議	J Aビル	遠藤会長	
	17	木	J A全中 理事会 J A都道府県中央会会長・全国機関会長会議	J Aビル	遠藤会長	
	18	金	J A青年組織手づくり看板全国コンクール 審査委員会	J Aビル	遠藤会長	
	21	月	第58回J A全国女性大会	日本教育会館（東京）	遠藤会長	
	21	月	～ 22日	第7回J A全青協理事会	J Aビル	執行部、大西参与、牟田参与
	22	火	林農水大臣、江藤農水副大臣 面会	農林水産省	執行部	
	24	木	農協観光 取締役会	Nツアービル	牟田参与	
	24	木	J A全国機関中核人材育成研修会修了者フォローアップ研修（講師）	J A全国教育センター（東京）	石倉理事、宇川理事	
	24	木	J Aバンク中央本部委員会	DNタワー	大西参与	
	29	火	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与	
	31	木	J A全厚連 経営管理委員会	J Aビル	大西参与	
2	1	金	J Aくらしの活動推進委員会	J Aビル	下中理事	
	1	金	中国四国地区農協青年組織委員長・事務局会議	島根J Aビル	遠藤会長	
	5	火	～ 6日	第55回全国家の光協会大会	パシフィコ横浜	遠藤会長、山下副会長
	6	水	担い手・農地対策推進委員会	J Aビル	山下副会長	
	7	木	J A全中 理事会	J Aビル	遠藤会長	
	7	木	J A共済連 経営管理委員会	J A共済ビル	牟田参与	
	12	火	第8回J A全青協理事会	J Aビル	執行部、大西参与、牟田参与	
	12	火	～ 13日	J A全青協執行部・ブロック長会議	J Aビル	執行部、ブロック長
	13	水	J A全農 経営管理委員会	J Aビル	牟田参与	
	13	水	第4回J A都道府県青年組織委員長・事務局合同会議 等	J Aビル	執行部、委員長 他	
	14	木	～ 15日	第59回J A全国青年大会	日比谷公会堂	全国盟友 他

平成24年度

「J A 青年の主張全国大会」

「J A 青年組織活動実績発表全国大会」

審査委員長紹介





平成24年度「JA青年の主張全国大会」  
平成24年度「JA青年組織活動実績発表全国大会」

委員

野村 一正 氏

( のむ ずま )



元 時事通信社解説委員 (食糧 農業部 担当)

略歴

1946年(昭和21年)茨城県下館市(現 筑西市)生まれ

1970年(昭和44年)時事通信社入社

1971年経済部に配属 大蔵省(現 財務省) 通商産業省(現 経済産業省)  
運輸省(現 国土交通省) 農林水産省など官庁 および家電業界 鉄鋼業界  
運輸業界など民間業界の取材を担当

1989年(平成元年)から「農林経済」編集長

1998年(平成10年)から編集局編集委員

2001年(平成13年)から解説委員

2006年(平成18年)4月より株式会社農林中金総合研究所顧問

2007年(平成19年)7月より内閣府食品安全委員会委員

2008年(平成20年)4月よりNPO法人環境立国理事

2011年(平成23年)7月より全国農業協同組合連合会(JA全農)経営管理委員

他に 葉たばこ審議会委員 水産政策審議会委員 食料 農業 農村政策審議会統計部会  
臨時委員 バ オマス ニッポ 総合戦略推進アドバザリ グループ委員などを歴任



平成24年度

「J A 青年の主張全国大会」





東北 北海道ブック代表 ( 2

**農業 nn va n イノベ シ ン**

秋田県 JAあきた北央青年部 さわふじ たくみ  
澤藤 匠



関東 甲越ブック代表 ( 6

**私の 農業  
～ 地 本 太く根ざ ため ～**

神奈川県 JA横浜青壮年部 飯田支部 すずき たいち  
鈴木 太



東海 北陸ブック代表 P 0

**ん で つ地域の力**

福井県 JA若狭小浜青壮年部 田島支部 やました みちひろ  
山下 倫弘



近畿ブック代表 ( 3

**小さな花産地 越畑  
～ 全国 ンド～**

京都府 JA京都市青壮年部 よしだ むねひろ  
吉田 宗弘



○ 四ブック代表 P 6

**飼いのプッシュを  
して 々奮闘**

香川県 JA香川県青壮年部 よしたけ のぶゆき  
芳竹 宣幸



九州 沖縄ブック代表 P 69

**a m r d a ～農家ならで の発想～**

熊本県 JA菊池青壮年部 いしい ひろかず  
石井 宏和



## 農業 innovation(イノベーション)

東北・北海道ブロック代表

秋田県 JAあきた北央青年部 澤藤 匠

「SNS・ツイッター・フェイスブック・クラウドファンディング」

皆さんはご存じでしょうか？一度は耳にしたり、中には実際に利用している方もいると思いますが、多くの方は「ネットでしょ？」で片付けてしまいそうなものです。

例に漏れず、私の父もこんな横文字を並べたところで何のことやらちんぷんかんぷん。

しかし、一見農業とは無縁に思えるこの得体の知れない横文字に、私は今、新しい農業の活路を見出そうとしているのです。

我が家は秋田県で稲作とりんごの複合経営を営んでいる。私有家業の農業を継ぐと心に決めた頃、止まらない米価の下落や減反政策など、稲作農業の閉塞感はピークを迎えていた。私は果樹に活路を見出そうと、秋田県の担い手研修で果樹を学び、就農を機に果樹部門へ新しく桃を取り入れ、担当した。念願だった桃の定植ができ、誰の指図も受けない自分の時間ができたことが嬉しく、やり甲斐を感じた事を思い出す。頭の中では、桃を成功させ果樹の面積を増やし、稲作から果樹へ我が家の経営をシフトさせたいと将来のプランまで考えていた。

しかし、桃栗3年、柿8年。果樹の世界はすぐに結果の出るものではなく、桃の収穫が始まるまでの数年、稲作やリンゴの作業を父に指示されるだけの淡々とした日々が続いた。

さらに、待ちに待った桃の収穫が始まろうとしていた頃、高齢化により離農する稲作農家が、地域の担い手である我が家に「田んぼをお願いできないか？」と話をもちかけてきた。父は当然のように承諾し、私も口では賛成したが「これ以上稲作面積を増やしたら、俺のやりたい果樹が出来なくなってしまう」という気持ちでいっぱいだった。

不安は的中！稲作面積が就農時の2倍に拡大した我が家の経営は必然的に稲作メインとなっていた。

私が果樹にこだわる最大の理由。それは、こだわりの栽培方法を用い、手間暇をかけて育てた自慢の農作物を、農家自身が価格を決め、消費者に納得して購入してもらう。生産者、消費者共

にWIN×2の関係が果樹にはあると考えていたからだ。

特別大きな産地ではないが、私の地域には数十件の果樹農家が存在し、皆、完全直売で販売している。しかし、いつ来るか分からない「待つ」という販売方法に限界を感じ、自ら売り込まなければと考えた。そこで真っ先に思いついたのがネット販売だった。

当時から我が家にはネット環境がなく知識もなかったが、まずはやってみたい！という気持ちで、早速父にネット開設を提案した。しかし、せがれの突然の意見は当然のように跳ね返され、それを説得するだけの知識も実績もない私は、ただただ父ともめ、平行線をたどったまま父の頑固な考えに不満だけが募っていったのだ。

自分が就農時に抱いていた様々な願望は、父という壁の前にあえなく打ち砕かれ、「やらされているだけ」の農業に疑問すら抱くようになり、一時は離農も考えた。

そんな時、ある人との出会いが離農を思い留め、新しい農業の可能性に心が踊ったことを今も鮮明に覚えている。

その人は同じ地元出身の東京在住、インターネット関係の仕事をしていた。帰る度に廃れて行く故郷を目の当たりにし、秋田を元気にしたいと考え、秋田といえば農業というイメージから自分のような若手農家との交流を求めた。

「今の農業は作り手と買い手がうまく繋がっていない。もっと生産の現場を知ってもらえば、買う人だって、こだわりの農産物を高いとは感じないはず。農家が儲からなければ秋田は元気にならない！一緒にやらないか！」というこの言葉を聞いたとき私の頭からつま先に「ビビビッ」と電気が走った。

「これだ！！」

そして、「農家のイメージアップ・秋田の活性化・食の安心安全」この三つをテーマに掲げ、生まれたのがトラクターに乗る男前　トラ男プロジェクトだ。

まずは、米所秋田の最大の特徴であるあきたこまちをPRし、食を通じて全国の方に秋田を知ってもらおうと取り組み、家にネット環境のない自分でも携帯電話でSNSを活用することができた。

具体的には、ツイッターやフェイスブックで情報を発信。また、クラウドファンディングで資金を募って消費者との交流イベントを開催し、その様子をユーチューブやユーストリームにアップするなど、農家のリアルタイムからプライベートな事まで、とにかく農家のことをより多く

知ってもらい、消費者との双方向的なコミュニティを図るといった事だ。

今までのネット販売の主流であるネットショップやホームページとの違いは、資本コストが少なく、畑からもできる手軽さから情報発信のタイムラグが短い。さらに双方向で相手と繋がっているためレスポンスが早く、情報の拡散力は圧倒的である。

これが現在のトラ男のルーツであり、3人いるメンバーもそれぞれが農業への思いやこだわりの農作物を紹介し、取材や農業体験も活用しながら、農家個人のファンになってもらい、自信を持って全国に売っていきたいという目標で繋がっている。

ただ一つ、当初販売に結びついている作物は米だけで、自分の目標とする果物の販売までは至っておらず、やりがいを感じながらも、もどかしさを感じていた。

そんな頃、自分のこだわりの米をネット販売し、消費者と繋がる理想の農業を実現している青年部の先輩と出会い、語り合う中で、米だけでも販売を維持し続ける大変さを知り、始まったばかりのこのプロジェクトに、甘えていただけの自分に反省した。

そこでSNSでは我が家の果樹の話題も掲載して、まずは知ってもらう事を心がけた。その成果として、トラ男の直販イベントで我が家のりんごを販売した際、普段SNSで交流しているお客様が「匠のりんごが食べてみたい」と訪れ、見事完売することが出来た。

自分なりにやり甲斐のある農業を見出すことが出来つつある今、父にも変化が現れ、先に問題としていたネット環境の不満も解消へ向かっている。

今はまだ自分達だけプロジェクトだが、トラ男を通して全国の消費者に秋田の農産物をPRが出来れば、JA販売との相乗効果で秋田県産のさらなるブランド力向上につながると信じている。

なんでもJAと一緒にということではなく、農家個人は機動力を、JAは総合力を、それぞれの長所を活かし、「チーム秋田」で秋田の農業を盛り上げていくことが必要なのだ。

食と農業、いのちの大切さが大きくクローズアップされている今だからこそ、農家個人とJAがそれぞれに研鑽を積み、農業の今をより多くの人々に発信し、共に汗をかきながら、地域農業の振興を本気で考える時なのです。

その為にも、今、自分がすべきこと。

このトラ男で自分を磨き、礎をしっかりと築く。

そして、いつか独り立ちしたその日には、父に「変わった！」と言わせてやります！！



自分のためでありそれは消費者のためである。それが全国に広がれば秋田、ひいては日本の農業のためになる。二十代の今だからこそチャレンジする気持ちを忘れず、同じ意志を持った仲間と活動できる事に誇りを持ち、このプロジェクトの可能性を存分に活かしたい。

皆さんもこれから出会いの数だけ巡ってくる様々なきっかけの一つ一つを無駄にせず、どんな些細な出来事からも農業分野にさらなる可能性を見出してみてはいかがでしょうか。

農業イノベーション・・・農業分野において新しい発想から、新たな価値を創造し、変革を生み出す。

きっと今より新しい、そして、カッコいい・稼げる・輝ける農業に出会えるチャンスです。

## 私の目指す農業 ～大地に一本・太く根ざすために～

関東・甲信越ブロック代表

神奈川県 J A横浜青壮年部 飯田支部 鈴木 太一

皆さん、「横浜に農業は必要ないと思いますか？」

ある大企業のお偉いさんが「大都市横浜で農業なんてやる必要ない、地方でやればいいんだ。もっと生産効率の良い産業で土地を利用すべきだ。」

就農と同時に訳もわからず入った青壮年部の飲み会で、やたら農業を熱く語る先輩が「ふざけるなっ！！」と怒っていたのが、いつまでも頭の片隅に残っていました。

わたしの名前は、太一です。大地に一本、太く根ざす農業。

本来農家の長男にふさわしく広大な土地『大地』と両親はつけたはずでしたが、祖父が聞き間違えたのか、強引に太いに一と書く太一になったそうです。

そう、私の名前には二つの想いがあったのです。

就農して3年、農業に対する理想と現実とのギャップや収入の不安定さなど、私が抱いていた農業とは違っていました。父のやり方を押し付けられてストレスがたまり、自分なりに新しい品目を増やそうと思いましたが、実行に移せず、苛立ちもあり、未熟な私は父と殴り合いの喧嘩をしてしまう始末でした。

中途半端な私は、しばらくは家を出ることもできず、昼間は農業、夜は、求人広告で見つけた単純で簡単に高収入を得ることができるトラックドライバーのアルバイト。農作業を終え、夜7時～朝3時まで父に当てつけのようにながむしゃらに働いていました。

そこで出会った私と同じ農家のせがれの同僚に

「農業は割に合わないよ！計算すればわかるだろ！稼げないよ！！」と言われ、

「全く同感！！」

アルバイトを辞め、農業も辞めて正社員になりました。

確実な収入を得、定休日もあり、体力さえあればいくらでも稼げ、気持ちの面でも楽に仕事が

でき、何のストレスもありませんでした。沢山の人の出会いがあり、貴重な社会勉強ができました。

それから数年、祖父の死という現実があり相続について考えさせられ、私に転機がおとずれました。祖先から受け継いできた農地も相続の対象として手放さなくてはならないという選択があると知り、不思議な気持ちにかられました。

そのことを上司に話したところ、表面では農業を辞めたつもりでも、煮えきれない私を察して「普通の人で、一から農業を始めるのは大変なことだぞ。やりたくてもできることではない。しっかり継いだ方がいい！」

勤めていけば、お金になり、楽はできる。しかし、ここでは自分の将来は切り開けない！と思い、真剣に将来を考えるようになりました。

そんなある日、夜中に仕事を終え帰宅したとき、作業場の明かりが煌々としていて、まだ、両親が袋詰めをしていました。

「お帰り、お疲れ様」と声をかけられた時、ふと我に返りました。

翌日、久しぶりに畑を見回ると、温室の中はトマトが仕立てられずに荒れ果てていました。その光景に胸が痛み、いてもたってもいられず、片付けに専念しました。

小学生の頃、市場に行くトラックの助手席に乗り、父と話した農業の夢、父の夢は、私の夢でもあり、それが、私の将来を託す場所『農業』だと確信しました。

10年前、横浜農協が合併した頃、<sup>※1</sup>青壮年部も交流が広がり、同じような悩みを持ちながらも一生懸命農業に取り組んでいる多くの仲間がいることに気づき、勇気をもらうことができました。

それは、青壮年部の<sup>※2</sup>支部間交流事業で山下公園の海上を20人が力を合わせて競う横濱ドラゴンボートレースへの参加でした。このレースは、参加選手4,000人以上(200チーム出場)、来場者も7万人を超える日本最大のドラゴンボートレースであり、鍬で鍛えた手にオールを持ち、横浜農業をアピールする事もひとつの目的です。

最初は、名前も知らない人達が多かったのに、2年後には一致団結し、優勝した時の醍醐味は、忘れることはできません。一人では無理でもこの青壮年部の仲間がいれば、農業の未来はあると思ひ、より一層のやる気を起こさせてくれたのです。

そして、かねてから挑戦してみたかったことを思い切って実行しました。自宅前の人の流れを考え、小さな子供からお年寄りまでもが、喜んで食べてもらえるイチゴ栽培です。

3年が経ち、まだ改善すべきことはありますが、うちのイチゴを食べて、「美味しいね！」と

笑顔になる。この笑顔こそが私の目指す農業だと思いました。

そんなある日、ハウスで父が脳梗塞で倒れたのです。幸いに命に別状はありませんでしたが、父の代わりに経営の表に立つことになりました。今まで知らずにいた温室や機械の負債などが明確に分かるようになり、栽培技術だけでなく経営の厳しさを目の当たりにしました。これからは「俺が背負っていかなければ！」

ある日、先輩と仕事の話になり「うちは、自然農法というより減農薬栽培ですね。長年、化学肥料や農薬散布を続けてしまった畑を自然な農地に近づけるよう努力しています。」と話したところ「そんなの皆がやっていることだぞ。今はひたすら仕事をしているだけじゃなく、多くの情報を得て経営に取り入れていかなければならないんだぞ。」とアドバイスをもらい、また、農政事務所の方にも勧められ「**環境保全型農業推進者**」になりました。

自分の野菜にとことんこだわり、多くの人に愛情のこもった「**正直な野菜**」を食べてもらいたいと思ったのです。特別栽培農産物のことも知り、今後は環境への取り組みも考え、持続可能な方法で、あのイチゴ狩りで見えた『**食べて笑顔が出る**』そのような野菜作りを目指します。それができるのは『**顔の見える関係**』『**地産地消**』だと考えます。

しかし、私の地域でも荒れ果てた畑が目立つようになりまして。そんな畑を見たとき、私の頭の中に我が家の草だらけのトマトと、倒れた父の姿を思い重ねるのです。

「誰が、畑を守ってくれるのか？」

「誰もやらないのなら私が少しずつでも動きだそう！」

そう！全国盟友の皆さん一人ひとりの熱い思いが、その土地の農業を守る力となるのです。

昨年、青壮年部のドラゴンボート実行委員会の委員長になりました。今では、仲間の大切さ、組織を動かす難しさを実感しています。去年は、予選敗退してしまいましたが、今年はより一層団結し、優勝を目指すと共に海からもTTP交渉参加という荒波を断固阻止すべく「農業の大切さ」そして「地産地消」を力強くアピールしていきます。

もう一度、聞きます。

「本当に横浜に農業は必要ないと思いますか？地方でやれば良いでしょうか？」

「そうだとすれば、国土の狭い日本で農業は必要でしょうか？中国やアメリカに任せておけば良いでしょうか？」

「違います！！」

日本に農業は必要です。もちろん横浜にも農業が必要です。横浜で農業ができなくなった時、日本の農業は崩壊の一途をたどるでしょう。

「私はやります！！」

横浜が 日本農業の防波堤 となるべく、日本の この横浜の「大地」に  
「一本」 「太く」 根ざす農業を目指し 頑張ります！！

ご清聴ありがとうございました。

※1 JA横浜青壮年部は、27支部、726名（平成24年12月現在）

※2 支部間交流事業は、本部事業では達成できない支部の壁を越えた部員相互の密なる親睦を深めるため、支部間の交流事業を支援、推進し、部員と部員が、お互いに心と力を結び合わせる協同の成果を実現する共にその実行のためのリーダーを育成することを目的とする。

## 田んぼで育つ地域の力

東海・北陸ブロック代表

福井県 JA若狭小浜青壮年部 田鳥支部 山下 倫弘

「おっ、倫弘くん北海道行ってきたんやっつてな！ええなあ、楽しかったけ？」

近所のおじさんが話しかけてきた。

「うん、行ってきたよ。でもおっちゃん何で知っとるん？」

と聞くと、

「ああ、さっきどここのおばあさんが言うとったんや。」

とのこと。不思議なことに、昨日あった出来事が、次の日には村中に広がっている…。私の住んでいるところ、福井県の小浜市田鳥では決して珍しいことではありません。インターネットを通じて、世界中の人々といつでも情報をやりとりできる今の時代。田鳥ではまるで、田んぼや畑に高速ネットワークが張り巡らされているかのように、農業の場を通じて様々な情報が共有されます。私の祖母もしょっちゅう「畑へ行ってくる。」と言っては出かけるのですが、畑仕事をしに行っているのか、ご近所さんと喋りに行っているのか分からないくらいです。時には少しいきすぎることもあります。「ちょっと、あそこの子、また前と違う女の子連れてきとったで。」…プライバシーの侵害です。でも私はそんな田鳥が大好きです。コンビニも何もありませんが、人の温かさが感じられる村です。こういった近所づきあい、地域のつながりというのは、本当に大切なものではないでしょうか。

3. 11. もはや説明の必要さえない東日本大震災。消防士である私は、緊急消防援助隊として被災地へ向かいました。「一人でも多くの命を助けたい。」その想いで必死に捜索活動を行いました。状況は非常に厳しく、これが本当に現実なのかと疑いたくなるようなものばかり…。そんな中、私は一生忘れることのできない、あの言葉を耳にしました。あれは、震災の発生から10日経った日のこと。たまたま通りかかった30代の女性でした。

「すみません、この辺りで子供が見つかっていませんか。私の家、あそこにあったんです。娘が…まだ見つかっていなくて…」

そう言って女性が指さした先には、家が建っていたという形跡さえありませんでした。

押し寄せる津波、破壊されてしまった街…。毎日のように報道された衝撃的な映像を未だ鮮明

に覚えておられる方も多いことと思います。しかし、実際に自分の目で見る光景は、実際に自分の耳で聞く当事者の言葉は、メディアを通して見るものとはまるで別次元でした。私は女性に返す言葉が見つからず、ただ首を横に降ることしかできなかった、何もしてあげられなかった、そんな自分が悔しくて悔しくて、溢れそうな涙をこらえるのに必死でした。

あの経験から身にしみて感じたことは、人とのつながりや近所づきあいの大切さでした。2011年を表す漢字に“絆”が選ばれましたが、いざという時、自分たちの命は自分たちで守る、そして地域ぐるみで助け合う、まさに絆が問われるのです。向こう三軒両隣、以前は当たり前だった近所づきあいが希薄化している現在、今一度見直す必要があります。

そういった観点で私の地元田烏を見ると、地域の力、団結力は全国トップクラスだと私は確信しています。区民一人ひとりが常に周りのことを考えて行動している、というよりむしろ、地区全体が一つの家族であるかのようにさえ感じます。

昨年、J A青壮年部のメンバーが中心となり、“棚田キャンドル”という新たなイベントに挑戦しました。田烏には、若狭湾に面した約70枚、合計3ha程の、美しい棚田が広がっています。日本海から吹く風と清らかな湧き水で、格別のコシヒカリが育つ棚田。そこに二条院讚岐姫の御所跡があり、そこから眺める“沖の石”が百人一首にも詠まれています。

『わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の 人こそ知らね 乾く間もなし』

田烏では、小学生が百人一首のかるた競技に取り組むことも伝統で、県大会や全国大会にも出場するほどです。そんな歴史ある田烏を、そして自慢の棚田をもっと多くの方に知って欲しい！次世代に伝えていきたい！そんな想いが形となり、棚田に約1,600本のキャンドルを灯してのフォトコンテストを実施しました。

新聞社への報道依頼やインターネット広報、キャンドルを浮かべる紙コップの種類等、試行錯誤が続き苦勞しましたが、一斉にキャンドルに点火したときの感動は忘れません。そこには今まで見たことのない幻想的な棚田が浮かび上がっていました。辺りは真っ暗。人の表情なんて見えませんが、私にははっきりと伝わってきました。みんなのうれしそうな“笑顔”が。

当日、会場では棚田でとれた“コシヒカリ”と地元の特産品である“へしこ”の販売も行いました。県外から足を運んでいただいた方々もおられ、田烏を広くPRすることができました。

ただ、それ以上に大きな影響を受けたのが私自身であったように思います。優しく輝く棚田をじっと見つめていると、キャンドルの効果なのか、とても穏やかな心境になり、いろいろな思い出が蘇ってきました。「小さい頃、よく両親と一緒にここに来たなあ。棚田でおにぎりを食べたり、オタマジャクシを捕まえたり、近所の子と走り回ったり。手伝うというより、邪魔ばかりだったけれど、ピクニックに出かけるみたいで楽しかった。」そんな懐かしい記憶が頭の中をゆっく

りと流れ、次第に強い決意へと変わっていきました。「棚田は絶対、無くすわけにはいかん！ずっと守っていこう！」

正直、私は以前、無理に田んぼを続けていく必要はないと思っていました。せっかくの休日にしんどいとか疲れたとか言いながら、体に鞭を打って田んぼをしている両親の姿を見て、「そこまでして何で田んぼ続けるんやろ。無理せんと、米ぐらい買ったらいいのに。」というふうにも思っていました。でもあの瞬間…。キャンドルに光を灯して感動した、あの瞬間！私の心にも大きな光が灯ったのでした！

その日、区の集会場で打ち上げをしました。

「今日は大成功やったなあ！」「むちゃくちゃ綺麗やった！」「おい、来年もやるぞ！」

「次はいろんな色を灯してみたらどうやろ？」「音楽を流してもええんちゃうか！」

次々に新しい意見も飛び出し、笑顔の輪ができていました。私は、その輪の中に自分も加われていることが何より嬉しくて、「青壮年部に入って本当に良かった」と心から思いました。

最近になって感じます。田鳥の伝統の力は、きっと昔から脈々と受け継がれてきた農業に起因している。そして田んぼに育まれてきた財産なのだと！青壮年部に入ったばかりの今の私は、言わば植えたての苗といったところでしょうか。でもこれから少しずつ、農業に携わっていく中で、先輩方に負けなくらい立派な稲に生長していきたいと思います。

数年前、田鳥に沖の石大橋という立派な橋が完成しました。そこから見下ろす景色は絶景です。鮮やかな棚田の向こうには、青い海が広がり、水平線に夕日が沈みます。私の夢は、結婚して子供が生まれたとき、この大好きな景色を子供に自慢することです。私には、日本の農業がどうだとか、農業を広く普及させたいだとか、そんな大きなことは言えません。でもこの大好きな田鳥の風景を、そして“地域力”を自分たち世代が中心となって必ず受け継いでいきます！！



## 小さな花産地 越畑 ～目指すは全国ブランド～

近畿ブロック代表

京都府 JA京都市青壮年部 吉田 宗弘

♪緑の山に囲まれた我が学び舎は花の園♪と始まる我が母校の校歌、教室を覗くと机が一つ。過疎化が進むこの地域、小中合わせて14名の小さな学校があります。校門を出るとそこには、かえる、バッタ、トンボが飛び交う一面の棚田が広がる。そんな景色が私は大好きだ。

私は京都市の北西部、観光地として名高い嵐山から車で30分程走った所にある右京区の越畑で、米とお盆用の切花であるホオズキやオミナエシを中心に栽培しています。

私の住む越畑は、人口150人のとても小さな集落で、800枚の棚田が並ぶ中山間地域です。軽トラックが通れる農道が全線整備されたのも、去年のことでした。日本の里100選にも選ばれた越畑、春、水田に早苗の緑が美しく、夏、黄色いおみなえしが鮮やかに咲き乱れ、秋、黄金色に輝く稲穂が頭を垂らし、冬には一面の銀世界。海拔450mのこの地域、寒暖の差が大きいことが、米・野菜をよりおいしくしてくれ、花の色を鮮やかにしてくれます。

校歌にも出てくる花の園越畑でホオズキ・オミナエシの栽培が始まったのは、今から30年ほど前です。

初めのころは父親に言われたとおりに管理をしていました。今から思えば、当時は周年、春菊の栽培も盛んに行っていたために、細やかな管理ができていなかったと思います。仕上がった花を見ると、丈は短く虫食いもあり、葉には病気やダニがついている状態でした。価格も安く、肥料、農薬、手間を考えると決してもうかる作物とは思えませんでした。しかし、畑に植える時期を変えたり、畝の幅を大きくしたり、工夫を重ねることにより少しずつですが自分の目指す仕上がりに近づいていきました。

次の課題は、選別、検品でした。それまでの検品はほとんどがノーチェック、決まった規格もなく、見た目の判断で等級を決めていた為、製品のバラつきが大きく、クレームを受けることもたびたびありました。そんな状況が数年続きました。

このままではいけない、検品、選別方法を見直す時期が来ていると思いました。JAの営農担当にも相談しながら私が中心となって今までなかった規格作りから始め、仲間と何度も何度も話し合いを重ねいくつもの取り決めをしました。その結果等級が揃い、品質が上がりクレームも減っ

ていきました。

品質があがるにつれて私は京都市場だけではなく他の市場にも出荷してみたいと思うようになり、組合で話をしましたが、新規出荷する市場のあてもなく、なかなか前向きな話にならず、モヤモヤとした気持ちを抱えていました。

しかし平成19年のことです。大阪の市場から JA を通して、越畑の花を出荷してほしいと連絡があったのです。大きなチャンスと思い、仲間と話をし、大阪市場にも出荷を始めることになりました。聞けば、大阪の市場は日本で二番目に大きな花市場、高値も期待できるが、他産地も多い分、中途半端な商品では勝負にならないとの事でした。改めて検品、選別をしっかりとしようと話合いました。初出荷の時の価格は今でもはっきり覚えています。ホオズキ1本が今までの倍近い350円の値段をつけてもらったのです。めちゃくちゃうれしかったです。大阪市場では、鮮度がよく、黄色・赤色がとても鮮やかという高評価をいただきました。昨年からは JA と共にホオズキブランド化計画をすすめています。可愛いらしいロゴを作り、ネーミングも、「京舞妓」と京らしいものにして出荷を始めました。西は広島や四国、東は東京にまで販売しています。

現在私はお盆の期間中ホオズキ1万本、オミナエシ5万本を出荷しています。今後花卉組合と共に今の1.5倍を目標に出荷増量していきたいと思います。そのためには、新たな生産者の確保が必要です。青壮年部のメンバーに声をかけたり、地域でまだ花卉生産していない農家に声をかけたりしてきました。その甲斐あって、二年で二軒の新しい花卉生産者が誕生しました。やはり単価が上がることにより、「やってみよう」と思う生産者が現れるのです。どこに出しても恥ずかしくない花づくりを日々研究、勉強することが生産者を増やし、所得を増やす方法と確信しています。

今年度から、先輩方に助けてもらいながら、越畑花卉組合の組合長を務めさせていただいています。市場の担当者や JA と連絡を密に取り合い、花卉組合を益々発展させていきたいです。小さな産地ですが、市場に近い事や小さいならではの規格の統一制を活かして大きな産地にも負けないポジションを築いていきたいです。そして日本全国に越畑の花を広めたいと思います。

私にはもう一つしなければいけないことがあります。それは800枚の棚田が広がる我が故郷越畑の田畑を、荒廃させることなく次世代につないでいくことです。田畑を守るということは高齢化、後継者不足の今、言葉でいうほど簡単なことではありません。一人でできることは限られています。地域の青壮年部の仲間と共に故郷を守っていこうと強く強く決心しています。

そしてまた、子供こそ日本の未来です、私は毎年、母校である宕陰小学校で、稲作作りの指導を行っています。

さらに、平成23,24年度は京都府の盟友と共に力を合わせて、この地越畑で京都市内の子供たちを招いて農業体験教室を実施しました。耕作放棄地の解消と子供達に少しでも農業への関心、興味をもってもらうのが目的です。

一諸に種をまき、草を引き、収穫をする、そして料理をする子供達の笑顔はとても輝いています。その笑顔を見て私は癒され明日への力をもらいます。地道な活動ですが、このような活動を通じて未来の農業青年が一人でも現れてくれる事を願っています。今後も JA、京都府の盟友と力を合わせてこの取り組みを、続けていきたいです。

最後に、農業をされていてよかったことを一つ聞いてください。それは子供と多くの時間を過ごせたということです。田畑に連れて行き、トラクターに乗せたり、花の出荷を手伝わせたりと、父親の働く姿を一番近くで見せることができました。本当に幸せです。大人になったら花いっぱい家庭にしてくれるとうれしいです。

私はこの仕事を誇りに思っています。

子供の頃の夢は警察官、農業にあまり関心もなく、農家の長男の宿命と思い始めた農業でしたが、今は違います。心からこの仕事を選んでよかったと思えるようになりました。私の選んだ道に間違いはなかったのです。

そして今まで支えてくれた妻に…ありがとう。ご清聴有難うございました。

## 牛飼いのプロフェッショナルを目指して日々奮闘中

中国・四国ブロック代表

香川県 JA香川県青壮年部 芳竹 宣幸

私の生まれ育った香川県さぬき市は、豊かな自然の中にあるのどかな町です。私は F1 牛肥育農家の長男として生まれ、大学進学後は、5 年間一般企業に就職していましたが、4 年前に家業を継ぐため会社を退職し、現在は両親と妻の 4 人で楽しく仕事に向き合っています。

私の家業である肉牛肥育は、近年では苦難の連続でした。古くは「牛肉・オレンジの輸入自由化」に始まり、まだ記憶に新しい、宮崎での口蹄疫や、BSE の発生。東日本大震災による福島第一原発の事故。これらの災害は、幸いにも私の牛たちにはなんの被害もなかったものの、風評被害という、目に見えない大きな損害をもたらしました。直接被害を受けてない私などから言えば、被害を受けられた方の心情は、はかり知れません。私も、この仕事に携わるようになってから、「なんでこんなに牛飼いはばかりいじめられるんやろう」と、卑屈になった時もありましたが、そんな私に力を与えてくれたのは、宮崎県で畜産業を営む友人たちでした。

宮崎県で口蹄疫が発生して数ヵ月後、肥育牛と養豚を営む友人たちから、家畜の全頭処分が決まったとの連絡を受けました。その連絡を受けた時、友人は気丈に明るく振舞っていましたが、私には返す言葉が見つかりませんでした。

「もっかい畜産をやりたいんや!!」と、友人たちは力強く言いました。

口蹄疫が終息してから、夏休みを利用して宮崎県に行く機会があり、久しぶりに彼らと話をすることができました。今では口蹄疫以前の規模に近い程度まで、回復しているそうです。彼らのその目や口ぶりは、夢にあふれて、力強く前に進んでいるように感じられました。

話をしていると、私は自分の仕事に対する心構えの甘さに、あらためて気づきました。彼らが大きな困難に挫けることもなく、前向きに未来に向かって歩き出しているのに、私はただ淡々と仕事をこなし、敷かれたレールの上を歩いているだけではないかと思えたからです。より一層知識や技術・経験を深めて、しっかりとした目標を立てて仕事に打ち込んでいきたいと、強く感じました。

現在私は、JAが運営する香川県家畜市場で、セリ場の円滑な運営のために、協力員として参加しています。最初の数ヵ月は、週に一回のセリに向かうたびに緊張の連続でしたが、1 年たっ

た現在では、だいぶ牛の扱いに慣れてきたように思います。しかし、昔協力員をしていた方で、大けがをされた方がいたことを聞き、危険と隣り合わせの仕事だということを実感しました。

また、私は地元の牛飼いの実態について、ほとんど知りませんでした。私の家の近所では、ほんの数件しか牛飼いがおりませんので、県内には、それほど牛飼いがいないのではと思っていました。しかし、県の家畜市場では、本当に多くの牛飼いが、生産者、もしくは購買者としてセリ場にやってきます。各農家を見ていると、様々な個性ある牛を搬入してきます。県内の畜産業は中西部が盛んなので、こうして多くの生産者と出会うと、私はあまりに世間知らずだったと実感し、多くの生産者や購買者、市場関係者の関わりによって、セリ場は円滑に運営できていることを、改めて思い知りました。

私は現在 31 歳ですが、市場関係者の年齢構成は、ほとんどが先輩です。ですから、この仕事は私のような若手が本当に育っているのだろうか、この先どうなるのだろうか、と不安に感じていました。ベテランが多いと、私にとっては経験や勉強の面でとてもプラスになりますが、今後の市場運営や、牛飼いの将来を考えると、同世代やさらなる若手が、魅力的に感じる仕事にならなければと思いました。

現在 J A 香川県では、小豆島特産のオリーブを生かしたブランド牛づくりとして、オリーブの搾りかすを出荷 2 カ月前の県内産の和牛の一部に給餌（キョウジ）し、「オリーブ牛」というブランド名で出荷・販売がされています。オリーブ牛は一般的な和牛に比べ、うま味成分のグルタミン酸が 1.5 倍あり、オリーブに含まれるポリフェノールの抗酸化作用で後味がさっぱりしているのが特徴です。また、動脈硬化を予防するとされるオレイン酸が豊富で、健康志向の強い海外での販路拡大が期待されています。このオリーブ牛の生産・販売は徐々に浸透しつつあり、市場でもますますの評価を得ています。また、このオリーブ牛をマカオに試験出荷し、海外での取引に向けた事業展開も始まろうとしています。このような県内での取り組みの中で、私自身は今後牛飼いとどうしていくべきかを考えるようになりました。私自身も TPP の交渉参加は断固反対です。しかし、今のまま時代の流れによって交渉が本格化し、海外から安い牛肉が多く輸入されるようになると、国産牛は海外との価格競争では太刀打ちできなくなるでしょう。和牛は、県内のオリーブ牛の例にもあるように、海外輸出によって生き残る戦略も取れますが、私たち F1 牛や和牛以外の肥育農家にとっては、その見込みも少ないです。

私にも昨年、待望の息子が生まれ、大切な家族ができました。将来わが子が自分の進路を決める時、家業を継ぎたいと言ってくれるかはわかりません。私自身は、息子の将来はある程度任せたいと思っていますが、息子だけではなくこれからの世代の子供たちに、私たちの仕事が魅力的に感じてほしいと思います。そのためには、今とまったく違う取り組みも始めなくてはならないと思っています。

先ほども言いましたが、私たちのように、スーパーでは「国産牛」として扱われている生産者には、「国産」であるという証明だけで、個性というものがありません。そこで私は将来的に、生産者の顔が見える牛肉づくりをしていきたいと思っています。今野菜などは直売所でもあるように、生産者の顔と名前を出して、お客さんに提供する販売方法が人気です。お客さんによっては、生産者の顔で信頼できる商品を選んでいる方も大勢います。私が目指しているのは、このように、生産者と消費者が信頼関係で結ばれている牛飼いを目指していきたいと考えています。現在では、牛肉のトレーサビリティにより、消費者が国産牛の生産履歴を調べることができますが、それだけではなく、お客様自身が、私の作った牛肉を食べたいと思ってくれるように、今後環境づくりや牛肉づくりに取り組んでいきたいと考えています。その第一歩として、自分で育てた牛を、たくさん食べて、自分自身の牛を知ることから始めていきたいと思っています。

私たちの仕事は、決して安易にできる仕事ではないし、安全な仕事だとも言えません。牛肉の消費が伸び悩んで、枝肉相場もなかなか上向いてきませんし、飼料価格の高騰も続いていて、経営面でも不安定な部分は大きいです。しかし、この仕事は、極めれば極めるほど、もっともプロフェッショナルな、カッコいい仕事だとも思います。私はこれからも、牛飼いの仕事に誇りを持って、さらに知識や技術・経験を磨いていきます。

## 『Farmer's idea ～農家ならではの発想～』

九州・沖縄ブロック代表

熊本県 JA菊池青壮年部 石井 宏和

『発電機はもうなかとや』 『今年の夏はやおいかんばい※すごく大変だ』

東日本大震災で起きた原発事故の影響で、今年の夏は九州でも電力不足が騒がれました。計画停電を実施するかもしれない。皆さんは簡単なことと思われているかもしれませんが、この時期の停電は酪農にとっては極めて大きな問題です。搾乳するにも牛乳を冷やしておくにも電気は必要になります。そして最も恐ろしいのは一番暑い時間帯に扇風機が止まれば、暑さに弱い牛は熱中症にかかってしまうことです。生産量が激減するのはもちろんのこと、最悪の場合牛は死んでしまうからです。幸い、計画停電は回避できましたが、電力問題は今の日本の大きな課題となっています。

私が住む熊本県菊池市旭志（旧菊池郡旭志村）は、阿蘇外輪山のすそ野に広がり、清らかな水と豊かな自然に恵まれたホタルの里として有名で、全国有数の畜産地帯です。

我が家は150頭を飼育する酪農家で、私と両親、そして育児の合間をぬって妻が手伝っています。就農当時は分からない事ばかりで毎日が新しい発見の連続でした。

そんな時、私にとって大きな支えとなったのは、地元で酪農をしている同級生や年の近い先輩後輩でした。何か分からないことがあれば丁寧に教えてくれました。そんな人たちで組織する農協青年部で様々な活動をしながら農業の世界に足を踏み入れて行きました。

私が所属している旭志青年部は、40歳以下の盟友総勢59名で構成されています。それぞれに部会があるものお互いの間に垣根はなく、熱い気持ちを持った盟友たちが集まって活発な活動を行っています。一昨年のTPP交渉参加問題の時には参加阻止を訴える座り込みに10名の盟友が即座に上京し、国会前で熱き想いを訴えるなど農政活動にも積極的です。また地元のイベントや祭りへの参加といった地域交流や地元の保育園、幼稚園、小中学校の子供たちを対象とした食育活動や消費者交流にも力を入れています。特に中学一年生が盟友宅に一泊二日で農業体験をする「ふるさとファームステイ」は、農業に対して理解を深めてもらう活動で、現在まで19年間続いており、受け入れ人数も1200人を超え、全国に誇れる取り組みとなっています。このファームステイこそが旭志の後継者育成の大きな原動力となっているのです。事実、これを

きっかけに私も家を継ぐ決心をしました。

ところで私の牧場では Non GMO の牛乳を生協に出荷しています。Non GMO 牛乳とは、遺伝子組み換えをしていない飼料を牛に給与し生産した牛乳です。そして出荷だけではなく、こちらでも毎年ファームステイや牧場の視察など、生産者と生協の組合員との交流を行っており、顔を合わせて反応をみることで組合員の喜ぶ姿や、感謝の言葉にやりがいを感じています。この交流も生産者と消費者との距離を縮めるのに役立っています。

しかし、ファームステイなど消費者との交流に力を入れていますが、現状は世界的な原油や穀物高騰などにより、畜産農家にとって非常に苦しい状況が続いています。非遺伝子組み換え飼料でさえ手に入りづらくなっており、私が家業を継いだこの10年の間に次々と酪農家が廃業しているのです。

『このままじゃ駄目だ。一人ではこの状況を変えることはできない。こんな時こそともに力を合わせなければ!』

ちょうどその頃、北海道で自給飼料を活用した牛の給食センターがあることを知り、現地を視察しました。そして5年前、我が家を含めた20戸の酪農家が出資して給食センター「(株)アドバンス」を立ち上げました。アドバンスとは前進を意味し、これからの酪農を発展させたいという思いが込められており、これまで各農家で行っていた餌のミキシング作業をセンターで行うことにより安定した餌の供給、飼料や資材の一括購入と焼酎粕等のエコフィードを使用することによる経費削減、畑の一元管理による効率化といった様々なスケールメリットを生むことができます。また同じ餌を使うことで牛の健康状態が共有できるといったプラスの面もあります。この給食センターの大きな特徴は、温暖な気候を活かし春と夏の2回作付したトウモロコシを主体に自給飼料中心の発酵TMRを製造していることです。さらに、家畜から排泄される糞尿を個々の農家で畑に散布し良質な土を作り、またそこにトウモロコシを作って収穫するという「自然循環型農業」も行っています。

しかし、「自然循環型農業」を行っていてもこの畜産過密地帯では圃場が限られている上、近くに住宅や幹線道路があるので容易に散布するわけにもいかず、堆肥舎に入りきれないことがあります。これから規模拡大による増頭が進めばこの問題は大きくなります。

そんな時、雑誌を読んでいると「バイオガスプラント」という言葉が目につきました。中身を詳しく読んでいくうちに『うお!これだ!!』と思いました。「バイオガスプラント」とは、簡単に言うと、糞尿などを発酵させて、産物としてバイオガスと良質な液肥を回収する施設です。さらにこの施設では生ごみや食品廃棄物なども資源として有効利用できます。発生したバイオガスはタービンなどの燃料となり発電が行えます。これは、糞尿の問題を解消する糸口となるだけではなく、電力供給の新たな一步を踏み出すことができるのです。さらに畜舎の屋根などを利用して太陽光発電をおこなうことで、原発などに依存しないですむ、農業ならではの節電に繋がる



のではないのでしょうか。

『条件はそろっているのです。どうですか皆さん。わくわくしませんか。』

そこで提案があります。JAが、すでにある堆肥センターと隣接して稼働させ、畜産農家の糞尿、さらに家庭の生ごみや地域の学校や企業から出る食品廃棄物を一元的に収集して効率的に処理を行い、そこを地域のエネルギーセンターにしてみてもうどうでしょうか。この旭志のような畜産が盛んな地域がバイオガスプラントなどで次世代クリーンエネルギーを活かしたエコタウンのモデルとして全国に発信していくべきです。

日本の農業はTPPなどの自由化問題によって最大の局面を迎えようとしています。個々の競争が激化した社会、農業もそこに組み込まれようとしています。

しかしながら、日本の農業は違います。私たちは団結をもってこの難局に向かっていかなければならないのです。

我々、盟友は農政や食育活動などを通じて消費者に日本の農畜産物の可能性や良さを伝えていくとともに、社会の役に立たなければなりません。

3. 11以降、社会にとって何が必要か必要でないかを私たち農家なりに考える時が来たのではないのでしょうか。

「株アドバンス」を設立し、飼料価格の変動に対抗できる仕組みを作ったように、私たちも農業の新たな方向性として「バイオガスプラント」などの新しいエネルギー源を立ち上げましょう。

『今こそ盟友の発想力でピンチをチャンスにかえるのです！！』



平成24年度

「J A 青年組織活動実績発表全国大会」

## 千石興太郎記念賞の創設について

J A全国青年大会は今回で第40回を数えるが、昨年暮れの政府のガット合意という日本農業にとって歴史的な転機となった時勢を踏まえ、J A全青協もまさに原点に戻って自らの組織活動を見つめ直すことが必要になったと言える。

このJ A全国青年組織実績発表会においても、全国のJ A青年部盟友が40年のJ A全青協の歴史を省み、さらにJ A青年部活動が「自らの手で農業を再生する」運動に発展する契機となるよう工夫の必要がある。

そこで、J A青年組織運動の先駆者たる人物の名称を冠した賞を設定することとし、J A全青協の前身である「産業組合青年連盟」の結成に寄与した千石興太郎氏にちなんで、特別賞として「千石興太郎記念賞」を創設することとする。

(1993. 12. 24 第5回J A都道府県青年組織委員長・事務局合同会議において決定)

## 千石興太郎（せんごくこうたろう 1874年～1950年）

東京都千代田区日比谷に生まれる。明治28年札幌農学校（現北大農学部）卒業。島根県農会技師・幹事として産業組合中央会島根支会理事を兼ね、初めて協同組合運動に携わり、大いに業績をあげ、大正9年産組中央会主事となった。大正12年全国購買組合連合会（全購連）が創設されると専務理事に就任し、爾来約20年間産組中央会と全購連の会長代理、会長として指導事業と購買事業の発展に尽くした。大正12年の産業組合中央金庫の設立、昭和2年の大日本生糸販売組合連合会の創立、昭和6年の全国販売組合連合会（全販連）の設立等に参画し経営に当たった。特に大正14年産業組合振興刷新運動、昭和経済恐慌後の昭和8年から産業組合拡充5カ年計画の樹立と実行、産業組合青年連盟の結成などの業績が大きい。理論的には産業組合あるいは協同組合によって資本主義の矛盾を克服しようとする産業組合主義を提唱し、産組運動の展開に大きな影響を与えた。昭和20年敗戦後、農商務省、農相をつとめた。

引用：全国農協中央会 発行「農協関係用語辞典」



J

組織

実績発表者



東北 北海道ブックス代表 ( 76

『「こちら 過疎最前線！」

～東山でそばを作り始めた男たちの物語～』

北海道 JAふらの青年部 東山支部 おおの ひろゆき  
大野 寛之



関東 甲越ブックス代表 ( 82

『俺達の軌跡

～「大事」だと言ってもらうために～』

東京都 JA東京むさし三鷹地区青壮年部 すどう きんいち  
須藤 金



東海 北陸ブックス代表 P 91

『地域農業への貢献～

農地を守り そして未来へ』

富山県 JAみな穂青壮年部 たなか よしはる  
田中 吉



近畿ブックス代表 ( 9

『～あなたが会いたい人がいる

あなたに会いたい人がいる～「母の日参り」』

和歌山県 JA紀州中央青年部 のむら なおすけ  
野村 直佑



○ 四ブックス代表 P 100)

『新 わんぱく農場へ向けて

～20年目の挑戦～』

山口県 JA下関青年部 菊川支部 さかた けんすけ  
田 祐



九州 沖縄ブックス代表 P 104)

『「POTATO」

～ポテトでつながるプロジェクト～』

長崎県 JA島原雲仙青年部 小浜支部 みやた かずあき  
宮田 和晃



## 「こちら、過疎最前線！」 ～東山でそばを作り始めた男たちの物語～

東北・北海道ブロック代表

北海道 JAふらの青年部 東山支部 大野 寛之

### 東山って!?

我々が住む東山地域は、北海道富良野市の南側に位置し、四方を十勝岳・芦別岳という山に囲まれた盆地の中にあり、人口は昭和30年の5,954人をピークに現在は1,130人と減少の一途をたどっています。地域の総面積は23,000ha、農地総面積は3,125haで、農家戸数は166戸、1戸平均の耕作面積は約19haです。現在、耕作放棄地は約13haとなっておりますが、この地域で10年後に70歳を超え後継者のいない農業者の作付面積は596haと、現在の農地面積の20%を超えると予想されており、今後この耕作放棄地が増大していく事も懸念されています。



この地域の夏の気温は30℃、冬は30℃と温度差の激しい地域で、農作物は主に畑作（麦、甜菜、豆など）と、寒暖の差を利用した野菜（玉葱、ジャガイモ、スイートコーン、ブロッコリーなど）、ハウス園芸野菜・果実（メロン、ミニトマト、ピーマンなど）とを組み合わせた複合的な経営を行っており、特に生食用スイートコーンの作付け面積は全国トップの約270haで、全国各地の市場へ届けられ高評価を得ています。

この東山地区の市街地にあった唯一のスーパーも2009年に閉店し、生鮮食品を買い出しに行くにも半径30km圏内には存在せず、車で片道30分の富良野市街へ行かなければならない「買い物難民」が存在し、過疎化の最先端を突っ走る地域です。

## そばに向かった経緯

東山地区青年部は昭和54年に設立され、当時は約80名の部員で活動していました。平成13年にJAが大合併しJAふらの青年部東山支部として名前が変わり、今年で創立32年目を迎え現在は22名で活動しています。活動内容としては夏季研修、冬期研修、そば実証事業に加え各種研修会を行なっています。

東山地区青年部は元々、肥料の空袋を集めそれを売って資金源にしてきましたが、後に空袋の買取価格が大暴落し、1996年を最後に行われておらず、「このままじゃ青年部として一つのことを行うことが出来なくなる！」という事で何か起こそうとしたのが「そば栽培」の始まりでした。

しかし、何かを起こそうとしてもなかなか妙案が浮かばないのも現実であり、「この何か!？」を求めるために1996年から2002年までの実に6年の歳月が費やされることになりました。その間には腹を出して街中を練り歩くという、北海道珍祭りとして名高い「北海へそ祭り」への参加。農家の花嫁対策と称して合同コンパの開催等、忙しい農作業の合間に先輩方は色々なことをやってきました。その間「農業を通じて部員全員がひとつになって出来ることはないか？」と言った話し合いをしながら2002年を迎えました。

東山地域は、過疎化の波が1955年頃から始まり、人口の減少と耕作放棄地の増大という難題が見え始めていた2001年当時、その問題に地域の皆が真剣に考え始めていました。そうした問題に何か青年部で行動を起せないか？例えば、後継ぎがいなく高齢化した農家の土地を青年部が耕作することにより農地の有効利用を行えないか？

始めに、麦や加工スイートコーン、豆類、そばなどを作ってみてはどうだろう？という話し合いをした結果、この地域で誰も試みていない『そば』を作ってみよう！という流れから、2002年第23代部長を先頭に『青年部員によるそば実証圃場』というプロジェクトがスタートしました。

このプロジェクトは当初、90aという面積の中で自分達が共同でそばの作付けを行う際、資材費はいくらかかり、どのような農作業スケジュールを組み立てればよいのか？そもそも、東山地域でそば作りは可能なのか？そんな疑問だらけの中全てが手探りで行われていきました。

1年目。播種や収穫作業は役員対応の形で行われましたが「これを部員全員で行うことで、部員同志の絆や農業に関する知識の共有化が図られるのではないか？」といった認識の下、2年目

青年部概要	
昭和54年	東山地区青年部 創立 部員数 約80名
平成13年	JA大合併 JAふらの青年部東山支部へ 名称変更
平成24年	部員数 22名
活動内容	夏季研修、冬季研修、そば実証 事業、各種研修





から3.2haに拡大し、部員全員で春作業・秋作業の二手に分かれ行うことになりました。

春作業では、各部員自慢のトラクターにプラウ・サブソイラー・ロータリー・プランターを各自持ち寄り、一斉に作業していきます。天候を見極めながら耕起作業を行い、日本ニュー

ホランド株式会社の協力の下、120馬力のデモ機のトラクターとパワーハローの作業機を借り、部員が順番に試乗しながらトラクターや作業機の性能を確かめ作業をしていきます。

秋作業は、近年雨が多く大型コンバインがぬかり、思うように作業が進みませんでした。各圃場を見て回り、刈り取り可能な畑から行う等工夫して作業する形をとっています。部員各自の農作業進行状況を見ながら、そば実証事業を進めていく中で、家では聞けない農作業のポイント等の情報交換や若手部員への教育的側面もカバーしていき、部員間の絆を深めることにもなっています。そして、当初90aだった実証圃場は7年目には9haに拡大し、現在では11haもの面積を一青年部が耕し、播種し、刈り取り、出荷する。と言ったスタイルが確立されました。



### 地域とのつながり ～はじめの一步～

しかし、そばを作る中で一定の自信を深めていた部員達に対し、聞こえてくるのは周りの農家の親父さん達からの「若いやつらはトラクターを持ち寄って一体何をしているんだ?」と言った声でした。「じゃあ俺達の活動を地域の人達に認知してもらおう!」部員の思いは一緒でした。

そばを作り始めて4年目の2005年。「何か、地域の人たちに青年部でそばを作っていることをPRすることは出来ないか?」その時1人の部員が「自分達で作っているそばを製粉して、JA主催の収穫祭で地域の人に配布したらどうだろう?」それに決まりました。

1年目のそば粉無料配布には、JAの施設内にテントを敷き、自然乾燥したものを1俵(45kg)製粉しました。400g詰めの袋110袋はすぐになくなりました。

「これはいける!もっと製粉し、たくさんの人に配ろう!」

2年目には製粉量を2俵(90kg)に増やし、無料配布分200gの袋と青年部の活動資金造成のため販売分1kgの袋を用意しました。無料配布分には女性部と協力し、そば粉を用いた料理レシピ(クレープ・ドーナツなど)と一緒に配布したため、そば打ち以外でも使用できるそば粉の利用価値を見出す事ができました。販売分は、家庭で本格的にそば打ちを楽しみたいと言う地域の方々の要望に応えたところ、これが瞬く間に完売しました。

こうした流れから、品質の良さとそば打ち以外の用途を紹介したことで、3年目以降は3俵（135kg）のそば粉を配布・販売することが出来るようになり、製粉量が増えるにつれ、青年部でそばをつくり活動していることが少しずつ認知され、現在に至ります。



### 地域とのつながり ～次のステップへ～

地域の子供達と一緒に何か出来ないだろうか？部員の背中を見て、将来この地で「農業をしたい！と思ってもらえるような子供達になってほしい！」といった願望は、現在進行形の過疎化を止める試みにもなりました。

その一つとして、「小学生とのそば打ち体験」を行いました。当初、私達はそば打ちの経験が全く無かったため、地元でそばを打てる人を講師に招き、そば打ち教室を開いて何度も練習してきました。



そば打ち体験を実施する樹海小学校は、全校生徒50名足らずで複式学級も2クラスあり、過疎化地域の山あいにある小さな学校です。

まず始めにそばの栽培手順を説明し、そばの花の写真を見せ「この花に付く黒い実が、みんなの前にある白い粉になるんだよ。」と説明すると「すごーい！」と言った歓声が聞こえてきました。そして、この日のため

にそば打ち教室に通った部員達が1年生から6年生までの児童全員をサポートし、そば打ちを行いました。そば打ちの際には、力の足りない低学年の子供達でも粘土遊びのように楽しくそばを打っており、出来あがったそばは太かったり、細かったりとバラバラなそばでしたが、自らの手でそばを作り出す過程は貴重な体験だったと思います。また、この小さな地域にも関わらず名前や顔を知らない子供達との交流は、部員一人一人が地域の担い手になっているという認識を高める結果となりました。

このことがきっかけで地域の高齢者団体からもそば打ちを依頼されるようになり、この交流は高齢者と青年部との世代を超えたつながりを深め、更には地域活性化の一翼を担うという結果にもつながっていくのではないのでしょうか。



## まとめ

私たちがそばを作り始めた10年を振り返ると、試行錯誤を繰り返しながらこの青年部が成り立ってきたことが今回の実績発表の準備の中でわかりました。当初は、「耕作放棄地の有効利用の可能性」を模索してのそばの栽培でしたが、次第に「私たちの活動を知ってもらいたい」という思いも加わり、そばの栽培を通じて地域活性化の一翼を担う活動に発展していきました。



これは、その時その時の部員として出来行ってきた結果だと思います。しかし、これまで私たちがそばを作り始めた活動の中で地域の過疎化を止める決定的な手段は未だ見出せておりませんが、狭いこの東山地域の中で「何か光る兆し」を皆が感じ始めてきています。「人が少ない地域だから仕方がない」「行政の補助がないと出来ない」といった消極的な言葉が聞こえてこなくなり「人や物・お金がない中で何か面白いことがしたい!」「地元のために役立ちたい!」といった積極的な言葉が聞こえ始めてきました。

地域の中では青年部と平行して活動を行っている青年団が、自分達の作った農産物（人参、玉葱、ジャガイモ、カボチャなど）を使って男カレーを作ったり、女性部も東山地域の食材を使った豚汁を地域のお祭りで振舞ったり、冬の活動として地域の子供から大人まで集めた合唱部が出来たり、人口の減少と共に久しく行われていなかった盆踊りを若い青年有志が20年ぶりに開催したりと、人や物・お金は無いがそれを上回るアイデアや行動力で「何か面白いこと」をやろうと動き始めたところです。それも、軸となる部員達の活動の賜物だと思います。

地域の中では青年部と平行して活動を行っている青年団が、自分達の作った農産物（人参、玉葱、ジャガイモ、カボチャなど）を使って男カレーを作ったり、女性部も東山地域の食材を使った豚汁を地域のお祭りで振舞ったり、冬の活動として地域の子供から大人まで集めた合唱部が出来たり、人口の減少と共に久しく行われていなかった盆踊りを若い青年有志が20年ぶりに開催したりと、人や物・お金は無いがそれを上回るアイデアや行動力で「何か面白いこと」をやろうと動き始めたところです。それも、軸となる部員達の活動の賜物だと思います。

この10年近く、一喜一憂しながらのそば栽培を通じて作り上げてきた絆という種が、地域の協力や交流が活力となって地域活性化という芽を出し、今ようやく大きく育ち始めていこうとしています。今まで青年部で活動してきたことが、近い将来僕達が農業経営者としてこの地域を牽引していく際の一步となり、蒔かれた種がどんな花を咲かせ実をつけるか？それを楽しみに今後この地域で精一杯生きていきます！

**「こちら過疎最前線！私達はいつも東山地域の人々のそばに... そばだけにねっ☆」**

ご清聴有難うございました。





見る目もずいぶんと変わることでしょう。そのためには、子供達だけでなく家族全員が毎日見たくなるインパクトあるアイテムにしなければと思ったのです。

まずは旬です。三鷹の野菜が一番美味しく、一杯取れる旬をしっかりと書き加えました。農業は郷土文化の塊です。農家暦や農作業のタイミング、食育豆知識も掲載。お母さん向けには、三鷹の旬の野菜を使ったレシピを学校の栄養士さん達に作ってもらいました。

それだけではありません。食育カレンダーの一番の醍醐味はこれなのです。

### 『農のある風景画』

子供達が自分の目で、農業を見て感じた光景を絵にしてもらおう事です。市内の全小学校に夏休みの自主課題として募集。その中から入賞作品を13点選び、カレンダーに載せるのです。子供達にとっては自分の描いた絵がカレンダーになって、三鷹のいたるところに貼られる事になるのです。喜びも倍増です。三鷹市には小学生が8000人以上います。全員に飾ってもらうことを想像するだけでワクワクします。

市民を巻き込んでの企画でしたので、どの位の応募があるか不安でしたが、積極的な校長先生や、地域の方々の応援を得て500枚を超える絵が集まりました。

入賞作品には、市長・行政の協力も得て表彰式を開催。会場は農業祭。更に、500枚の絵を会場に展示したことで、今まで農業祭に縁がなかった人たちにも足を運んでもらう良い機会になりました。一昨年の第50回農業祭には、延べ1万5千人、市民の約10人に1人が参加する一大イベントになりました。

この食育カレンダーは応募者に配布するものでしたが、農業新聞をはじめ一般紙5紙にも掲載されたので、市民農園や家庭菜園をされている方から「カレンダーを教科書にしたい!」と問い合わせがあり大好評でした。さらに全小学校・全教室に貼ってもらったことで、2年目からは応募数も着実に増加。今年で6年目になりますが、応募総数3200枚、カレンダーの配布数7700部となっています。



今ではすっかり恒例の学校行事。その大きな反響により学校関係の壁を越え、多くの市民が目にする三鷹の名物カレンダーになりました。



### <横浜税関視察ツアー～消費者の理解を求めて～>

皆さんご存知のように、食料自給率がカロリーベースで4割を切る日本。乱暴な言い方だとは思いますが、日本人の体の6割は外国の食品で出来ているのです。とても危機的な状況です。しかし、周りに農業が元気であることの有難さが分からず、まだまだ『1円でも安いほうが！』と言う人も多いです。食農教育に励む我々にとって、とても悲しいことなのです。

ある部員から、以前に横浜税関で輸入農産物の現状を視察した時の話題が出ました。

「あの現状を、消費者にも見てもらえばいいんだ。」

「きっともう説明なんか要らなくなるんじゃないか？」

他の部員からは

「見学した後に、地場産野菜を使ったレストランに連れて行ったら？」

「きっと、すごく美味しく感じるかもよ！」

「俺達の畑にも来てもらおうよ！」

などなど…。名付けて『あつて良かった都市農業 横浜税関視察ツアー！』

この企画運営には大型バス代や昼食代など費用がかかります。しかし参加費を払ってまで参加する人がいるかどうか…。こうなったら、JAに掛け合って補助金を出してもらおうしかありません。百聞は一見にしかず。下見に同行した統括支店長が全面的なバックアップを約束してくれました。

そして当日。満員の参加者を乗せバスは一路、横浜港へ。最初に目に飛び込んできたのは、ビア樽の様な青いポリタンクの山です。炎天下に何ヶ月も放置され、それでも、ハトやカラスはおろか虫さえも寄り付かないのです。

担当者の方から、「ここにあるものは、食品という



より貨物の一つに過ぎません。全て原材料ということで食品衛生法の適用外なのです。」と。

あちこちで、驚きの声と不安な表情が見られました。

昼食では、三鷹産の新鮮な野菜を使った料理を囲みでの意見交換会。

「やっぱり、安心して食べられるのは幸せだね。輸入物の漬物はもう食べられないよ。」などの声が聞かれました。

更に、

「貴重な体験が出来てよかった。参加費を上げてもいいから、この企画を継続してほしい。」

「三鷹の野菜を買うわ。大変でしょうけど、頑張っってね。私達が支えますから。」といったありがたい言葉を頂くことが出来ました。

きちんと自分の目で見て、感じて、判断してもらう材料を提供するのがこのツアーの目的です。国産農産物を買うことによって、安全安心だけでなく、農業によって守られる環境も保全出来るということを何よりも理解してもらいたかったのです。

このツアーは企画から足掛け3年、昨年の夏で5回目、延べ200人近い参加者を迎えることが出来ました。

### <日本の農業を支えるために～一緒にがんばろう！～>

5年前から、JA直売所のイベントや農業祭に長野県青協の盟友たちが参加してくれています。全青協の『食農教育月間』の一環として、又、地元から都青協の委員長を輩出したこともあり実現したことでした。すっかり定着してきた長野県青協の直販に加え、一昨年の農業祭から新潟県青協と福島県のいわき市も参加してくれています。いわき市とは、復興支援が交流のきっかけです。原発事故による風評被害が大きいことは周知のとおり。私達にできる事はないかと考え、農業祭に招待したのです。





農業祭のステージでは、私達と3県の盟友達がそれぞれの想いを消費者に訴えるコーナーを企画。フィナーレでは、皆で『君と』を熱唱。盟友同士の絆が深まった瞬間でした。

イベントが終われば、お決まりの飲み会です。

福島県の盟友は「ICを降りて、会場に着くまでは家や建物ばかりで、どこで農業をやっているのかと思った。だけど会場に着き、お客さんや三鷹の青壮年部の方々の熱気を見てビビりました。同じ農業者として感動しましたよ。」

長野県の盟友は「俺の目標は売上1億なんです。笑われるかもしれないけど、そのくらいの思いで農業やりたいっす！」こんなにデカイ夢を持っているなんて、すごい刺激になりました。

私達は以前から都市農業という特殊な環境ゆえ、『それ以外の農業者から理解されないのでは…』と言う、ちょっと引いた気持ちを持っていました。

しかし、

『何処でやろうが百姓は百姓だろ』

『お天道様は平らに照らしているんだよ。』

という言葉聞いて、どれほど勇気づけられたか！

私達の周りは消費者だらけです。これからは都市農業だけではなく、日本に農業が有ることの大事さ、果たしている役割を、よりしっかりとアピールしていかなければと強く思いました。



## <都市農業の壁との闘い～そして未来の都市農業へ～>

『先祖代々受け継いできた農地を残したい』

『自分の子供に農業を継いでもらいたい』

農業者として当たり前の思いですが、私達の住む市街化区域内においては大きな壁が存在します。

45年前に施行された都市計画法では、『10年以内に市街化を図るべき地域』とされています。要するに『ここでは農業をしないでね!』と国に言われたのですから、補助金などは一切ありません。

『辞めなさい』と言われた所で続けていくには、自分達の強固な意思と共に、地域の、周りの住民の理解がとても重要になってきます。嬉しいことに最新の都民アンケート（H21年度の都政モニターアンケート）では、85%の人が「東京に農業・農地を残したい」と言ってくれています。

私達の究極の目標は『都市農業がなくちゃ困るんだ』と、地域や住民の方々に自ら声を上げてもらうことです。そして都市部ならではの可能性を追求した農業経営をしていく事なのです。

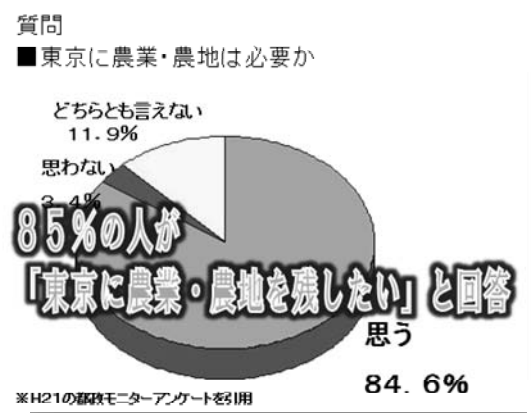
その為にも制度改正は避けては通れません。

現行の潰さんが為の制度を、なんとか変えなければ、都市農地・都市農業は生き残る事すら出来ないのです。

私達の国会議員への要請は止むことはありません。平成20年には農水大臣に三鷹へ初めて来て頂きました。当時の石破大臣は「都市農業を見直した!」と力強く仰って下さいました。平成21年には参議院農水委員会に呼びかけ、現地視察と対話集会が実現し、翌年3月には参議院予算委員会公聴会に三鷹の部員が農業者として初めて意見陳述しました。

私達は決して諦める事無く、大きな壁に立ち向かって頑張り続けてきました。

一昨年10月、私たちの思いがようやく届いたのか、農水省が『都市農業の振興の為の検討会』を立ち上げました。中間取りまとめには、都市農業を取り巻く経緯と問題点が浮き彫りにされ、



『市街化区域内的の農地も日本の保全すべき大事な農地の一部である。待ったなしの状況であるから、制度改正に直ちにに取り組む』とされました。

40年以上も国から要らないと言われ続けた都市農業が、ようやく『大事だ』と言ってもらったのです。この気持ち、皆さんにわかるでしょうか。

制度改正までにはまだまだ紆余曲折があるでしょうが、私達は絶対に諦めません。

これからも。

なぜなら、純粋な子供達によって描かれた絵は嘘をつきません。

ほら、皆楽しそうでしょ、笑っているでしょ。

これが農業の持つ力なのです。

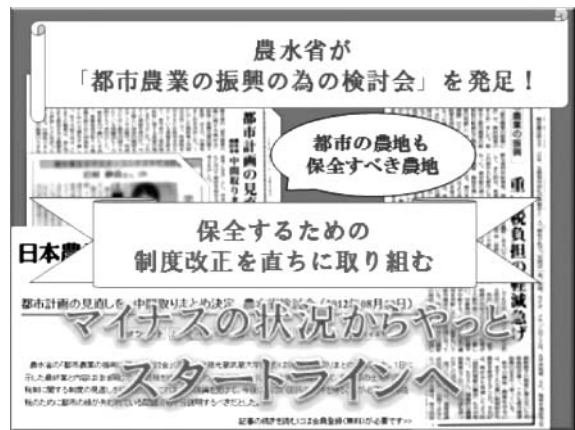
農業が必要なのだと本能的に解っているのです。

必要なものは決して無くなるはずはないのです。

だから、私達の夢が必ず実現する日が来ると確信しています。

その日に向かって、地域の方々と向き合い、盟友と気持ちを一つにし、

私達は前へ、前へ進み続けます！



<参考>

平成23年度三鷹地区青壮年部の主な活動

4 月

- ・第48回定期総会の開催
- ・東日本大震災救援物資搬送
- ・南浦小学校田んぼ種まきの実施

5 月

- ・先進地視察研修会の開催  
JAさがみわいわい市・小田原植木他
- ・南浦小学校田んぼ代かきの実施

6 月

- ・三鷹地区青壮年部ボウリング大会の開催
- ・東京都農林水産業技術交換大会へ参加
- ・南浦小学校田んぼ田植えの実施
- ・ハピ・マルシェ吉祥寺へ出店
- ・市役所直販事前宣伝
- ・夏果菜類試作圃場現地検討会の開催
- ・みたか環境フォーラム2011へ参加
- ・市内産農産物直販の実施
- ・地域循環モデル事業エコトウモロコシ配布

7 月

- ・市内産農産物直販の実施
- ・地域循環モデル事業エコトウモロコシ配布
- ・都市農業を育てる市民のつどいへ出席
- ・JA東京むさし青壮年部ボウリング大会へ参加

8 月

- ・農業機械・資材展示検討会の見学
- ・家族会の開催 102名参加
- ・こなす通信（機関誌）第139号の発行

9 月

- ・静岡県磐田市市役所職員視察受け入れ
- ・JA資産管理勉強会の開催 2回
- ・都青協リーダーセミナー ・組織活動発表大会へ参加

- ・ハピ・マルシェ吉祥寺、市役所直販の義援金 84,511 円を寄付
- ・横浜税関ツアーの開催
- ・組合員大学教育文化事業へ出席 講師 タレント 大桃美代子氏
- ・J Aいわき市青年連盟へ軽トラック寄贈
- ・都青協ソフトボール大会練習の実施

#### 10月

- ・南浦小学校田んぼ稲刈りの実施
- ・「農のある風景画」作品選定審査会の開催
- ・南浦小学校田んぼ脱穀の実施
- ・第51回三鷹市農業祭PR活動の実施  
緑化センター 謝恩イベントにてム ちゃんコロケ販売

#### 11月

- ・J A都青協イベント「東京農業食と農の日2011 花・野菜デコ軽トラパレード」へ参加
- ・第51回三鷹市農業祭へ参加  
模擬店・宝船・宝船農産物宝分け・農のある風景画表彰式
- ・チャリティ 農産物宝分けとして 31,650 円を寄付
- ・パワーポイント講習会

#### 12月

- ・関東甲信越大会活動実績発表大会へ出席
- ・南浦小学校ビストロ南浦審査員として出席

#### 1月

- ・新年会及び講習会の開催  
講師 元金融担当大臣・元内閣総理大臣補佐官 伊藤達也氏

#### 2月

- ・視察研修会の開催 熊本県阿蘇市 J A阿蘇高森支部青壮年部  
熊本県合志市 農業公園植木まつり他
- ・J A全国青年大会へ出席
- ・J A常勤理事との意見交換会へ出席
- ・こなす通信(機関誌)第140号の発行

#### 3月

- ・J A資産管理勉強会の開催 2回
- ・食育カレンダーの贈呈

## 地域農業への貢献～農地を守り、そして未来へ

東海・北陸ブロック代表

富山県 JAみな穂青壮年部 田中 吉春

### 【序章】

「おい！！醤油屋の父ちゃん、熊にやられたってよ！」

平成18年は例年に無く、熊の目撃件数や被害の発生が多く毎日巡回パトロールを実施するよ  
うな状況のもとその事故は発生しました。

早朝、愛犬と散歩に出かけたときに熊と遭遇してしまい一命を落とされたのです。

「ええッ、こんな所で熊に！？」…

事故で亡くなられた被害者の方には、色々とお世話になった事もあり大変なショックを覚え、  
それと同時に「里山の荒廃」や「有害鳥獣」、そして「放棄田」など我々農業者に出来る「何か」  
があるはずだ！！ と、これら地域農業の問題に取り組む決意をしました。

### 【これまでの活動】

JAみな穂は、富山県東部に位置し、黒部川水系の豊富な水による稲作のとても盛んな地域で  
す。平成18年3月にJA入善町とJAあさひ野が合併し、組合員数1万名弱の農協として生ま  
れ変わりました。我々青壮年部もそれと同時に組織を1本化し現在は127名が盟友として活動  
しています。その内容としては、「ウィ・ラブ・リバー」と銘打ち、水の恵に感謝して黒部川と  
小川流域の清掃活動をしています。この活動は長い歴史を持ち、昨年、国土交通省から優良団体  
として表彰されました。

また、平成21年から始めた「田んぼアート」では青壮年部からのメッセージを発信しながら  
田園に新しい景観を作り出し最後はみんなで美味しくいただいています。

それから、JAみな穂の営農方針として推進している「プラス1事業」。これは各農家が主穀  
作の他に特産品を、もう1品目育成する事業として、黒千石、唐辛子、ウコン等の栽培にも積極  
的に取り組んでいます。現在これらは、市場出荷や加工品の開発に利用しています。

## 【支部活動の展開】

さて、平成18年10月の事故以来、具体的な方策もないまま私は来年度の活動方針検討委員会に出席しました。委員長から提案されたのは、いつも通りの内容のものでした。地域農業への貢献や活性化の一助になることは十分に分かりましたがあの事故を思い出すと、もっと「何か」…といった思いにかられ、

「里山の荒廃とか有害鳥獣、放棄田・・・こいが何とかならんかなあ？」

思わず、問いかけていました。

「今年の熊、凄かったもんなあ」

「熊もそうやけど、イノシシとかサルもメチャメチャにしてくぞ」

同調する意見が次々に出され、山間地のメンバーからは、諦めのような言葉が聞かれました。そして、あるメンバーから、

「森林組合の人達、熊対策で山際の草刈りやっとなるよ」

…そんな話し合いの中から私たちは、管内の放棄田や高齢化で手が回らない田んぼの「草刈り奉仕活動」に取り組むことにしました。

この活動は、誰でも気軽に参加してもらえるように、草刈り機の燃料タンク一杯分の奉仕活動という意味合いを持たせて「ワンタンク・モーニング」と名付け実行しました。

活動の初年度（平成19年）は、私たちの支部管内にある放棄田を手始めに盟友の力を借りての活動となりました。

草刈り作業そのものは、何の問題も無く終わりましたが、作業を見ていた地権者の方から

「どうせ草刈ってくれるがなら、何か作って管理もしてくれんけ」

と頼まれてしまいました。

「ならなんとかすっちゃ！！」

・・・メンバーに相談もせず返事をしてしまったのです。

しかし行ってみるとそこは、限界まであと一步の放棄田が広がっていました。

「しまった！！」…

いい加減な返事をしたもんだと反省もする反面、目玉になる支部活動を探している時期だったので、あらためてこの件を支部のメンバーに相談してみることにしました。

「勝手に決めるなよ（笑）」

「あいとこで何作られらあ？」

「イノシシとかサルにやられるだけやちゃ」

「そいこと言わんと、ソバでも作って食べようよお」

こんなやり取りの会合と呑み会が何回か続き、メンバーにも理解してもらい、舟見・野中支部の新しい活動方針を「ソバによる放棄田回復と活動の活性化」に決定し、支部独自の活動を展開することにしました。

平成20年春、舟見地区の山あい、70aの放棄田に私たち支部盟友の6人と、近隣支部の親しい盟友数名に応援を頼み、油圧ショベル、ブルドーザー、トラクター、そして最終兵器の人力…可能な限りの力を出し切って「畑」と呼べるレベルまでに整地をしました。

作業の手を休め、木立に目をやると、サルが群れていました。

「うわあ〜、サルがキター！！でも、共存関係でなんとか…」

祈りながらソバの種を播き、活動の第一歩を踏み出しました。

活動の第二ステップは、収穫までにソバの加工技術を習得することでした。

ソバ打ち名人と言われるJA女性部OBの方から指導を受け、ソバ粉を練る、打つ、切る、ゆがいてからのお〜、絶品つゆで締めくくり。ソバ打ちの基本を教わり、日々の鍛練と身体を張った味見の積み重ねでこの年の年末には、僅かながら収穫できたソバの実を使い支部ソバ打ち感謝祭を開催することができました。

平成21年からは、地区公民館で「ソバ打ち教室」を開催したり、近隣の小学校や社会福祉施設などで「訪問ソバ打ち体験教室」を実施し、地産地消や耕作放棄地などの現状を伝える事もしています。

## 【地域活動への拡大】

このソバによる活動の活性化状況を耳にされ、実際にソバを食べにまで来て頂いた地元県議会議員の口添えで、思わぬ展開に発展する事になりました。

平成22年6月、富山県知事が来町され、若手経営者との意見交換会が開催されることになったのです。

これを機に、支部活動で感じた行政への疑問をぶつけてやろうと熱い気持ちになりました。その時は、農林水産業から商工業までの多くの若者が集まり農商工連携事業や富山製品のブランド力、新分野の開拓など多岐にわたる意見や要望が出されました。

夜の懇親会では、なかなか交流が出来なかった商工会青年部の人達とも膝を交えて語り合う事が出来ました。

会話の中で一番印象に残ったのは、彼ら青年部のメンバーで「善商」という会社を立ち上げ、



地元のこうじ味噌を使ったご当地ラーメン「入善ブラウンラーメン」を商業ベースに乗せている話についてでした。

自分達のオリジナル商品開発、もしくは異業種と連携することで、JAみな穂が推進している「プラス1事業」の展開ともリンクして感じられ、ソバに限らずいろいろな発展性がこの時に見えてきました。

平成23年2月に開催された入善町商工会が主催する「入善ラーメン祭り」は第11回を数え、冬の一大イベントとして地元ですっかり定着しています。このイベント開催にあたり、商工会青年部から「ソバ屋台出店」の要請があり、具体的な交流事業を進める上で、タイムリーなイベントになりました。

寒空の下、私たちは割り当てられたブースでソバ屋台の準備をしました。近くの事務所の一室では、手慣れた盟友が練る、打つ、切るを繰り返し運ばれた屋台で手際よくゆがかれ、お客様へ… そば屋のおやじが板についてきたようでした。

## 【農商校連携活動へ】

商工会青年部との初の交流事業を無事に終え、今後の展開をどうするか考える間も無く、その時はやって来ました。

平成23年3月、役場農水商工課の係長が、我々本部役員会の会合に突然来られ、「農商工連携事業」について説明をされました。

事の発端は、前年6月の知事との意見交換会に遡る話で、当時の意見の中に「放棄田」や「有害鳥獣」への対策から「農商工連携事業」の推進といった項目を要望していたため、そのモデル事業として入善町に予算が付いた、との事。

今回の事業では、入善町の放棄田を完全に解消し、更にそこで取れた農作物を6次産業化商品にまで活用することが目標となりました。「プラス1事業」で培ったノウハウや「有害鳥獣」に対する忌避作物栽培などこれまでの経験や知識を十分に活かせると思いました。

ラーメン祭りで初めての協同作業をしたばかりの、我々農協青壮年部と商工会青年部、そして今度は、県や町の行政も絡んだ事業ということで多少構える部分もありましたが、開墾作業は以前にも経験しており、冬場の放棄田の開墾～畑の復元～植栽以降の事業計画策定… 年度末予算執行のオマケまでついたものの、そんな寒さには負けない農業者魂を燃え上がらせました。

その後、農商工連携の調整役として委員長と私が選任され、商工会青年部の役員、町担当者との三者による調整会議が矢継ぎ早に続き、調整会議の結果、3月23～25日に放棄田約50a開墾、重機類オペレータは商工会青年部土木部会、ガテン系は農協青壮年部、後方支援は役場農水商工課に決定。直後から植栽事業開始、品目はソバと熊避け対策と言われる唐辛子。農協青壮

年部が栽培管理を担当。8月には真っ赤に実った唐辛子を収穫。唐辛子は商工会青年部と共同開発中のご当地ラーメン第二弾「入善レッドラーメン」に利用。随時、調整会議を開催し、作業の進捗を見ることとし、実施に移りました。

3月23日は前日からの降雪で80cmほどの積雪になっていました。急遽、除雪機械を出動させ現場までの道路を確保し、ショベルカーで放棄田の除雪をしながら、しっかりと根を張った樹木を伐採、掘り起こし、ストーブで暖を取りながら作業をすすめました。

開墾作業は大変でしたが、地元の入善高校農業科にも唐辛子の苗を育苗してもらい「農商工連携」ならぬ、学校の「校」を入れた独自の「農商校」連携となりました。

その後の植栽から栽培管理、収穫と順調に進み、当初心配された「有害鳥獣の被害」も無く、真っ赤な唐辛子と旨そうなソバが実りました。

今回の農商校連携事業で管内の放棄田は解消され、唐辛子の忌避性も実証でき、私たちの活動が「里山荒廃」や「有害鳥獣」の有効な対策になりました。

また、農商校連携で完成した「入善レッドラーメン」は民放会社とタイアップし、大好評発売中で、この勢いは、みな穂産のウコンをねりこんだご当地ラーメン第三弾「入善イエローラーメン」として今年のラーメン祭りでデビューしました。今後も独自ルートの模索やこれら事業の更なる発展を進めていきます。

そして、年々増加する作物被害に業を煮やした、我々盟友有志一割が、狩猟者の高齢化と減少に歯止めをかけるべく、狩猟免許を取得し、実務経験3年を経て、ベテラン指導者の下、若手有害鳥獣捕獲隊員として活動をスタートし、次なる被害者を出さない為に日々活動しています。

## 【そして未来へ】

熊騒動で目覚めた農業者魂から、草刈奉仕活動、放棄田解消の開墾事業、狩猟免許の取得、そしてソバ栽培と自分たちから能動的に進めた活動が知事との意見交換会以降の急展開による、商工会青年部や行政、高校との農商校連携プロジェクトにつながりややもすると、他の組織の動向に流されてしまいそうになりながらも一息ついて、自分達の農地を守り、そして未来へつなげるための礎にします。

また、同年11月、JAみな穂も6次産業総合化計画の事業認定を受け、直売所の再開発に取り組むこととなり、我々青壮年部もJAと歩みを合わせて、農商校連携で発展したこの活動をベースに、誰にも負けないタフな気持ちで、新しいプラス1作物や新商品群を提案し続け、地域農業への貢献活動をより強力に進めていきます。

…ご清聴ありがとうございました。



きること。以上のことをふまえ、幾度か話し合いを行いました。

ここで少し、我々の栽培主要品目であるスターチスについてお話します。スターチスは、花卉ではなく、がくを鑑賞する花です。色あせしにくく、花持ちの良い花で、その形から、仏花として使われることがあります。そして、花言葉は「変わらぬ心」と言われています。

話を戻します。まず、我々にできることとして、何をするにも予算が必要です。しかし青年部の少ない活動予算では、お金のかかるPR活動は出来ません。そこで青年部員の栽培した、スターチスなどの花を、各自持ち寄り使用することにしました。スターチスは、仏花としても使用されているので、お墓参りや仏壇に手を合わせることによって、家族の愛を再確認してもらえるよう提案することになりました。続いて、ストーリー性として、私達は、母の日に注目しました。母は愛の象徴ともいえる存在です。皆さんは母の日の起源をご存知でしょうか？諸説ありますが、アメリカの南北戦争中、敵味方問わず、負傷兵の衛生環境を改善するため、地域の女性を結束させる活動を行った女性がいました。彼女の死後、その娘が亡き母を偲び、花を送りました。母を想う気持ちに感動した人々は、母をおぼえる日として「母の日」を祝ったそうです。このことから、愛を語る日に最適と考えました。そして、「変わらぬ心」を花言葉として持つ、スターチスが活かせられると考えました。続いて、花業界の活性化として、母の日は多くの花が消費される日です。しかしながら、最近は花より品物を送る兆しがあり、消費が減少しているそうです。そこで、墓参りをPRすることによって、花の消費拡大につながると考えました。また、産地のPRではなく、花の消費行動を促すPRのため、他の花産地とも協力していけると考えました。

以上のことから、活動の方針として、対外的には、母の日に墓参りに行き、家族の愛を感じ、受け継ぎ、受け伝えられるよう、『母の日参り』を提案する。

対内的に、花の消費拡大をするため、他の産地、花屋、市場などとの協力を目指す。活動の内容として、消費者に花の配布などを行いながら、母の日参りのきっかけを与える。そして、実際の配布を行い、感じたことや反応などを花業界に伝えると結論づけました。きっかけを与え続けることによって、きっかけは習慣化し、習慣は文化となっていくよう、長期的に継続して活動しよう決めました。

実際の活動内容です。一昨年のお母の日前日に、JR和歌山駅前にて花の無料配布を行いました。実際に花を配布し、反応を見て、感想を聞くことも重要視しました。

配布する花束を作っているところです。青年部員が花を持ち寄り、束にしています。3千本の花を用意し、千束の花束が出来ました。母の日参りの提案をどう伝えるか？話し合いの結果メッセージカードを入れることとなりました。花に触れ、言葉を聞き、文字を読むことで、深く印象付けられると考えたからです。メッセージには、「うつり変わる時代の中で、忘れてはいけない家族愛。思い出むねに母の日参り。私達は、母の日のお墓参りを提案します。」と書きました。実際の配布している様子です。花束を手にした方からは「そういえば、結構いってないな、明日

行ってみよう。」「母の日に子供を連れていくのもいいな。」「おば一ちゃんに行くように渡そう。」など、うれしい反応が返ってきました。用意した千束の花束はあっという間に無くなりました。私は、今まで花束の無料配布を何度も行ったことがあります。「ありがとう、きれいなお花ね。」「このお花の名前憶えておくわ。」など、花についての反応がほとんどでした。しかし、この時の反応は、今までと少し違っていました。花の感想の後「あなたは何故こういうことしているの?」、「おもしろいことを考えているのね。」など花から人へ、人から心へと興味が移っていったように思えました。

花の配布と並行して花業界へのPRも行いました。PRと言ってもまだ活動を始めたばかりなので、紹介するような内容がありませんでした。そこで使用したツールは、私達の口と熱意でした。紀州中央名田支部の盟友数は、30名です。会合や懇親会など、個々の普段の仕事の中で、各々が広告塔として、市場関係者や花屋、他の産地などに私達の考えを伝えました。根気強く種を播いて行った結果、少しずつですが芽が出始めました。その中でもとりわけ大きな芽として、東京の大田花きの紹介を経て、大手花屋組合や大手花屋との意見交換ができたことです。私達の活動を説明し、花屋が生産者に望むことや、これからの活動に対するアドバイスなどを頂きました。また、小売店としての花屋の立場から出る率直な意見は、私達では思いもつかないようなものが多く、有意義なものとなりました。

続いて昨年の活動です。この活動にあたり、一昨年から青年部員の中で「震災被災地に花を送りたい。」という意見が多く出ていました。そこで今回は、母の日の前に、被災された方々に花を贈り、家族の愛を感じてもらい、小さなぬくもりを届けようと考えました。届けるにあたって、受け入れ先を探すことが困難でした。そこで、JAを通じて、普段からJAと親交のある、NPO法人エコキャップ推進協会の協力を得て、福島県富岡町と川内村の2つの町が受け入に協力してくれることとなりました。私達は仮設住宅にお邪魔して、花束を配布することになりました。花束を作っている様子です。青年部員が5千本の花を持ち寄り、千束の花束を作りました。今回のメッセージカードには、青年部員の被災地に対する思いを重要視し「このお花で少しのぬくもりを感じて頂ければ幸いです。一日も早い復興を心よりお祈り致します。」と書きました。そして最後に「私達は家族の愛を忘れぬよう、母の日のお墓参りを提案します。」と小さく記載しました。

花束の配布にあたり、花束の贈呈式を挙行し歓迎して頂くことができました。贈呈式の後2班に分かれ、緑ヶ丘と富田の仮設住宅で配布を行いました。花を渡した時の、被災者の笑顔は、むしろ私達がぬくもりを感じずにはいられませんでした。また、たくましく生活しているさまに、私達は逆に励まされ、勇気づけられました。今回の訪問には、富岡町川内村をはじめ、エコキャップ推進協会、福島県中央会、福島県青年連盟、和歌山県青協の盟友などたくさんの方の協力があり、改めて青年組織の大切さを考える機会ともなりました。

実際の活動は以上です。これまで行ってきた活動の反省点を考慮し、これからの活動に対する、課題や目標を決めました。まず、反省点として、私達青年部だけの活動だと、地域が限定され、PRの範囲が狭くなってしまうこと。そして、花の配布時に、伝えたいことが的確に伝わっていないのではないか？ということ。また、個々で花業界にPRする際に、青年部員の考えに少しずつズレがあるため、違ったニュアンスで受け取られてしまうことがあったことでした。これらを踏まえ、今後の課題として、まず一番身近な、JAと生産部会にも協力してもらうこと。これは現時点でクリアしました。そしてSNSを活用すること。

次に、気持ちを的確に伝え、こころに残るような、キャッチコピーや文章を作ること。そして、青年部員同士で、この活動について何度も話し合い、意識の統一をはかることになりました。そして、今年目標として『他の花産地や花屋の協力を得て、一緒に母の日の墓参りを提案する』としました。

「花を使って愛を語る。」と決めてから、これまで行ってきた活動の中で、私達青年部員が、変わってきた部分があります。それはやる気です。様々な青年部活動に、顔を見せなくなっていた部員も、徐々に顔を見せるようになり、幽霊部員までもが積極的に参加するようになってきました。最も力を入れ、自ら生産した花を使った自信ある活動と、社会的に役に立とうとしている自尊の気持ちが、大きなやる気へとつながったのです。

私達が行っている活動は、まだ始まったばかりです。これまでの経験や、頂いたアドバイスを活かし、より多くの人に知ってもらえるよう、長期的に見た根気強い活動が必要です。今日、この場でみなさんに私達の活動を知って頂くことも、このプロジェクトの1つであると考えています。もし、今日の発表で私達の活動に共感して頂ける、盟友がいらっしゃれば、是非お声をおかけ下さい。

小さな青年部から始まった、ほんの小さな愛の一滴が、大きな川の流れとなり、社会にしみわたって行くよう、これからも活動を続けて行きます。

私は思います。私に子ができ、孫が出来た時、私は伝えます。彼らへの愛を、そして思い返します。受け継いできた愛を変わらぬ心を。花を育む者として、愛を育む者として……。

# 新・わんぱく農場へ向けて ～20年目の挑戦～

中国・四国ブロック代表

山口県 JA下関青年部 菊川支部 坂田 謙祐

むかしむかし、ある庄屋が息子連れ、長府毛利藩の殿様にあいさつに行くことになりました。途中、貴飯峠から眼下の広い盆地を初めて見た息子は驚いて言いました。「父上、日本は広いのう！」「これくらいで驚いては笑われようぞ、日本はこの十倍もあるぞよ」「それなら父上、ここは小日本ですのう！」

私の住む山口県下関市菊川町は、この昔話をもとに、別名「小日本」と呼ばれています。本州最西端にあり、四方を緑豊かな山々に囲まれた盆地です。木屋川と田部川の2つの清流が流れ、田園地帯が広がっています。エビイモ・ゆず・手延素麺「菊川の糸」が特産です。

私の所属するJA下関青年部菊川支部は昭和47年に発足し40年の歴史をもちます。現在盟友12名で活動しています。今回は、私たちの活動の基本方針である2つの柱、「農業振興活動」と「地域貢献活動」に分けて活動実績を発表したいと思います。

## <農業振興活動>

私たち菊川支部の最も大きな活動が、消費者と交流する「わんぱく農場」です。米の市場開放が叫ばれていた頃、私たちの先輩が世界最大の米輸出国タイへ研修視察に行きました。そこで、その国における農業の大切さを再認識し、それを消費者にも伝えていくことが重要であるとの思いから、新たな活動として始めたもので、今年で20年目を迎えます。

わんぱく農場開始当初は参加者が300人を超え、活気にあふれていました。しかし、10年目を超えた頃から参加者が減少し、私たちの意欲も低下していきました。活動を続けていくことの難しさを肌身で感じたときでした。その後も小規模での活動を続けながら、何かいい形にできないものかと話し合いを重ねてきました。

ちょうどその頃でした。障害児の家族のグループが「もちつき大会」のボランティアを探していると聞き、平成17年1月、子育て支援グループ「ママ♪ねっとわーく 冒険ひろば」のもちつき大会の手伝いをすることになりました。下関総合支援学校に、障害児の親子、兄弟、ボランティア、私たち青年部、総勢100名が集まりました。杵と臼を使ってのもちつきの後、つきたて

のもちを参加者全員でいただきました。午後は青年部主催で「人間ボーリング」を行いました。地元の農産物をアピールしようと菊川支部だけでなく、下関青年部の5支部合同で参加し、特産品をプレゼントしました。イチゴやシクラメン、そうめん、米等があり、ねらったピンにボールが当たる度に大歓声があがり、たいへん盛り上がりました。

翌年、「あの子どもたちをわんぱく農場へ招待したらどうか」という声があがり、冒険ひろばの参加者に呼びかけ、場所を菊川町の田んぼに移して年3回の「わんぱく農場」を開催しました。6月には田植えとサツマイモの苗の植え付け、10月には稲刈りとサツマイモの収穫、1月にはJAの1室を借りてのもちつきです。田植えや稲刈りでは、人数が少ない分、田植え機やコンバインの試乗体験も取り入れました。昼食はJAを通じてそうめん組合に協力を依頼し、菊川町の特産である「菊川の糸」で作った「ぶっかけそうめん」や「焼きそうめん」を、また部員が育てた菊川町の米で作ったおにぎりも用意しています。昼食の準備はJA女性部やJA職員に手伝ってもらっています。ゲームも「輪投げ」や「じゃんけんゲーム」等、いろいろと行っています。もちろん、景品は菊川町の農産物です。部員によるガーデニング教室も取り入れてみましたら、お母さんたちに大好評でした。

平成20年からはJA下関青年部でホームページを立ち上げ、菊川支部のブログをスタートさせました。わんぱく農場当日の様子だけでなく、稲の生育状況も知らせるようにしています。

また、昨年は青年部OBよりGMOフリーゾーン拡大運動協力の依頼を受け、わんぱく農場を行う青年部の田んぼもGMOフリーゾーンとすることにし、看板を設置しました。そして、わんぱく農場で看板の説明や遺伝子組み換え作物の危険性、TPP問題との関連性をアピールしました。

ボランティアから始まった障害児家族とのふれあひも7回目を迎えました。特に障害児に限定しているわけではありませんが、自閉症の子どもが多く、一般の子どもたちと同じ場所での活動が難しいとの保護者の声もあり、昔のように大々的な宣伝は行わず、参加者の友達やその家族等、口こみでの勧誘を行っています。参加者の増減はありますが、顔なじみになった家族もいて、毎回わんぱく農場の開催を楽しみにしてくれています。地味ではありますが細々と長く続けていくことも大事だと感じています。こうした取組みが評価され、平成22年には、地元のテレビでこの「わんぱく農場」が取り上げられました。

## <地域貢献活動>

私たちは、地元菊川町に根差した活動にも力を入れています。

4月の「桜まつり」では、大声大会、綿菓子の販売やスーパーボールすくいを行っています。

7月の「夏まつり」では、焼きとうもろこし、焼きいか、金魚すくい等を販売しています。ま



た、バンド演奏は 10 年以上続いており、たくさんのファンがいます。最近メンバーの年齢や資金面で続けるのが厳しい状況にあるのですが、根強いファンや地元の皆さんの支援もあり、頑張っています。

11 月の「文化産業祭」では、もちの販売ともちつきを行い、米の消費拡大を PR しています。毎年、地元保育園の園児たちに、もちつきを体験してもらっています。

平成 19 年からは、若者で地域おこしをと町内の青年団・商工会青年部と合同で「菊川町青年団体連絡協議会」を結成し、「ジャズナイトバー」を開催しています。青年団のカクテル、商工会のやきそばと共にジャズのライブを楽しんでもらうイベントで、菊川町をアピールしようと始めました。私たちは親子連れのためのキッズコーナーとして、スーパーボールすくいや綿菓子、おもちゃのある休憩コーナーを提供しています。

昨年 9 月には、国の文化財に指定されている「歌野清流庵」の茅葺き屋根の葺き替え作業を手伝いました。「やまぐち食彩店」である「清流庵」は築 140 年の古民家で、素晴らしい景観と手打ちそばを味わうことができます。12 月には清流庵恒例のもちつき大会の手伝いもしました。この古民家の再生・保全・活用に努めている「歌野の自然とふれあう会」には我々の OB がたくさん所属しているので、これからは OB との交流も深めていきたいと思えます。

## <これから>

私たちは毎年、市長や J A 常勤役員との懇談会を設けています。昨年は、J A 下関青年部が作成したポリシーブックを基に、青年部が実施すること、行政・J A に要望・期待することについて提案・協議を行い、例年になく活発な意見交換が行われました。私たちの現状や思いをより深く伝えることができました。その中に、我が町の「道の駅きくがわ」の年間集客数が減少傾向にあるという話題がありました。地域の顔でもあり、特産品の集まる道の駅に賑わいが無いのは寂しい限りです。私たちが力になれることはないかといろいろ調べたところ、九州大学の佐藤剛司先生にたどりつき、先生の活動拠点である福岡県糸島へ研修視察に行くことになりました。佐藤先生は農学博士でもあり、地元糸島市二丈地域を中心とした若手生産者グループの勉強会「二丈農恵塾」を運営されています。今回は、塾生との交流の機会も設けていただき、二丈農恵塾が企画・主催の消費者交流イベントやテナントを紹介してもらいました。新しいことを始めるには若者・よそ者・ばか者が必要であること、イベントで集客するには名物・目玉商品が欠かせないこと、誰が中心になってやっていくか、誰がサポートをするかがポイントになること等、参考になる点が多々ありました。私たちも活動状況や道の駅の現状を伝え、意見交換をしました。

帰りの車の中では、見えてきた課題をこれからの活動に活かしていこうと盛り上がりました。研修視察後、私たちは「道の駅きくがわ」を拠点にして新しい形の「わんぱく農場」を展開し

ていくことにしました。農業振興を目的としている「わんぱく農場」は地道に続けていく一方で、地域振興のための交流の場となるような「新・わんぱく農場」を行うのです。昨年10月、道の駅きくがわの駅長さんと話し合いの場を設け、さっそく12月に「もちつき大会」を開催しました。誰でも参加自由、無料のもちつき大会です。町内の小学校に声をかけたり、折り込みチラシを配ったりして事前に宣伝したおかげで、雪が舞う寒い日であったにもかかわらず、たくさんの人が集まってくれました。子どもたち以上に、高齢の方が懐かしがってとても楽しんでおられ、来年もぜひ行おうと話しているところです。

「新・わんぱく農場」第一弾のもちつき大会は大成功でした。第二弾としては、道の駅のすぐそばにある青年部の田んぼで農業体験をしてもらい、その前後に食事会を行ってはと計画しています。目玉商品として、特産品のそうめんとわんぱく農場で育てた野菜を使った「焼きそうめん」を取り入れるのもおもしろそうです。「清流庵」まで足を伸ばしてもらいたいかもしれません。青年団や商工会、JA等と共催できれば、より大がかりなイベントを仕組むことも可能になります。そうすることで、より多くの人に菊川町に足を運んでもらうことが「道の駅きくがわ」を、そして菊川町を元気にすることにつながっていくと思います。

20年前、先輩たちが始めた「わんぱく農場」は、少しずつ形を変えながら現在まで続いてきました。そして、今、私たちは新しい形を目指して、一步一步前進しています。先輩たちが大事にしてきた、農業を、「きくがわ」を愛する気持ちを引き継ぎながら、これからも大好きなこの小日本の大地で、仲間と力を合わせて、「新・わんぱく農場」に挑戦していきます。

# 「POTATO」 ～ポテトでつながるプロジェクト～

九州・沖縄ブロック代表

長崎県 J A島原雲仙青年部 小浜支部 宮田 和晃

私たち J A島原雲仙青年部小浜支部は、長崎県は島原半島の西部、雲仙市小浜町の青年部です。島原半島は胃袋のような形をしており、J A島原雲仙では、『一億人の胃袋』をキャッチコピーにしています。

小浜町は、世界三大穀物であり、長崎県の特産品でもある馬鈴薯の主要産地のひとつで支部の盟友のほとんども馬鈴薯を基幹作物としています。

私たちは、これまで食育活動に力を入れ、地元の子供たちを対象に農業体験を行なってきた他、イベントでの出店、地域農家の免税軽油の共同申請、そして何より各種飲み会などを主な活動としてきました。

そんな中、数年前より、若手を積極的に勧誘し大幅な若返りをはかりました。

若い世代が集まった事もあって、

『どうせなら、何か面白か事ばしてみようで！(面白い事をしてみよう)』

『新らしか風ば吹かすうで！(新しい風を吹かせよう)』

『楽しくしゅうで♪(楽しくしよう)』

そんな思いが芽生え、これまでの活動に加え、新たなプロジェクトを立ち上げる事にしました。

私たちは地域の方や J A、先輩盟友から抱える問題・課題などを聞きながら、J A青年部として今何が出来るのか、何をすべきか、みんなで話し合いました。

そうして出たアイデアを元に始まった、『ポテトでつながるプロジェクト！』

テーマは『つながる』

- 1 農業体験でつながる
- 2 創作料理開発でつながる
- 3 地産地消でつながる
- 4 みんなとつながる

- 5 ジオパークとつながる
- 6 仲間とつながる
- 7 情報発信でつながる

以上のテーマに沿って進めていきます。

#### **農業体験でつながる**

私たちは地元の北串小学校3年生とその保護者を対象に地元の特産品である馬鈴薯の植え付け、草取り、収穫を通した食農教育活動を行って今年で5年目になります。

昨年からは、小浜・雲仙の温泉旅館関係者にも参加していただいています。

また、4Hクラブとの連携により、町内保育園児への芋掘り体験も毎年行っています。

実は他にもあるのですが、後ほど紹介したいと思います。

#### **創作料理開発でつながる**

#### **地産地消でつながる**

この二つがプロジェクトの核となる『つながる』です。

これまでの食育活動を少し発展させ、これからプロの料理人として巣立っていく、「調理師のたまご」の皆さんに協力していただいてはどうだろうかと考えました。

馬鈴薯にもっと慣れ親しんでもう事で、将来、馬鈴薯を使ってもらえるきっかけになれば良いなど考えました。

「たまご」の皆さんにはその柔軟な感性で新しいレシピを開発してもらおう事にしました。

これだけでは大して珍しいプロジェクトではありません。

我が小浜町は、海に小浜温泉、山に雲仙温泉があり、それらとちょうどトライアングルをなすように馬鈴薯畑が広がっています。

これを活かし、創作料理開発には温泉関係者にも関わっていただき、そうして出来たレシピとともに特産品の馬鈴薯を各温泉地に売り込む事を考えました。

これにより、新たな連携の構築、地産地消の推進、そしてなによりこれらが、年間100万人も訪れる観光客を通し、全国への大いなるPRにつながると考えられます。

メインプロジェクトスタートです。

まずは小浜観光協会・雲仙観光協会・九州調理師専門学校それぞれと協議をしました。

そこで出た意見は

- これまでも農・観連携はあったが長続きしなかった
- 小浜のジャガイモは美味いけど、多くの業者が大消費地メインの販売の為、小ロットの取引が上手く出来なかった
- 連携に取り組むいい機会だと思う
- 農業者側からこのような提案をいただけありがたい。
- 学生達にも馬鈴薯は長崎県の特産品なので教育はしている
- 貴重な体験が出来る良い機会だ

などがありました。

要望なども有りましたが、前向きな意見も多く、自分達の発案したプロジェクトに自信が持てました。

そして、九州調理師専門学校調理専攻科の生徒の皆さんへ企画の説明と情熱を伝え、アンケート形式で勉強会を行いました。

馬鈴薯について、習っているとのことでしたが、やはりあまり覚えていない生徒の方が多かった感じを受けました。

その後、約半年をかけ創作料理の開発を行っていただきました。農業体験には、残念ながら日程の都合で不参加となりました。

そして、4月と5月の二回、創作料理検討会を行いました。

出てきた料理は和食4種、洋食4種、スイーツ2種。

小浜温泉・雲仙温泉の関係者や、馬鈴薯研究室の方などに参加していただき、試食審査・批評等をいただきました。

二回目の検討会では最終の選考会に向け、7種の料理に絞りました。

7月、じゃがいも創作料理選考会を行いました。

小浜・雲仙合わせて19軒の旅館ホテルより、オーナーや女将、調理師さん等に集まっていた、関係機関とも合わせて50名程の参加がありました。

そして、選ばれた料理がこちら

- ・和食部門『じゃがいも磯辺揚げ』
- ・洋食部門『アイミルフィーユタカ季節の野菜のせ』
- ・スイーツ部門『じゃがいもアイス』

選ばれた料理を作っていた生徒の方には、認定書と副賞として各観光協会並びにJAから旅館ホテルペア宿泊券をそれぞれプレゼントしました。

8月下旬から9月上旬にかけ、6軒の旅館ホテルの協力によりモニタリングを行いました。  
地元特産品などを使った、そこでしか食べられない料理を求める声も多く、今プロジェクトに  
たいしても前向きな回答を多く頂く事が出来ました。

この結果を元に、それぞれの旅館ホテル組合や調理師会と取引会議を行い、24軒の旅館ホテル  
と翌年から取引を開始しました。

規格外品等を原料用として提供する事でPRだけでなく販売メリットもあります。

その他の旅館ホテルとも引き続き交渉中です。

今回のプロジェクトに賛同していただいた企業に対しては、こちらのロゴマークを使用してい  
ただいています。

お気づきでしょうか？

ポテトのロゴの中には馬鈴薯と温泉マークが隠されています。

販売促進用ポスターもデザインから自分たちで考え、パンフレットは旅館の若旦那さん達と一  
緒に考え作成しました

九州大会の際には福岡にある、市のアンテナショップ「キトラス」前にて、馬鈴薯と一緒に配  
布しました。

男気込めたじゃがいも！

みなさんもお一ついかがでしょうか！

## **みんなとつながる**

雲仙温泉で進行中のプロジェクト「雲仙プラン 100」への参加を通じ、雲仙温泉街の青年  
会や島原半島の有志達とつながりました。また、シンポジウムでは多くの参加者につながりまし  
た。

街頭PR用馬鈴薯の提供などで、小浜青年交友会とつながりました

九州調理師専門学校「庖丁祭」や小浜町で毎年開催されている「おばま湯 YOU祭り」で、  
多くの消費者とつながりました。

『じゃがいもアイス』の業務委託を通じ、小浜温泉街のジェラート店、長崎名物チリンチリン  
アイスの外尾冷菓とつながりました。

新品種ドラゴンレッドの栽培受託・販売促進を通じ島原半島観光連盟とつながりました。

今回のプロジェクトを通じ、近くて遠かった小浜・雲仙、二つの温泉地がつながるひとつのキッ

カケになりました。

### ジオパークとつながる

日本初の世界ジオパークに認定された島原半島ジオパークより、大野博士を招き「島原半島ジオパークとじゃがいもの美味しい関係」と題し講演会を開催しました。

これまで、上手く説明できなかつた小浜の馬鈴薯の美味しい秘密を知りました。

まず一つ目は、150万年掛けて形成されたまさにジオの恵み！

鉄分・マグネシウム・ミネラルが豊富で、更に馬鈴薯に適した土質であると言う事！

二つ目は、他地域に比べ雨が少なく、温暖な気候風土である事！

そして、農家の技術力との相乗効果により、美味しい馬鈴薯になっていたのです。

今後の協力体制も確認して無事に講演会を終了する事が出来ました。

その後、ジオパークツアーの中で東日本大震災の被災地である陸前高田の子供たちを迎え収穫体験を実施しました。収穫体験の後には温泉蒸し釜で蒸した掘りたてのじゃがいもや、(プロジェクトで作った)『じゃがいもアイス』も食べてもらいました。その時の子供たちの笑顔は、忘れられないものとなりました。

### 仲間とつながる

支部の盟友の結束力を高める為、オリジナルポロシャツを作成しました。

今日も支部の盟友が着て来ていますが、デザインは盟友で意見を出し合い、胸には馬鈴薯と鍬をモチーフにしたデザインを、背中には皆で盛り上がるという意味を込めて百姓一揆をモチーフにしたデザインにしました。

また、こちらのステッカーも製作し、おのおのトラック等に貼ってPRを行っています。

揃いのアイテムは結束力を高めるのに大変お勧めです。

### 情報発信でつながる

インターネットでの情報発信を考え、SNSフェイスブックに、一昨年の11月当支部のページを作成しました。

FBページというのはFB登録者ではなくても閲覧可能で、簡易のホームページ・ブログとして利用が出来ます。

是非、お手持ちのモバイル・PC等で検索してみてください。

『ポテトでつながるプロジェクト』HPも制作し、各旅館ホテルや観光協会のホームページか

らリンクをはっています。

活動や取り組みについて積極的にプレスリリースをだし、新聞等にて多く取り上げていただくことが出来ました。また、家の光等の雑誌にて特集を組んでいただき全国への発信につながりました。

テレビ長崎や長崎国際テレビ、NBCラジオ、ひまわりTV等でそれぞれ特集も組んでいただくことが出来ました。

## 今後の展開

現在第1期目の取り組みも終盤に差し掛かっています。

様々な問題も出てきているので、改善・改良し今後の取り組みを更に充実させ、よりよいつながりを作っていきます。

『じゃがいもアイス』においては既にジェラート店にて販売もしていますが、カップアイスとしての商品化に向けても調整していて、旅館ホテル以外での販売も目指しています。

また、インターネットを上手く活用し、ネット販売にもつなげたいと考えています。

将来的には学校給食とのつながりも視野にいれています。

実は既に次の展開として、県内他の学校も巻き込んだお土産用お菓子の開発プロジェクトや、各旅館創作によるじゃがいも創作料理のキャンペーンプロジェクト等もスタートしています。

これまでロットが小さい故にJAが消極的だった地元での販売取引等を、私たち青年部が中心となり新たな販売スタイルとして確立していきたいと考えています。

目標は、全28軒の旅館ホテルとの提携、年間販売1000ケース、カップアイス2000個、売上目標は300万円です！

これからも小浜の美味しい馬鈴薯を全国の人に知ってもらおうべく頑張っていきます！

まずは馬鈴薯から、そして、ゆくゆくは他の支部とも連携しつつ、他の農産物においても連携して行きたいと考えています。

最後に、TPP問題や生産コストの増加、自然災害や、少子高齢化など、私たちの周りには沢山の問題が溢れています。

しかし、日々の農作業が忙しいからと言って、何もしなければ何も変わりません。

私たち青年部はその若さならではの勢いと情熱と柔軟性、そして男気をもってチャレンジしていかなければならないと思います。



今回テーマに掲げた『つながる』

農家だけでなく、いろんな職業の、いろんな人達がつながり協力していく事が出来れば、その可能性は無限大です。

私たちの活動もスタートしたばかりです。まだまだ課題は山積みですが、皆が笑顔になれるそんな『つながる』を目指し頑張っていきます！

つながらんば(つながらなければ)！

応援よろしくお願いします！

平成25年度

J A全青協 正・副会長立候補者紹介

全国農協青年組織協議会役員選任規程に基づき、平成25年度JA全青協正・副会長の立候補者について平成25年2月1日まで受付したところ、それぞれの方より届け出がありましたので、候補者の略歴と立候補理由書を掲載します。

なお、平成25年度正副会長の選任は3月13日のJA全青協臨時総会において行います。

## 全国農協青年組織協議会 会長立候補者略歴

ふりがな やました ひでとし

氏名 山下 秀俊



生年月日 昭和49年1月8日（39歳）

組織名 長崎県農協青年部協議会

所属単組名 JAながさき県央青年部

専業別 専業

経営作目規模 成牛34頭、育成牛15頭、和牛繁殖10頭

経歴 平成 4年3月 長崎県立諫早農業高等学校 卒業  
6年3月 北海道文理科短期大学  
酪農学部酪農学科 卒業  
就農  
6年4月 松原農業協同組合青年部 入部  
12年4月 農協合併に伴い  
長崎県央農業協同組合 青年部員  
22年4月 長崎県央農業協同組合青年部 副部長  
長崎県農協青年部協議会 委員長  
23年5月 全国農協青年組織協議会 理事  
24年5月 全国農協青年組織協議会 副会長

## J A 全青協会長立候補理由書

長崎県農協青年部協議会  
委員長 山下 秀俊

昨今、日本国土を支えてきた農村社会は危機的状況にあります。

また、一昨年 of 東日本大震災、原発事故以降、消費者の食品に対する安全意識は高く、安全、安心な農畜産物を提供する事は我々農業者の使命です。

「その中で、食育活動、地域貢献、盟友のスキルアップ、地域リーダーの育成、ポリシーブックの取り組みを中心とした組織活動を図ります。」

特にポリシーブックの取り組みは、アメリカ研修の経験を活かし、現在進めております専門部会の会議をより一層深め、より良い政策提言集の作成を推し進めます。本協議会も60周年という節目の年を迎えるにあたり、これまでの先輩方がつくりあげてきた青年組織を今まで以上に光り輝く、そして次の世代へ「つなぐ」架け橋となるべく頑張ります。

T P P等諸問題は山積みでございますが農業経営の安定、さらなる発展そして進化させ盟友の結束をより高め、日本農業または地域社会の担い手として、責任ある活動を展開してまいります。

私は、農業が大好きでこの農業青年部に所属しました。大和の時代より日出づる国、瑞穂の国と呼ばれた緑豊かな日本、そして第一次産業を守るべくお互いに知恵を出し合い協同の精神に立ち盟友の皆様と頑張りたい。

自らの仕事、自らの技術に自信と誇りを持ち、農協青年部の明るい未来のためあらゆる可能性を模索しながら挑戦します。

J Aグループ各関係団体などと連携し、信念と正義を持って行動することをお約束します。

今後より一層のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

## 全国農協青年組織協議会 副会長立候補者略歴

ふりがな ましこ たけひろ

氏名 益子 丈弘

生年月日 昭和49年6月7日（38歳）

組織名 栃木県農協青年部連盟

所属単組名 JAなすの青年部

専兼別 専業

経営作目規模 水稲7ha、牧草（イタリアンライグラス、ライ麦）2ha、  
なす30a、山うど80a、和牛4頭



経歴 平成 5年3月 栃木県立那須拓陽高等学校 卒業  
7年3月 栃木県立農業者大学校 卒業  
就農  
9年3月 那須野農協黒磯青年部鍋掛支部 入部  
19年3月 同 支部長  
23年4月 栃木県農協青年部連盟 委員長  
23年5月 関東甲信越地区農協青年組織協議会  
委員長  
24年5月 全国農協青年組織協議会 理事

# J A 全青協副会長立候補理由書

栃木県農協青年部連盟  
委員長 益子 丈弘

“農業を継続したい” 農業者の誰もが持っている“この想い”を大切にしたい。

私たちは、東日本大震災であまりにも多くを失ってしまいました。福島第一原発事故により、今なお多くの人々が愛する故郷を離れざるを得ない状況であり、拡散した放射性物質の影響で数多くの農作物が出荷停止や風評被害に見舞われました。更に、突如として浮上したTPP問題では、農業だけでなく国民の暮らしに深く関わる事柄であるのに、正しい情報が開示されないばかりか、国民的議論も全くありません。

“私は大好きな農業をこれからもずっと続けて行きたい”一人の農業者としての心からの願いです。各々の農業者の力は確かに小さなものかも知れませんが、全国には、その想いを共有する「盟友（仲間）」がいます。その仲間たちが「心をつなぐ」にできれば、大きな力を発揮するはずで

す。一人一人の経歴や積み重ねた経験は違うものですが、様々な農業分野で活躍する全国の仲間が世代を越えて意見を交わし、ポリシーブックの取り組みにより、それぞれの思いを紡いで、大きな「絆」へと縊り合わせて行ければと願っています。そして、各段階で取りまとめた意見や要望に私たちの農業への情熱を込めて、国や県、市町村に対して、訴えていきたいと思

います。また、フェイスブックなどの媒体を活用し、消費者や様々な分野の皆様と積極的に情報交換を行い、農業への理解を深める活動もこれまで以上に強化して行きたいと考えています。

現段階で私が思い描いていることの一端を申し上げましたが、これからも全青協での活動で得られた出会いと経験を糧に、盟友一人一人に常に心通わせる気持ちと行動力を大切に

して突き進みます。“安心して農業に打ち込める環境づくり”は道半ばですが、確実に一歩ずつ目標達成に向けた活動を実践していく決意であります。先のJA全国大会における「次代へつなぐ協同」のスローガンの重みと責任を胸に刻み、この国の未来に“日本農業”を発信して参りま

しょう。皆様方の御支援と御協力を宜しくお願い申し上げます。

# 各種要領等

第59回J A全国青年大会 開催要領

平成24年度J A青年の主張全国大会 開催要領

平成24年度J A青年組織活動実績発表全国大会 開催要領

平成24年度手づくり看板制作運動ならびに全国コンクール 実施要領

平成24年度J A青年組織手づくり看板全国コンクール 審査結果

平成24年度J A青年組織手づくり看板全国コンクール 審査講評





# 第59回JA全国青年大会開催要領

## 1. 趣 旨

活動体験交流と討議を通してJA青年組織の活動の強化・発展をめざすとともに、誇り高い青年農業者の情熱をもって全国のJA青年部盟友の叡智と行動力を結集し、日本農業の振興に向かって国民とともに歩んでゆく全国運動を構築する契機とする。

## 2. 開催日

平成25年2月14日（木）～15日（金）

## 3. 会 場

日比谷公会堂 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1の3  
TEL03-3591-6388

## 4. 主 催

全国農協青年組織協議会

## 5. 参加対象

全国のJA青年部盟友および一般参加者（約1,400名）

## 6. 大会経費

(1) 都道府県の分担金として1組織30,000円

※2日間の大会の様様を完全収録したDVD4セット（1セット2枚組）の代金を含む

(2) 大会参加費として1人あたり4,000円を徴収し、事前に下記口座に振り込む。

農林中央金庫 本店 普通「4003760」

口座名義：全国農協青年組織協議会

(ゼンコクノウキョウセイネンソシキキョウギカイ)

## 7. その他

参加者の宿泊は各自手配する。

# 平成24年度JA青年の主張全国大会開催要領

## 1. 趣 旨

地道な農業体験から出たJA青年の声を掘り起こし、今後の組織活動活性化に向けてのエネルギーとするため、農業・JA・青年部に関して将来に向けての希望、意見、提言等を発表する「JA青年の主張全国大会」を第59回JA全国青年大会とあわせて開催する。

## 2. 日 時

平成25年2月14日（木）

## 3. 会 場

東京：日比谷公会堂

## 4. 主 催

全国農協青年組織協議会

## 5. 発表内容・時間

農業経営・日本農業・JA・JA青年部活動に対する希望・意見・提言。  
発表時間は一人10分以内とする。

## 6. 出場資格

ブロックで推薦された代表者で1ブロック1名とする。

## 7. 審 査

JA中央機関役職員・学識経験者・報道関係者および消費者代表が審査に当たる。

- (1) 審査基準
- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| ・発表内容                       | 70点 |
| (明確な主張、発展性、JA・JA青年部とのかかわり等) |     |
| ・発表態度                       | 30点 |

### (2) 時間制限

一人10分以内の発表時間につき、発表時間より9分経過で赤ランプを、1回照らす。10分(10分00秒)を経過したところで、赤ランプを照らしっぱなしとする。

その後5秒毎(10分01秒～)に2点の減点を行い、11分で打ち切る。

なお、発表の際に時間の計測が可能となるもの(時計・ストップウォッチ・タイマー等)の使用は認めない。

### (3) その他

個人の主張に関する審査であることを明確にするため、補助資材の使用ならびに発表者以外の登壇は一切認めない。

## 8. 表 彰

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| ・JA全中会長賞  | 1名(最優秀賞として賞金5万円を進呈) |
| ・JA全青協会長賞 | 5名                  |
| ・日本農業新聞賞  | 発表者全員               |

## 9. ブロック代表の報告

発表者出身県事務局より、本協議会事務局宛に平成25年1月24日(木)まで所定の報告様式に記入しメールにて提出する。締め切り後の内容変更は一切受け付けない。

①ブロック代表に関する報告書（別添報告様式）

②大会資料掲載原稿用データ

※ 余白の設定（上22mm・左右下20mm）、文字数41、字送り11.5pt、行数32、行送り22pt、文字サイズ11.5pt、段数1、タイトル・氏名のスペースに7行使用。（Word2007を使用して原稿を作成した場合は、保存の際にファイルの種類をWord97-2003とすること）

③顔写真データ（デジタルカメラ等で撮影：ファイル名を【氏名.jpg】とする）

以上

# 平成24年度JA青年組織活動実績発表全国大会開催要領

## 1. 趣 旨

単位組織における創意ある活動を全国に普及し、活動の活発化と組織の拡充強化をはかるため、第59回JA全国青年大会とあわせて開催する。

## 2. 日 時

平成25年2月14日（木）

## 3. 会 場

東京：日比谷公会堂

## 4. 主 催

全国農協青年組織協議会

## 5. 発表内容・時間

JA青年組織の強化と活動活発化について他の模範となり今後の発展性が期待される事例。とくに単位組織全体としての組織的な取り組みを中心に、地域内の未組織青年の組織化と地域農業およびJA運動への具体的参画を重視する。

発表時間は1組織15分以内とする。

## 6. 出場資格

ブロック別活動実績発表大会において推薦された組織で1ブロック1組織とする。

## 7. 審 査

JA中央機関役職員・学識経験者・報道関係者および消費者代表が審査に当たる。

- (1) 審査基準
- ・地域農業・JA活動との関連性 …………… 30点
  - ・組織活動の成果と発展性 …………… 50点
  - ・発表態度と技術 …………… 20点

### (2) 時間制限

一人15分以内の発表時間につき、発表時間より13分経過で赤ランプを1回照らし、14分経過で赤ランプを2回照らす。15分（15分00秒）を経過したところで赤ランプを照らしっぱなしとする。その後5秒毎（15分01秒～）に2点の減点を行い、16分で打ち切る。

なお、発表時間は最初の音声が発生してから消えるまでとし、発表者は時間の計測が可能となるもの（時計・ストップウォッチ・タイマー等）の使用は認めない。

## 8. 表 彰

JA全国青年大会において表彰する。

- (1) 千石興太郎記念賞 1組織（最優秀賞として賞金5万円を進呈）  
(2) JA全青協会長賞 5組織  
(3) 地上賞 全発表組織

## 9. ブロック代表の報告

発表者出身県組織より、下記(1)～(4)について本協議会宛に平成25年1月24日（木）までCD-R1枚に集約して下記を提出する。締め切り後の内容変更は一切受け付けない。

- (1) ブロック代表に関する報告書（別添報告様式）  
(2) 大会資料掲載原稿用データ

※ 余白の設定（上22mm・左右下20mm）、文字数41、字送り11.5pt、行数32、行送り22pt、文字サイズ11.5pt、段数1、タイトル・氏名のスペースに7行使用。（Word2007を使用して原稿を作成した場合は、保存の際にファイルの種類をWord97-2003とすること）

※ 写真データの取り込みの際は、圧縮せずに解像度を「350dpi」とする。

(3) 発表用データ

以下の事項に留意すること。

①発表においてPower Point(パワーポイント)を使用する場合は、保存形式をPower Point2007としたファイルをCD-Rに記録し、本協議会に送付する(2007以外は個別に相談要)。なお、特殊フォント(windowsに標準でインストールされていないフォント)の指定は不可。図として貼り付けること。

②データ内に動画・音声を含む場合は予め報告する。

開催前までに発表用データを確認したうえで、対応機種を本協議会にて準備する。

③準備機材以外の持ち込みは原則認めない。

※ 実績発表大会は、基本的には発表の方法は自由であり、本協議会としては事前調査を前提に各ブロック代表の発表内容に適合できる機種・ソフトを準備するのが基本的な姿勢である。

(4) 顔写真データ (デジタルカメラ等で撮影：ファイル名を【氏名.jpg】とする)

## 10. その他

BGM等の使用にあたっては、楽曲の著作権に十分留意すること。

以上

# 平成24年度手づくり看板制作運動ならびに全国コンクール実施要領

## 1. 趣 旨

農業、J A、J A 青年部活動に関して、農業関係者、地域住民（消費者を含む）が共感を持つ手づくりの看板を通じ、農業のある地域づくりの大切さを地域の住民に対してアピールする取り組みをおこなう。

そこで、優秀な手づくり看板の作成促進をはかるとともに全国コンクールを実施する。

## 2. 実施期間 通 年

### 3. 「平成 24 年度 J A 青年組織手づくり看板全国コンクール」実施要領

(1) テーマ：「農業のある地域づくりの大切さに関する地域住民へのアピール」

(2) 対 象：J A 青年部盟友、個人、または J A 青年部グループの自主制作によるもの

(3) 応募作品：① 看板部門：コンパネ等を使用した手描きの作品  
② アート部門：立体絵・ロールを利用した作品（①以外は全て）

(4) 応募方法：県組織でコンクールを実施した結果、優秀な作品について下記の(5)応募様式に基づき、①看板部門、②アート部門を合わせて3点以内を J A 全青協に応募する。

(5) 応募様式：看板・アートをデジタルカメラで2種類撮影し（①作品全体、②看板・アートの設置場所を背景とする全景（ロケーション、見え方、スケールの確認のため）、看板・アート説明書（80字以内）を添付して本協議会あてにEメールにて送付する。但し、写真一枚のデータ容量は 300KB 以上1メガ以下に調整すること。

なお、設置場所は各県における審査会の様子ではなく、実際に看板が常設されている状態を撮影すること。

（送付先）Email：seinen.s@zenchu-ja.or.jp

(6) 応募締切：平成25年1月4日（金）（※締切日以降の提出は審査対象としない）

(7) 審査方法：手づくり看板全国コンクール審査委員会（消費者団体・J A 全国連等で構成）で審査する。但し、応募作品に関して基準に適合するか予め J A 全青協理事会で選定を行う。

#### ※ 審査のポイント

- ① インパクト、外部空間の中でどれだけ目を引くか、目立つか。
- ② テーマに即した内容か。メッセージ力、訴求内容はどうか。
- ③ デザイン力、全体の構図のまとめ方、手づくり感はどうか。

※ 留意事項：作品の内容はオリジナルのものとし、著作権の関係から既存のキャラクターを使用した作品（**酷似したもの、遍観させるものを含む**）は審査対象としない。

(8) 表 彰：J A 全国青年大会にて最優秀賞（看板部門）1点、アート部門賞1点、特別賞として全国消費者団体連絡会賞・J A 全農賞・J A 共済連賞・日本農業新聞賞・地上賞・農林中央金庫賞・(株)農協観光賞・J A 全中賞の各賞を表彰する（表彰状は J A 全青協会長名）。

なお、最優秀賞には賞金として5万円を進呈する。

ただし、表彰式の出席に関して本会から交通費等は支給しない。

平成24年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」審査結果

賞 名	受 賞 組 織 名
最 優 秀 賞	J A 津 軽 み ら い 青 年 部 田 舎 館 支 部 ( 青 森 県 )
ア ー ト 部 門 賞	J A さ さ か み 青 壮 年 部 ( 新 潟 県 )
全 国 消 費 者 団 体 連 絡 会 賞	J A な ら け ん 青 壮 年 部 五 條 ・ 吉 野 支 部 ( 奈 良 県 )
J A 全 農 賞	J A み や ぎ 仙 南 川 崎 地 区 青 年 部 ( 宮 城 県 )
J A 共 済 連 賞	J A な す の 青 年 部 黒 磯 支 部 ( 栃 木 県 )
農 林 中 央 金 庫 賞	J A 福 岡 市 花 畑 青 年 部 ( 福 岡 県 )
日 本 農 業 新 聞 賞	J A 長 門 大 津 青 壮 年 部 ( 山 口 県 )
地 上 賞	J A あ ま み 青 壮 年 部 徳 之 島 支 部 ( 鹿 児 島 県 )
農 協 観 光 賞	J A ご と う 青 年 部 崎 山 支 部 ( 長 崎 県 )
J A 全 中 賞	J A 十 和 田 お い ら せ 農 協 青 年 部 十 和 田 支 部 藤 坂 分 会 ( 青 森 県 )



最優秀賞 JA津軽みらい青年部 田舎館支部（青森県）



アート部門賞 JAささかみ青壮年部（新潟県）



全国消費者団体連絡会賞

J な けん青 年部 條 吉野支部 奈良県)



J 全農賞

J みやぎ仙南 崎 区青年部 城県)



J 共済連賞

J な の青年部 黒磯支部 栃木県)



農林中央金庫賞

J 福 市花畑青年部 福 県)



日本農業新 賞

J 門大津青 年部 山 県)



地 賞

J あ み青 年部 徳之島支部 鹿 島県)



農協観光賞

J ごとう青年部 崎山支部 崎県)



J 全中賞

J 十和田おいらせ農協青年部 十和田支部 藤坂分会 (青森県)



## 平成24年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」審査講評

全国農協青年組織協議会が主催する平成24年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」には、全国31都道府県から73作品（看板部門59点、アート部門14点）の応募があり、平成25年1月18日（金）に東京・大手町のJAビルで審査委員会を開催しました。募集作品のテーマは昨年同様「農業のある地域づくりの大切さに関する地域住民へのアピール」とし、インパクト、メッセージ力、デザイン（手づくり感）などの視点から審査を行いました。

審査委員会では、全国消費者団体連絡会、JA全農、JA共済連、農林中央金庫、日本農業新聞、家の光協会、農協観光、JA全中の各団体からお集まりいただいた広報担当の職員など8名の委員で審査を行いました。審査委員長は互選により、全国各地の青年部活動を記事として取り上げてくださっている雑誌「地上」の編集長である家の光協会・神 菌 太 郎 氏が選ばれました。

審査の結果、最優秀賞には「JA津軽みらい青年部 田舎館支部（青森県）」の作品が選ばれました。「わぁ、この村も人も大好きだァ」というメッセージと優しさがあふれている絵の関係性が素晴らしく、「農業ある地域づくりの大切さ」というテーマを上手く捉え訴えかけている点が高く評価されました。特に、地域も農業も「大好き」といメッセージが分かりやすく、絵にインパクトがありながらも、親しみやすさ、手づくり感があり、全体のデザイン構成も含め完成度が高い作品です。喜び、楽しさ、うれしさ、力強さがあり、看板を見た人が、地域も農業も「大好き」というメッセージに共感しやすく、メッセージが温かく伝わってくるのが最優秀賞に相応しいと評価されました。

アート部門賞には「JAささかみ青壮年部（新潟県）」の作品が選ばれました。おいしそうにおにぎりを頬張る子供、地域の豊かな自然の様子などが温かみのあるデザインであり、食・農・環境を意識しつつ、「農業のある地域」が自然に伝わってくる点が高く評価されました。また、ブロック塀に大きく描かれており、地域住民へのメッセージ効果は、その作成過程も含め、非常に強いものとなっています。加えて、2年にわたって盟友が作業を分担して作成したとのことであり、自分たちの想いを伝えるという青年部の熱い気持ちが伝わる作品であり、アート部門賞に相応しいと評価されました。

以下、特別賞について講評を申し上げます。

○ 全国消費者団体連絡会賞「JAならけん青壮年部 五條・吉野支部（奈良県）」  
看板としては異色のシンプルで色を押さえ、素朴な温かさを表現していることが、逆に「旬をたべる喜び」というメッセージを強調しており、看板を使ったアピール戦略として成功している点が高く評価されました。看板を見た人に、地域の食の大切さがしっかりと伝わる素晴らしい作品です。ロードサイドという設置場所ですが、ドライバーの目に飛び込み、印象に残ります。

○ J A全農賞「J Aみやぎ仙南川崎地区青年部（宮城県）」

看板としてのインパクト、分かりやすさ、全体構成のバランス感覚が優れており、安全でおいしい食を届けるという強いメッセージがはっきりと伝わってくる点が評価されました。また、看板を見た人が、地元の牛や牛肉を意識し、牛肉を食べたくなるような気分になる秀でたデザインと力強さのある作品です。

○ J A共済連賞「J Aなすの青年部 黒磯支部（栃木県）」

看板の大きさ、ロードサイドという設置場所、さらに夜間はライトアップをしてアピールするという点で、看板という表現方法を最大限に利用している点が評価されました。「農業でみんな幸せに」という地域の子供の想いを上手く取り上げ、手づくり感とメッセージ力のある作品となっています。

○ 農林中央金庫賞「J A福岡市花畑青年部（福岡県）」

「私も地球も活着ている」というメッセージとカラフルな色使いが、農業の楽しさや大切さを訴えかけてくる点が評価されました。看板を見た人が元気になるような作品であり、都市型農協の中で農業の理解を深めようとする熱い想いを感じる作品です。

○ 日本農業新聞賞「J A長門大津青壮年部（山口県）」

直売所での設置という設置場所の特性を活用した看板であり、子供が見ても「命を食べる」というメッセージがしっかりと伝わる点が評価されました。農畜産物を購入に来た地域の方に対して、農業の大切さ、食の大切さをピンポイントで伝えることのできている作品です。

○ 地上賞「J Aあまみ青壮年部 徳之島支部（鹿児島県）」

メッセージとデザインが素晴らしく、目にした人の足を止めるような強い想いを感じる点が評価されました。看板としてはメッセージが長いものの、J A店舗の入り口に設置していることもあり、組合員や地域の方が足を止めることを計算して作成している点も評価されました。

○ 農協観光賞「J Aごとう青年部 崎山支部（長崎県）」

青年部らしいシンプルなメッセージとデザインが、「地域の農業を支える」という想いを明確に訴える作品となっている点が評価されました。若手農業者の結束や多様なメンバーによる自己の高めあいという青年部の意義さえも感じる作品となっており、青年部の結束の強さを感じる作品です。

○ J A全中賞「J A十和田おいらせ農協青年部 十和田支部藤坂分会（青森県）」

シンプルさと洗練されたデザインが評価されました。「No Agriculture, No Culture」というメッセージを伝えるということに主眼を置いた上で、デザインなどの全体が構成されており、看板の意義をしっかりと認識されている作品です。

今回のコンクールに寄せられた作品も、その一つ一つが個性的で、地域の状況をしっかりと踏まえながら制作されており、制作に携わった盟友の強い想いが伝わってくる作品ばかりでした。特に、メッセージとデザインのバランスが取れた作品が多く、看板としての完成度が昨年よりも高かったように思われます。

また、看板部門・アート部門にかかわらず「メッセージ（テーマ）を地域住民にどのように伝えているか」という点が評価のポイントとなりました。メッセージそのものやデザインは言うまでもなく、設置場所（通行人等の目にどのように入るか）、設置期間、大きさ、設置方法など、外部空間の中でどのようにメッセージを伝えているのかという看板としての本質的な部分が受賞の決め手となりました。

今後は、テーマを踏まえた上で「誰に」「何を」「どのように」伝えるのかを盟友の皆さんで確認・共有し、ぜひ作品のロケーションや見てもらいたい対象を十二分に考慮して作成に取りかかっていたいただきたいと思います。

看板は地域住民とのコミュニケーションツールの一つと言えます。一枚の看板が、道行く人へ食と農業への理解を深めてもらうきっかけとなり、さらにその作成過程を通じて青年部の結集が今後ますます強まることを切に願っています。今後も本コンクールの開催が看板制作の励みになること、そして青年部の看板が全国各地に建てられ、日本農業の情報発信源となり続けると確信しています。

# J Aグループ・関係団体事業活動広告



若手農家が耕す革命の畑！ 2013/2/28 木 > 3/3 日

# Agri★Station Fes 2013

若手農業4団体による未来の農業を変えるコラボイベント第1回



「農業をもっとよくしたい！」

そうした想いが募る一方で、個々や団体での活動で出来ることには限りがありました。同じ想いを持つ仲間をもっと多くいるという事に気がつき、仲間が集うことで、これまで以上の表現や演出がきっと出来るはず。その可能性を信じ、2012年春に実行委員会が結成されました。農業を支えていく20～30代の若手農業者と、応援側の各団体による新しい取り組みを開始いたします。第1弾として、若手農業者が自分たち自身を鼓舞し成長し、新しい出会いときっかけを得るためのイベントを4日間行います。

Future! <http://agri-station.jp> 公式ウェブサイト

## アグリステーションフェスティバル★イベント開催概要

2013/2/28 木

3/1 金

3/2 土

3/3 日

AM	<p><b>第52回全国青年農業者会議</b></p> <p>毎年開催をしている4Hクラブの全国大会。各地域ごとの活動発表や全国の仲間たちが交流をはかり、学びを得る機会として開催しております。 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター</p>	<p><b>第52回全国青年農業者会議</b></p> <p>4Hクラブの全国大会2日目 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター</p>		<p><b>農業政策集会</b></p> <p>農家と農業政策の連動がとれていることでより良い農業ができあがるはず。批判や否定をするのではなく、未来の農業に向け、全国からの選抜メンバーで政策を提言します。</p>	<p><b>FOOD2040</b></p> <p>これからの世界の食糧事情について考える、パネルディスカッションを行います。</p>
	<p>★各イベントは事前のお申し込みが必要です。(一部有料) 当日券のご用意も予定しておりますが、事前の申込状況によっては十分なお席が確保出来ない可能性がございます。</p>	<p><b>スター農家発掘オーディション Star's&lt;最終審査&gt;</b></p> <p>若手農業者、新規就農希望者を応援するビジネスプランオーディションの第1回！動画投稿による1次審査を勝ち残った応募者のプレゼンテーションと、オーディション方式の公開審査です。 会場：ラフォーレミュージアム六本木</p>	<p><b>農家のこせがれネットワーク 4周年記念</b></p> <p>毎年開催をしている農家のこせがれネットワークの年次活動報告会。 会場：東京・六本木エリア (詳しくはお問い合わせ下さい)</p>	<p><b>農家のこせがれネットワーク 4周年記念</b></p> <p>有名料理店が集まる人気のエリア、麻布十番商店街にご協力をいただき、農家やこせがれはもちろん、就農をしたい方や農に興味がある方などが集い、熱い交流が出来るようになります。 会場：麻布十番商店街 (詳しくはお問い合わせ下さい)</p>	<p><b>日米若手農業者交流 (仮名)</b></p> <p>日本とアメリカの若手農業者との、かつてない国際交流企画。FFA (Future Farmers of America) のプレゼンテーション、日米の若手農業者の取り組み発表などを行います。 会場：政策研究大学院大学 (3月3日開催のイベント全て)</p>

★各イベントの詳細情報、参加のお申込は、公式ウェブサイト<http://agri-station.jp>より受付中です。

### 実行委員

- 大西雅彦 全国農協青年組織協議会 平成22年度 会長
- 西辻一真 株式会社マイファーム 創業者
- 大越正章 全国農業青年クラブ連絡協議会 会長
- 宮治勇輔 特定非営利活動法人農家のこせがれネットワーク代表理事

お問い合わせ  
Agri-Station 事務局

TEL : 03-6277-8006  
FAX : 03-6701-1023  
MAIL : info@agri-station.jp

Facebook ページで投稿動画の閲覧や「いいね」で盛り上がる！

STAR's ページ <https://www.facebook.com/agristationfes2013.stars>  
ASF 公式ページ <https://www.facebook.com/ASF2013>

\*一部 Facebook のログインが必要なページがあります  
\*一部端末からは閲覧出来ない場合があります。



日本を、  
もっと  
食べよう。



みんなの  
よい食  
プロジェクト

テレビで。ラジオで。ただいま進行中!

よい食

検索

「みんなのよい食プロジェクト」  
公式 Facebook ページもご覧ください。

しょく



## みんなの よい食 プロジェクト





これからの日本人にとって  
『よい食』とは何かを、  
日本の農家とJAグループ、  
消費者のみなさんが一緒になって考え、  
行動していく。そして、やがては「国産」を  
選び食べることを当たり前にする。  
それが「みんなのよい食プロジェクト」です。


シンボルマーク「笑味(えみ)」ちゃんが  
「よい食」を全国に広めています。  
漢字の『食』の形をモチーフに笑顔で  
おいしく食べている姿を、日本らしい  
色づかいでデザインしました。




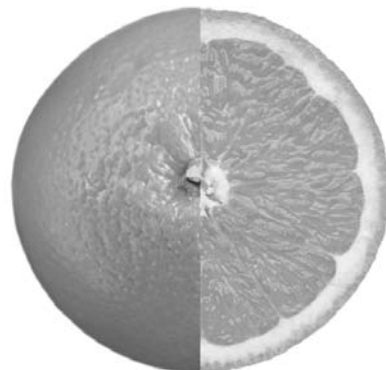
## ひとりひとりによい食を。

よい  とは、おいしい食のこと。

よい  とは、楽しい食のこと。

よい  とは、家族の健康を支えるもの。

よい  とは、よい暮らしそのもの。



# 田んぼは 「奇跡」を 起こしたり しない。

田んぼは、夢のような「奇跡」を、起こしたりしない。

田んぼは、驚くような「変革」を、起こしたりしない。

今日もただ、私たちの前に佇んでいる。

けれども田んぼは、

稲を大きく実らせて、日々生きる糧を与えてくれる。

降りそそぐ雨を貯めて、川の洪水を防いでくれる。

夏の暑さを吸収して、気温の上昇を和らげてくれる。

田植えや稲刈りの体験で、お米をつくる尊さを教えてくれる。

四季折々の顔を見せて、私たちが癒やしてくれる。

トンボやカエル、メダカ、数えきれないほどの小さな命を育んでくれる。

稲から燃料をつくり出し、新しい資源を生み出してくれる。

地域の文化の源になって、私たちの心を結びつけてくれる。



田んぼは、今日もただ、私たちの前に佇んでいる。  
目に見えぬ恵みを、静かに、もたらしながら。

全農

もっと近くに。

<http://www.zennoh.or.jp>

## 「田んぼの生きもの調査」が全国に広がっています。

J A 全農では、人と生きものに優しい農業を目指す「田んぼの生きもの調査」活動をすすめています。2005年からはじまったこの取り組みは、地球の環境保全に関する国際条約である「生物多様性条約」の農業分野の評価手法として注目されており、今後の活動が期待されています。にぎやかな田んぼが日本中に広がるといいですね。



田んぼの  
ことは  
生きものに  
聞こう。







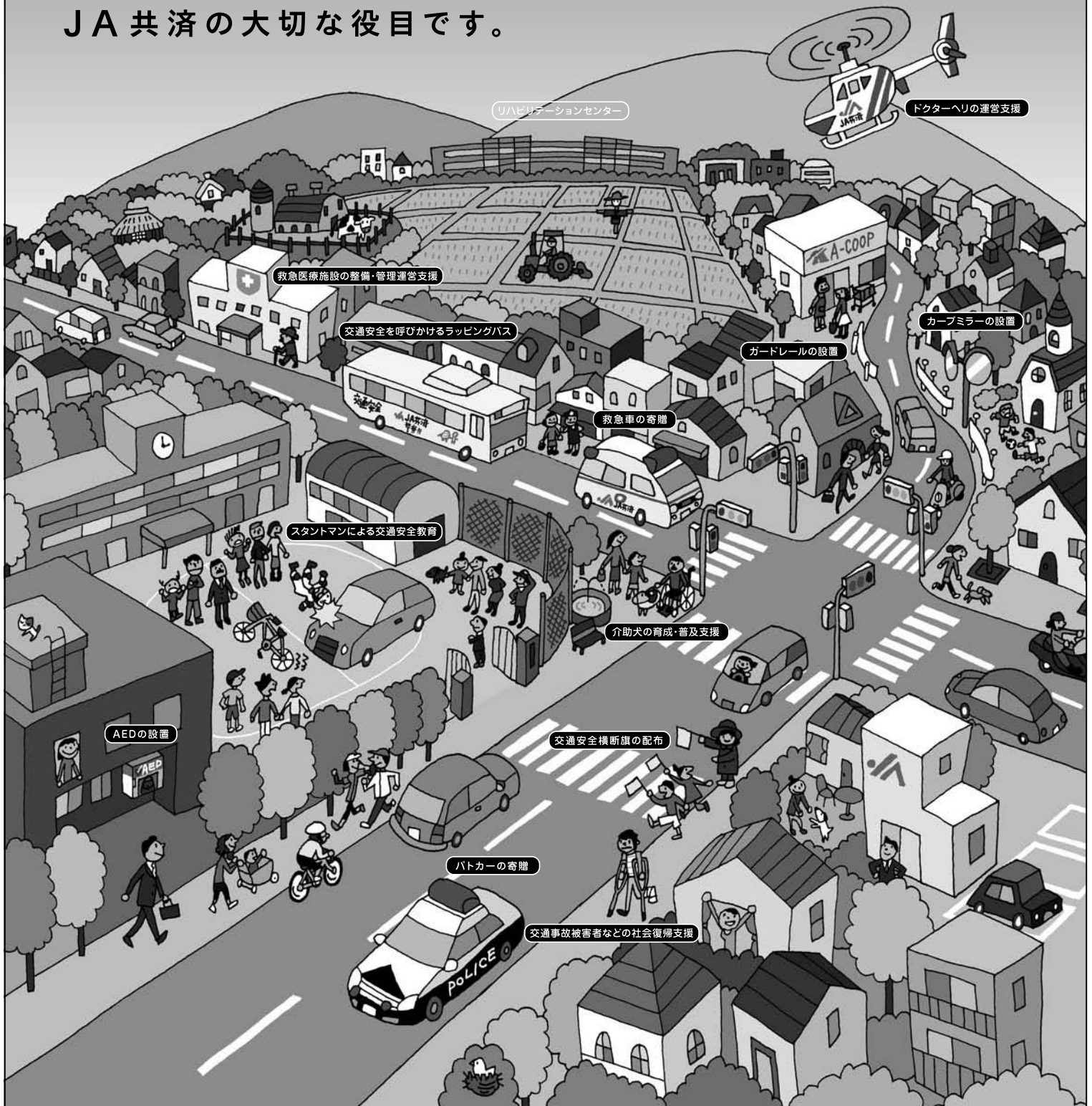
いつまでも、地域のそばに。  
いつまでも、暮らしの安心を。

「ひと・いえ・くるま」の総合保障。地域とともに歩み続けます。

 **JA共済**

**ひと** ●終身共済 ●医療共済 ●**[NEW]**がん共済 ●引受緩和型定期医療共済 ●予定利率変動型年金共済 ●養老生命共済 ●こども共済 ●定期生命共済 ●傷害共済 など  
**いえ** ●建物更生共済 ●建物更生共済 My家財 ●火災共済 など **くるま** ●自動車共済 ●自賠責共済

安全・安心を育てるのも、  
JA共済の大切な役目です。



地域と共に育ち、地域と共に歩み続けるJA共済が大切にしているのは、“身近な安全・安心”です。

毎日の通学で自転車を使い始める中学・高校生向けには、自転車交通安全教育を実施。

小学1年生へ向けた交通安全横断旗の無償配布の支援も行っています。

次世代の主役となる子供たちに向けたこれらの活動が目指すのは、地域の安全・安心がさらに大きく育っていくことです。

JA共済は他にも、交通安全インフラの整備や介助犬の育成・普及支援、

リハビリテーションセンターでの交通事故被害者などの社会復帰支援といった取り組みを通じて、

地域のために、地域の近くで、交通安全対策を中心とした地域貢献活動を進めています。

くらしを守る。地域の安全・安心を守る。

## ●●地域の安全・安心プロジェクト●●

# この国の 食とくらしを、 支えたい。

日本の自然は豊かで、多様性にあふれています。

その恵まれた自然のなかで、日本の農業は、地域にあわせた食と文化、美しい里山といった素晴らしい財産を育んできました。

農業者や地域の人々が助け合い、支え合う仕組みとして生まれたJAバンク（JA・信連・農林中金）は、それぞれの地域に寄り添いながら、その農業を、安心できるくらしを、JAグループとともに応援してきました。

いま、日本の農業は、食料自給率の低下、後継者不足をはじめ多くの課題に直面しています。しかし、だからこそ。

みんなで知恵を出し合い、新しい可能性を育てながら、どんな時代にも変わることのない大切なものを守っていきたい。

豊かな食と、心の通う地域のくらしを、

私たちJAバンクはこれからも、応援し続けます。



## JAバンクの農業・地域サポート機能

ご相談  
コンサルティング

融資

出資

商談会  
ビジネスマッチング

貯金・為替等  
金融全般

利子助成

投資

新規就農応援

食農教育応援

## 社会貢献活動

詳しくは、お近くの  
JA・信連・農林中金まで  
お問い合わせください。

JAバンク 検索



族はいつも暖かい。



©長谷川町子美術館

JAバンクは、貯金はもちろん、ローンなどさまざまな商品をとおり、  
地域の皆さまの暮らしを支えるパートナーとして、ご相談、アドバイスさせていただきます。

ご家族の毎日に、生き生きとした活力を。

お近くのJAに、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

JA貯金

JAローン

 JAバンク  
<http://www.jabank.org>



おかげさまで  
創刊85周年。



これからも、

「食」と「農」の情報紙で

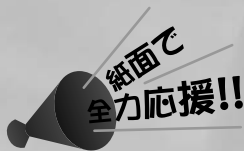
あり続けます。



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

<http://www.agrinfo.co.jp>



青年部員必携！ますます使いやすく！日々の活動のバイブルに！

# JA 青年部手帳

2013年版  
JA YOUTH NOTE BOOK 2013

JA 青年部手帳は、「魅力ある活動展開」、「魅力ある組織づくり」、「魅力ある地域づくり」をめざす青年部員のために作られた手帳です。青年部の活動記録や日々の記録を書き込むことで、次に何をすべきかが見えてきます。青年部員をサポートする便利な情報も満載です！！

JA 青年部の活動を支えるスケジュール帳や情報・資料が満載！

## お天気データベース

営農計画作りに役立ちます！

## JA全青協ポリシーブック

NEW

お天気データベース 1~4月 2013(平成25年)

日	平年値	最高気温	最低気温	日照時間	降水量	平均気温	湿度	北陸	甲信	東海	近畿	山陽	九州	沖縄
1月	4.2	2.6	2.5	11.6	7.0	4.3	51.6	67.5	5.8	6.3	6.9	7.4	9.1	17.5
5日	9.3	5.9	0.8	15.3	4.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
15日	17.4	12.4	12.4	12.0	9.6	12.3	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	15.1	23.4
25日	22.4	18.4	15.3	14.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
2月	4.2	2.6	2.5	11.6	7.0	4.3	51.6	67.5	5.8	6.3	6.9	7.4	9.1	17.5
5日	9.3	5.9	0.8	15.3	4.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
15日	17.4	12.4	12.4	12.0	9.6	12.3	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	15.1	23.4
25日	22.4	18.4	15.3	14.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1

日	平年値	最高気温	最低気温	日照時間	降水量	平均気温	湿度	北陸	甲信	東海	近畿	山陽	九州	沖縄
3月	4.2	2.6	2.5	11.6	7.0	4.3	51.6	67.5	5.8	6.3	6.9	7.4	9.1	17.5
5日	9.3	5.9	0.8	15.3	4.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
15日	17.4	12.4	12.4	12.0	9.6	12.3	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	15.1	23.4
25日	22.4	18.4	15.3	14.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
4月	4.2	2.6	2.5	11.6	7.0	4.3	51.6	67.5	5.8	6.3	6.9	7.4	9.1	17.5
5日	9.3	5.9	0.8	15.3	4.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
15日	17.4	12.4	12.4	12.0	9.6	12.3	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	15.1	23.4
25日	22.4	18.4	15.3	14.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1

日	平年値	最高気温	最低気温	日照時間	降水量	平均気温	湿度	北陸	甲信	東海	近畿	山陽	九州	沖縄
1月	4.2	2.6	2.5	11.6	7.0	4.3	51.6	67.5	5.8	6.3	6.9	7.4	9.1	17.5
5日	9.3	5.9	0.8	15.3	4.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
15日	17.4	12.4	12.4	12.0	9.6	12.3	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	15.1	23.4
25日	22.4	18.4	15.3	14.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1

日	平年値	最高気温	最低気温	日照時間	降水量	平均気温	湿度	北陸	甲信	東海	近畿	山陽	九州	沖縄
3月	4.2	2.6	2.5	11.6	7.0	4.3	51.6	67.5	5.8	6.3	6.9	7.4	9.1	17.5
5日	9.3	5.9	0.8	15.3	4.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1
15日	17.4	12.4	12.4	12.0	9.6	12.3	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	15.1	23.4
25日	22.4	18.4	15.3	14.4	10.1	13.3	19.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	41.1	51.1

**JA全青協 ポリシーブック 2012**

【数字農業者が実践的行動指針とビジョンを描くために】

行動目標としてのポリシーブック

政策集に「青年部の方針」を掲げる意義

「JA全青協」が掲げる行動指針とビジョン

「JA全青協」が掲げる行動指針とビジョン

「JA全青協」が掲げる行動指針とビジョン

↑「青年部の政策集」となるポリシーブックを掲載。

JA全青協のページ

仲間同士の絆をさらに深めよう

JA青年部マク

JA青年の歌

「お天気データベース」とは？

●営農計画に役立つお天気情報が充実です。

毎月15日(5日)、中旬(15日)、下旬(25日)の平年値データ(平均気温・最高気温・最低気温・日照時間・降水量)、「お天気データベース」を全国16の地点に分けて掲載しています。

(平年値は1981年～2010年の30年間の統計です)

↑資料ページには、JA青年部綱領などを掲載。

週間スケジュール

ベーシックで使いやすい！

↑食・農業・気象に関する行事を掲載しました。

## JA 青年部手帳 “3つの特徴” をご紹介！

- JA全青協ポリシーブックを掲載**  
若手農業者が長期的な営農ビジョンを描くための行動目標と政策集「JA全青協ポリシーブック」を掲載しました。
- JA全青協の資料も充実**  
2005年3月に制定された新綱領はもちろん、JA青年の歌、歴代会長名簿などの資料を収録しています。
- 農事・営農計画に役立つお天気データベース**  
平年値からお天気の傾向がつかめる資料ページの「お天気データベース」、週間スケジュールに掲載の「お天気メモ記入欄」など農事・営農計画の役に立ちます。

### ●主な内容

JA青年部組織綱領、JA青年の歌、JA青年部の活動実績、全国農協青年組織協議会規約、歴代会長名簿、農業・肥料の使用履歴ノート、国会・官庁・JAグループ・農林団体の住所・電話番号等の一覧、JA都道府県青年組織一覧、JA全青協ポリシーブック、年間スケジュール表、お天気データベース、月間スケジュール表、週間スケジュール表、自由に使える罫線ノート、議事録、健康カード・身分証明書

JA 青年部手帳 2013年版

11月中旬発売予定

●サイズ(タテ140mm×ヨコ90mm)

●192ページ

※送料は実費をご請求いたします。

※制作の都合上若干仕様変更になる場合がございます。

定価 **410円** (税込み)

編集 JA YOUTH

JA全青協(全国農協青年組織協議会)発行



株式会社 日本農業新聞

# 地上が 2013年5月号より 生まれ変わります！

3つのテーマを  
毎月掲載！

5月号からこれら3つの企画を、毎月掲載します。

## ①世界・日本の社会経済を読む

企画例 「規制緩和がもたらしたこれだけの罪」  
「コンビニの“時代をみる目”に学ぶ」

## ②農業・農政の動きを解説する

企画例 「農業者戸別所得補償でうちの経営はこう変わった」  
「今後のエネルギー事情と農業」

## ③今後のJA・地域を展望する

企画例 「うちの支店はここが強い その戦略と戦術」  
「徹底解剖 日本一住みやすい町」

# 地上

GOOD EARTH



JAグループ 家の光協会

わたしたちも  
東日本大震災からの  
復興のために  
全力を尽くします。

購読誌代(税込) 普通月号590円 / 別冊付録月号(4・11月号)650円 年間定価合計7,200円

## 購読のお申し込みはお近くのJAへ

発行:家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL:03-3266-9039

※タイトル・内容につきましては、変更することがあります。



ローカルとグローバルを併せもった視野を養い、  
農と食を基本に据えた地域づくりや  
今後のJA運動に資するヒントを提供します。

## TPP問題も 発信します。

**STOP!  
TPP**

TPPをめぐる動きに対応しつつ、  
農業や地域社会に与える  
影響について随時掲載します。

継続掲載

## 次代のリーダーのための企画

- ・JA青年組織リーダーの横顔
- ・JA青年組織の活動レポート
- ・若い女性農業者の夢と挑戦

## 農業経営や営農販売に 直結する企画

- ・農政、農業情勢やその背景を解説
- ・時事的な課題を「今月のキーワード」で解説
- ・はやっている店、売り方、商品開発など  
マーケティングや消費動向のレポート
- ・市場流通の現場など業界方面からのレポート
- ・研究所、試験場からの技術・研究最前線レポート

## 農村や農業の現場から 発信するエッセイ・コラム

- ・佐賀県在住の農民作家・山下惣一さん
- ・岩手県に根を張る元行政職員・役重真喜子さん
- ・若手農業者がつづる“リアル”

こんな方々に『地上』の購読をおすすめします!

JA青年組織、JA女性組織、JA総代、農家組合、  
生産部会などの組合員組織、  
JAグループの役職員

まずは、JAの役職員から  
購読して情報発信を!

お申し込みはJAまで





# いい旅を支える TOUR 農協観光!!



私たちはふれあいツーリズムをお届けする

**ふれあい  
ツーリズム**

 TOUR

ふれあいコーディネーターで

商標出願中



## TOUR 農協観光では旅行はもちろん、色々な商品をご提供。 この冬おすすめの商品をご紹介します!

※商品は一例となります

### 東北 応援

ぜひお試しください。  
**東北には美味満載!**



内容:油麩丼112g×2個、牛タンカレー180g×2個、トマトカレー200g×2個

### はらから人気メニューの レトルトセット

B-1グランプリ出場の「油麩丼」を始め  
「牛タンカレー」、「トマトカレー」の人気  
メニューの詰め合せです。

1セット **3,000円**  
(税込・送料込) (関東届け)

### 青森



### りんごとぶどうの旨味を ぎゅっしり詰め込んだ フルーツシャーベット

りんご王国・青森のりんごの旨味いっぱいの絶品シャーベット  
と、人気のぶどうシャーベットの詰め合せです。

1セット **3,900円**  
(税込・送料込) (沖縄をのぞく)

内容:りんごシャーベット120ml×6個、ぶどうシャーベット120ml×6個 ※りんごのみ12個、ぶどうのみ12個のセットも可

※配送地域によって商品価格が変わります。



お肌が気になるこの季節!

**美容商品**を特別価格でお届けします。

まとも  
買いなら  
お値引き

無着色・無添加・無香料、  
アレルギー特定原材料不使用  
天然素材へのこだわり!  
茶の実石鹸



### 茶の実<sup>エキス</sup>配合 石鹸 雪肌の微笑

サポニン・カテキン・ビタミンなど、  
お肌に大事な成分が総合的に含まれた  
石鹸です。

	特別価格	通常価格	
1個	1,980円	(2,480円)	21%OFF
2個	3,480円	(4,960円)	30%OFF
3個	4,460円	(7,440円)	40%OFF

ハリウッド発!



### スター★オブ ザ カラー リキッドファンデーション

ハリウッドでも有名なカオリ・ナラ・  
ターナーさんがプロデュース!  
保湿力は抜群で自然な肌感を生み  
出します。

30g 全4色 **4,220円**  
(通常料金4,620円) (税込・送料込)

商品についてのお問い合わせ、お申し込みは、お電話またはWEBから  株式会社 農協観光

Nツアー  
コールセンター

**0570-076-888**

平日 9:30 ~ 19:30 土日祝 10:00 ~ 18:00

 ショッピングサイト  
<http://ntour.jp/iimono/>

JAグループ向けお得な会員サイト  
<http://ntour.jp/e-jannet/>



農協観光

検索

地産地消 特産地消



Nツアー  
おすすめの  
1泊2食付き  
宿泊プラン

# こだわりの宿



「地産地消」×「国産」の  
こだわり食材を味わい、  
ゆったり贅沢な  
時間を楽しむ。  
こだわりの「逸品」に  
出会うおもてなしの旅。



全てJAのお米を  
使用しています  
食事付日帰りプラン  
も好評!



気軽にアクセス ◆新しい旅の情報をご紹介しています  
農協観光

索

## 好評発売中

お問い合わせは、最寄りの



Tour 農協観光

又は



JA旅行センター

まで

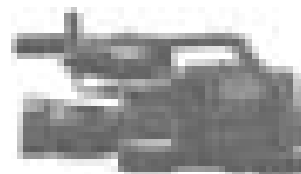
# (株) ビオルグ は青年農業

## ビデオ制作からインターネットまで幅広い

### □ AUDIO & VISUAL

ハイビジョン対応の撮影機材や編集設備と経験豊富なスタッフで迅速な制作体制を構築しています。

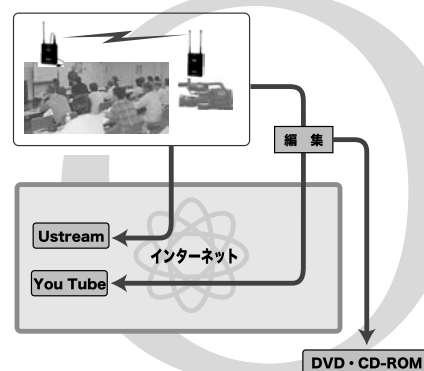
- 研修用ビデオ・DVD・CD-ROM教材制作
- イベント・セミナー記録ビデオ制作
- DVD、ブルーレイディスク制作・複製
- 展示会場等の携帯ガイドシステム



### □ IT & INTERNET

データセンターにおいて自社サーバを始め、お客様のサーバの保管・管理・運用を行うとともに、ホームページやWebデータベース、E-ラーニングシステム、CMS(Plone, WordPress)等の制作から運用・管理までを行っています。

- Webサイト(HTML&CMS)の構築・管理
- DB・E-ラーニングサイト等の構築・管理
- Webアンケートプログラム制作・管理
- イベント等のインターネット中継
- インターネット用動画作成・配信
- FLASH、CGIプログラム作成
- インターネットサーバ保管・管理



### □ PRINTING MEDIA

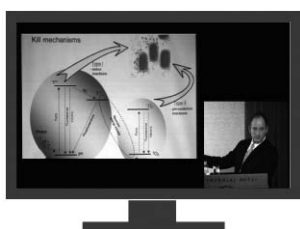
長年培ってきた農業に関する知識や番組制作に関する技術を生かした、雑誌や機関紙等印刷媒体の企画から取材・制作までを行っています。

- ポスター・リーフレット企画・制作
- 新聞・雑誌広告企画・制作
- 記事等の取材・制作

# 者を応援しています。

分野で皆様の活動をサポートします。

## 集合研修を低コストで全国研修へ



集合研修には、どうしても高額な経費がかかってしまいます。さらに著名な講師の貴重なお話を1回限りで終わらせるのはもったいないですね。

当社では、こうした貴重な講義をDVDに収録するサービスも低価格で行っています。講師の解説だけでなく、黒板への板書やパワーポイント、印刷教材などの資料を一つの画面に収めた分かりやすいDVD教材となります。もちろん、解説にあわせて画面効果を付けるだけでなく、小さい文字も読めるサイズに拡大して収録するなど、随所にノウハウが活かされた画面作りが行われ、分かりやすい教材が完成します。

DVDなら全国への配布も低コストで可能になります。

ぜひご活用ください。

## JA全国青年大会の撮影をしています



撮影中にご迷惑をおかけしますが、皆様のご協力をお願い致します。

本大会の記録DVDは、全青協事務局からの案内状を使いお申し込みください。

B | O R G

株式会社 ビオルグ

東京都渋谷区桜丘町 21-12 桜丘アーバンライフ A505  
TEL 03-3476-7167 FAX 050-3113-2327



# 現場で役立つ情報を提供

農業協同組合新聞は  
足で稼いで心でつながります。

- ◎専門紙の自覚をもって分析 「農政面」
- ◎JAの販売戦略に貢献する 「経済流通面」
- ◎生産現場で役立つ情報を提供 「営農技術面」
- ◎地域のなるほどを届ける  
「JA女性部・青年部活動面」



旬刊紙だから速報性はむしろ期待できない。が、その欠落を補って余りあるほど本紙の解説的報道は的確であり、優れています。農業・農村、そして農協の多面的な問題について、適任者による論説や有益な対談がいつも載っているのもこの新聞の特徴です。その登場者は、農業・農協関係者ばかりではなく、財界人もいます。この新聞ならではの、です。  
——梶井功氏（東京農工大元学長）

毎月10、20、30日（旬刊）  
年32回発行  
年間1万2000円（税、送料込）

購読のお申し込みはこちらまで  
一般社団法人農協協会  
農業協同組合新聞購読申し込み係  
TEL:03-3639-1121  
FAX:03-3639-1120  
E-mail:info@jacom.or.jp

# 国内最大級の「農業」「JA」関連サイト

## ◎毎日多くの人が…

「朝、出勤したらまずJA comを見る。毎日の仕事に欠かせない！」  
世の中の出来事をしっかり解説する「農業協同組合新聞」に対して、速報性というウェブの特性を活かしたサイトです。毎日4万5000～6万件のページビューがあり、農業やJAなど専門的に特化したニュースサイトとしては、異例のページビュー数を誇ります。

## ◎過去の記事がすべて読める

他社に先駆けて2000年にスタートしたJA comでは過去の記事がすべて読めます。最新情報から過去の掘り起こしまですべてのニーズに応えているのはJA comだけです。

## ◎豊富な人事情報

メーカー、行政、JAグループなどの詳しい人事情報やその地域内でしか情報が出回らないような各地JAの役員人事まで掲載しています。



**農協新聞**  **で検索**

URL : <http://www.jacom.or.jp/>

JA comはタイムリーな  
情報を日々発信します。

# 祝

## 第59回国 JA全大会 青年大会

# JA青年組織・農業の

DAILY INFORMATION; AGRICULTURE RESEARCH

# 日刊 アグリ・リサーチ

●日々の農業動向・  
キーパーソンを  
コンパクトな記事に



毎日の農業・農政・農協界の動向を、きめ細かく、かつ専門的・具体的な情報としてコンパクトな形で提供。農林水産省・JAグループ関連の人事、「今週の農業界の動き」、話題のキーパーソンの紹介や農林行政関係・農協事業と運動・アグリビジネスに係わる人の情報紙として発行しています。青年部リーダーの皆様の活動指針にお役立てください。

創刊 ●昭和41年2月  
体裁 ●B5判 横とじ 通常9ページ  
発行形態 ●日刊(土・日・祝祭日を除く)  
購読料 ●6か月分/30,000円(送料込・税別)  
1か年分/60,000円(送料込・税別)  
※メール配信の場合  
1か年分/50,000円(税別)

購読申込は、お名前、住所、  
郵便番号、電話番号を記入の上、  
メールあるいは

FAXでご送付ください。

<http://www.agripress.co.jp/agri/>

Eメール: [research@agripress.co.jp](mailto:research@agripress.co.jp)

FAX: 03-3233-3666

TEL: 03-3233-3583

◆体系的かつコンパクトで役にたつデータ集◆ 好評発売中!

## 年表・図説で見る 農業・経済・金融・JAグループ 歴史と現況



平成25年版

元協同セミナー理事長  
阿部信彦 編著

農業・経済・金融およびJAグループについて、産業組合スタート時から最近に至るまでの推移あるいは現在の姿を、さまざまな視点からテーマごとに年表、図説の形でコンパクトにまとめたもので、他に例のない利用価値の高い資料集。「歴史編」と「現況編」からなり、農業関連事項と農協事業の最近時までの情報データに、近時間心を持たれている資料を掲載しています。農業関係機関役員・農協関係組織リーダーの座右の一冊として、また研修講義等の教材としてもご利用いただけます。

A4判/114頁 定価1800円(税込・送料別)

### 本書の内容

#### 第I部 歴史編

- ・政治・経済・社会推移(1888~)
- ・財政・金融・経済主要指標推移(1945~)
- ・農林水産業主要指標推移
- ・各国の協同組合運動(1760~1930)
- ・日本の協同組合団体の100年史
- ・波瀾の半世紀と産業組合の活動
- ・戦時をはさんだ農業団体の変遷
- ・農地制度・農地政策の変遷(1868~)
- ・農業政策推移(1945~)
- ・農協運動推移/米をめぐる推移
- ・総合農協グループ各事業の請運動と事業推移
- ・農林中央金庫・農林漁業金融公庫推移
- ・農業協同組合数等の推移
- ・総合農協グループ貯金・貸出金等推移
- ・総合農協グループ販売・購買品目別推移
- ・総合農協グループ長短期共済、運用資産推移
- ・農事組合法人・農業生産法人数推移
- ・政治・経済・社会・農林水産業・系統団体年表

#### 第II部 現況編

- ・日本経済の循環と成長
- ・農産物の生産・消費構造
- ・農業および農家の社会動向
- ・販売農家の姿/農業の担い手
- ・総合農協グループの組織と役割
- ・総合農協グループの各事業現況
- ・専門農協系統経済事業現況
- ・都道府県別農産物粗生産額

#### <累年統計>

- ・産業組合数累年統計
- ・農業組合数累年統計
- ・産業組合連合会数累年統計
- ・農業協同組合数累年統計
- ・農協協同組合連合会数累年統計
- ・農協協同組合連合会数累年統計
- ・農事組合法人数等累年統計

付資料説明  
※上記は平成23年版  
掲載項目の一部です

●本の注文は **農業情報調査会** 〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-21 光和ビル  
TEL.03-3233-3581又は3583/FAX.03-3233-3666 Eメール: [research@agripress.co.jp](mailto:research@agripress.co.jp)

# 担い手を応援してまいります!!



創刊 ● 昭和27年11月 発行形態 ● 旬刊(毎月5、15、25日)  
 体裁 ● ブランケット判 購読料 ● 年間9,000円(送料・税込み)

日本の農業や農協は、そのあり方を含め根底からの改革を求められております。農業の法人化をはじめ新規就農の拡大、またアグリビジネスの展開をねらった異業種の参入などにより、「情報」のあり方も大きく変わってきているところです。

『日本農民新聞』は、大変革期にある食料・農業・農村に関わる農政、JAグループ、アグリビジネスの動向をわかりやすく情報提供するとともに、そのニュースの背景やキーパーソンに焦点をあてて、出来事の深層を報道することに力を注いでおります。青年部リーダーの皆様へ、日頃の情報収集・整理や活動指針の参考に『日本農民新聞』を是非ご活用いただきたくご案内を申し上げます。

日本施設園芸協会発行の季刊『施設と園芸』  
 『施設園芸ハンドブック』なども制作・販売しております。



**施設と園芸**  
 創刊 ● 昭和48年2月  
 体裁 ● B5判80頁  
 発行形態 ● 季刊(年4回)  
 購読料 ● 年間予約4,000円(送料・税込み)  
 1冊800円(送料別・税込み)



**施設園芸ハンドブック**  
 体裁 ● A5判534頁+資料編  
 定価 ● 6,300円(送料別・税込み)  
 ※5冊以上は送料当方負担

- 農政・JAグループ・アグリビジネスの動きがわかる
- 農業経済動向、農業新技術も細かく紹介
- 月3回発行、1年間で9000円!



購読申込は、お名前、住所、郵便番号、電話番号を記入の上、メールあるいはFAXでご送付ください。  
<http://www.agripres.co.jp/np/>  
 Eメール: kikaku@agripres.co.jp  
 FAX: 03-3233-3666  
 TEL: 03-3233-3631

**日本農民新聞社**  
 〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-21  
<http://www.agripres.co.jp/index.htm>  
 農林記者会・農協記者クラブ所属

# JA全青協 Facebookページを開設しました！！

facebook



平成23年度JA青年組織手づくり看板全国コンクール アート部門賞 JA中野市青年部（長野県）



**JA全青協（全国農協青年組織協議会）**  
いいね！ 326人・話題にしている人112人

団体  
全国農協青年組織協議会（JA全青協）は、全国の若手農業者による組織であり、豊かな地域社会を築くことを目的に、政策提言や食農教育、地域リーダーの育成などの活動を行っています。

基本データ

写真

いいね！ 326

JA青年組織綱領  
我々JA青年組織は本農業の担い手としてJAをよりどころに地

ノート 3

JA全青協の活動や、各青年部のイベント情報などを提供します！

JA全青協のホームページ更新情報を提供します！

JA青年部の盟友同士の情報交換の場を提供します！

ぜひ「いいね！」をお願いします



URLはこちら ↓

<http://www.facebook.com/ja.seinen>

Facebookアカウントが無くても閲覧できます！



# JA青年の歌 「君と」

作詞：一色 薫  
作曲：千葉一弘  
編曲：矢野立美

A



は るかな あ おぞらー きみ とかわす ほほ えみよ ー つば



さひろげ とび たつように この おもい たか まって ー

A



お それる こ となく とき をこえる きみとともに ゆめ



をもとめ かた りあかした せい しゅんは かぎりなく だ か ら

C



はるなつあきふゆ あ たらしいのち だいじにそだてて いこう そして



よろこびかなしみ きみとわかちあい しあわせきずいて いこう

## JA青年の歌 「君と」

遙かな青空  
君と交わす 微笑みよ  
翼ひろげ 飛び立つように  
この思い高まって  
恐れることなく  
世代を超え 君とともに  
夢を求め 語り明かした  
青春は限りなく

※だから 春夏秋冬  
あたらしい生命 大事に育てていこう  
そして 喜び悲しみ  
君とわかち合い 幸せ築いていこう

未来の果てまで  
愛を唄う ゆりかごよ  
風にそよぐ 緑の大地  
すこやかに やすらかに  
挫けることなく  
生きていこう 君とともに  
力強く かけがえのない  
青春はいつまでも

※だから 春夏秋冬  
ありがとう込めて やさしさ伝えていこう  
そして いつかはこの日を  
君と思い出す 輝く大地に立って

(※印くりかえし)  
(※※印くりかえし)





JA全青協公式サイト

ホームページ <http://www.ja-youth.jp/>

Facebookページ <http://www.facebook.com/ja.seinen>

←携帯電話、スマートフォンからのアクセスはこちらから